

右ハ利子之内エ正ニ請取候也

明治十六年未五月七日

上告人先代某印

被上告人宛

被上告乙第三號證

印紙

一金若干圓也

右ハ貸金元之内エ正ニ請取候也

明治十六年未五月七日

上告人先代某印

被上告人宛

被上告乙第四號證

印紙

一金若干圓也

右ハ貸金ノ内エ正ニ請取候也

明治十六年六月七日

上告人先代某印

被上告人宛

被上告乙第七號證

一端書ヲ以テ申上候云々某ヲ督促ニ及候處其命ニハ元利金共ノ内
 へ若干圓トシテ三ヶ年ノ割濟ニ被成下度様依頼モ有之候へ共迂生
 ニ於テハ前約定通り現金若干圓御持參相成候へハ濟方致候云々因
 テ此段御承諾アラシムコトヲ乞

明治十八年四月廿三日

上告被後見者

被上告人宛

本件ハ上告人三浦友八初審原告ニ於テ被上告人福井又三郎初審被告
 ニ對シ曾テ先代某カ貸與シタル金額九百五拾圓ノ借用證書ヲ掲ケ元
 利未濟金額若干圓ノ返濟ヲ請求スルニ在ルモ被上告人ニ於テハ本訴
 ノ金額ハ證書面九百五拾圓トアレモ其實七百圓ノ借用高ナルコトハ乙

第一號證^レ必要^ナケ等ニ依リ明カニシテ追々乙第二三四號證ノ如ク入金其際延滞利金若干圓ノ勘辯ヲ受ケ其後亦乙第五六號證^上代^カ告人^ノ先^シタル返金^ノ受領證^{ナル}ノ如ク入金尋テ曩ニ勸解ノ未濟口金トシテ若モ必要^ナケ^レハ畧ス^ルノ如ク入金尋テ曩ニ勸解ノ未濟口金トシテ若干圓ヲ入レ殘金若干圓ノ勘辯ヲ受ケ最早本訴ノ金額ニ對テハ盡スヘキ義務ナキモノナレハ其請求ニ應シ難キ旨答辯シタリ初審裁判所ハ本訴ノ金額ハ各證據書類ニ徴スルニ其實七百圓ノ貸金ナリトハ認定シタレ^レ被告^人カ利金及殘金ニ付前後兩回ノ勘辯ヲ受ケタリトノ申立ハ證據^ナシトシテ之ヲ斥ケ又乙第六號受領證ハ筆蹟^判明^ナラズ印影實印ナラスト云フヲ以テ之ヲ採用セス半ハ被告^人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ被告^人ハ之ヲ不當トシテ控訴セシニ終審裁判所ハ其判文第一條ニ於テ本訴ノ金額ノ實際七百圓ナルヲ判定シ其第二條ニ於テ乙第四號證ノ金額ハ甲乙兩號證共只受取トノミアリテ元利孰レニ受取タルモノナリヤ判然セサレ^レ之ヲ他ノ受領證ニ參照スルニ其

何等ノ明記ナキヲ觀レハ元金へ受取タルモノト爲シ其第三條ニ於テ債主カ返金ヲ受ルニ當リ利子ノ契約アルモノハ先ツ利金ノ部ニ受取リ餘裕アレハ元金ノ部ニ受取ルハ普通ノ慣例ナルノミナラス被告^人ニ於ケルモ亦然リ然レハ乙第三四號入金ノ際其利金ヲ釋放セサルニ於テハ之ヲ元利ニ受取ルヘキ筈ナルニ否ラスシテ之ヲ元金ノミニ請取リシハ即チ其利金ヲ釋放シタルモノナリト認定シ其第四條ニ於テ乙第六號證ノ被告^人ヨリ交附セシ受領證ナルヲ認メ又乙第七號證ノ現金若干圓御持參相成候得ハ濟方致候トアルヲ以テ見レハ當時若干圓ノ返還ヲ以テ不足金ノ釋放ヲ許諾シタルモノナリト判定シ被告^人カ若干圓授受ノ後ニ於テ尙ホ勸解願ヲ維持シ被告^人ニ於テモ當時出廷ノ猶豫ヲ請フタルハ其殘額ヲ釋放セサリシニ因ルトノ申立ニ對シテハ一ヶ月分ノ利金ニ付紛議ヲ生シ之カ示談ヲ遂ケン爲メ延期願ヲ出シタリトノ被告^人ノ辯解ヲ採用シ全ク被告^人ノ敗訴ト爲セ

シヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ即チ其要領ハ第一條原
 裁判所ハ其判文第三條ニ於テ利子ノ契約アルモノハ先ツ利子ノ部ニ
 受取ルヲ普通ノ慣例ナリト判定シタレトモ我國未タ曾テ此ノ如キ一
 定ノ慣習ナシ又義務ノ釋放ハ尋常ノ事實ト異リ漫リニ推測斷定スヘ
 カラス必スヤ明證ナカラサルヘカラス又甲第三號乃至第六號證ヲ閱
 スルニハ元金ハ元金ノ内ヘ受取リ利子ハ利子ノ内ヘ受取リト特記シ
 アレハ單ニ受取トノミ記載シアルモノハ寧ロ元利ニ受取リタルモノ
 ト推測セサルヘカラス又乙第二號證ニ利子ノ内ヘ受取リト明記アル
 上ハ尙ホ利子ノ殘存スルモノアリテ未タ濟方トナラサルヲ明カナレ
 ハ乙第二號證ハ利子ヲ釋放セサルノ證トコソナルヘキ筈ナリ然ルニ
 前顯ノ如キ推測ヲ下セシハ不法ノ裁判ナリトノ事第二條原裁判所ハ
 其判文第四條ニ於テ乙第七號證ヲ採テ殘額釋放ノ證ト爲シタレトモ該
 證ノ成立明治廿八年三月ヨリ金圓ノ授受同六年六月迄ハ其間實ニ二月ヲ經

過シタレハ被上告人ノ承諾ハ上告人カ提出シタル意思ノ既ニ消滅シ
 タル後ニ係ルノミナラス之ヲ釋放セサルノ事實ハ右ノ金圓ヲ取次タ
 ル山尾榮太郎ナルモノニ交付シタル受取證ニ元利ノ内トアルト金圓授受ノ
 後上告人カ尙ホ勸解ヲ維持シタルトニ依リテ明カナリ然ルニ原裁判所カ同
 條前段ニ於テハ殘額釋放ノ判定ヲ與ヘタルニモ拘ラス其後段ニ於テ金
 圓授受ノ後尙ホ本訴貸借金部内ノモノニ付示談ヲ要スルモノアリシトノ
 被上告人ノ辯解ヲ採用シタルハ前後牴牾セル不法ノ裁判ナリトノ事ニ
 在リ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ
 其理由ニ曰ク第一條上告第一條并ニ追申書第一條ヲ按スルニ習慣ノ
 有無ヲ判定スルハ事實點ニ屬スルヲ以テ先ツ利金ヲ受取リ餘裕アラ
 ハ元金ニ受取ルハ普通ノ慣例ナリトノ原裁判ニ對シ一定ノ習慣ナシ
 トノ論告ハ本院ニ於テ審査スヘキ限リニ非ス又義務ノ釋放ハ推測斷
 定ス可カラスト云モ法律上特ニ制裁アルモノ、外證憑ヲ取捨シテ諸

般ノ事實ヲ論定スルハ事實裁判所ノ權内ニ屬スルヲ以テ此論告モ相立タス其他甲第三號乃至六號證及ヒ乙第二號證ヲ援引シテ論告スル所アレヒ是亦事實認定上ノ非難ニシテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第二條 上告第二條并ニ追申書第二條ヲ按スルニ上告人ハ乙第七號證發付ノ後二ヶ月經過セシヲ以該證ノ趣旨ハ既ニ消滅シタリト論告スレモ月日ノ經過ニ依リ右等ノ趣旨ヲ消滅シタリト看做スヘキ法律上ノ規定ナクシテ上告人ニ於テ之ヲ取消サ、ル内被上告人ヨリ該證ノ需メニ應スルニ於テハ上告人ハ之ヲ承諾セサルヲ得ス又證據ノ取捨ハ事實裁判所ノ權内ニ屬スルヲ以テ上告人ヨリ榮太郎ナル者ヘ交付シタル受取證ノ如キハ原裁判所ノ取捨ニ任セサルヲ得サルモノナリ而シテ勸解云々ハ乙第七號證ノ趣旨ニ異議ナク取引ヲ了シ他ノ一部分一ヶ月ノ利子ニ關シ更ニ紛議ヲ生シ之カ爲メ延期願ヲ差出セシ事實ナリト認定シタルモノニ付是亦裁判ノ理由ニ牴牾アル不法ノ

裁判ト云ヲ得ス

○貸金催促ノ件 明治三十九年 第二百三十八號

大阪府大和國添上郡奈良木辻町九番地平民席貸業松塚喜六同府同國同郡藥師堂町十七番地平民宿屋業八尾丑松 代言人藤正太ヨリ同府同國山邊郡毛原村千百五番地平民中森淺造ニ係ル

初審 奈良治安裁判所
終審 奈良支廳

本件ハ上告人松塚喜六及八尾丑松 初審原告ヨリ兩通ノ貸金證書外數通ノ證據書類 總テ必要ナケレハ略スヲ掲ケ被上告人中森淺造 初審被告ニ對シ起訴シタルモノナルモ被上告後見人某ニ於テハ被上告人淺造ハ從來癡狂者ニシテ本訴ノ金員ハ曩ニ同人カ家出シテ上告人ノ一人ナル八尾丑松方ニ止宿中他ノ一人ナル松塚喜六方ニ至リ遊興ニ浪費シタル金員ナルモ右ハ其際迎トシテ出向タル親族ヨリ既ニ之ヲ辨償シタレハ

最早義務ナキハ勿論本訴ノ借用證書ハ全ク上告人等カ淺造ノ發狂ニ乘シ共謀シテ作爲シタル虚偽ノ證書ナレハ決シテ其請求ニ應シ難キ旨數通ノ證據ヲ擧ケテ之ヲ主張シ上告人等ニ於テハ本訴ノ貸金證書ハ彙ニ支拂ヲ受タル金員トハ全ク別途ノモノニシテ一ハ他ノ遊興代一ハ洋服帽子時計代及現金ニテ貸與セシ金員ナルノミナラス淺造カ其成立ノ當時癡狂者ニアラサリシ事實ハ證據書類ニ徴シテ明ナル旨主張シタリ初審裁判所ハ被上告人ノ陳辯ヲ斥ケ本訴ノ貸金證書ハ彙ニ支拂ヲ受タルモノトハ全ク別途ノ金員ニシテ同證成立ノ當時ニ在テハ淺造ハ未タ癡狂者ニアラサリシモノト認定シ被上告人ノ敗訴ト爲セシモ終審裁判所ハ之ニ反シ其判文ノ冒頭ニ於テ中森淺造ハ山村育チノ通常ノ一農夫ナルニ最初ヨリ所持ノ金ナキニモ拘ラス僅々數日間ニ若干圓ノ大金ヲ浪費シ恬トシテ意トセサルモノ、如シ斯ノ如キハ辨理心アル通常ノ農夫ニシテ絶テ有ル可ラサル事ナリ然レハ本訴ノ

借用證書ハ淺造カ自ラ記名調印シタルモノトスルモ當時已ニ精神錯亂シ居リタルモノト認定スルニ足レリト爲シ尋テ淺造カ入院セシ大阪病院へ終審裁判所ヨリ當時ノ病症ヲ問合セタル回答ニ初診患者ノ應答療治中ノ言語等ニ於テ精神ニ變常之レ有ルヘク察セラルトアリタルト癡狂病院長ノ診斷書及淺造カ今尙ホ病中ナリト云フヲ以テ淺造カ癡狂ノ一事ニ於テハ疑ヲ容ルヘキ所ナシト認定シ淺造カ本訴借用證書ノ金額ヲ事實浪費シタルモノトスルモ精神ノ錯亂者ヲ辨知セスシテ其求ニ應シタルハ上告人等ノ過失ナルヲ以テ上告人等ハ其金額ヲ請求スルノ權利ナキノミナラス癡狂者ノ手ニ成リタル證書ナレハ果シテ其證書ノ實アルヤ否ヤモ亦知ル可ラスト判定シ初審ノ裁判ヲ平翻シテ上告人ノ敗訴ト爲シタリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一條原判官カ被上告人ヲ強テ狂者ト爲サントスル原判文冒頭ノ説明ハ却テ普通ノ人情及實例ニ反シタル不法ノ妄斷ナ

リトノ事第二條大阪病院ノ回答ハ結審後原判官カ一己ニテ收取セシ
 證據ニシテ毫モ兩造ノ知ラサルモノナルニ歴然之ヲ採リテ判文ニ掲
 ケ被上告證ヲ援助シタルハ聽斷ノ定規ニ乖キタル不法ノ裁判ナリト
 ノ事第三條假リニ遊興代金ハ請求スルヲ得サルモノトスルモ洋服帽
 子時計代及現金ニテ貸與シタル金員ハ上告人カ當時狂者ナルヤ否ヲ
 辨知セス正實ノ意ヲ以テ貸與シタルモノナレハ狂者ナリトテ返辨ノ
 義務ヲ免レ得サルハ普通法理ナルニ之ヲモ請求スルノ權利ナシト斷
 定シタルハ法理ニ背キタル不法ノ裁判ナルノミナラス本訴ノ證書ヲ
 以テ無實ノ證書ナルヤモ知ル可ラスト迄進入シタルハ越權ナリトノ
 事ニ在リ然レモ大審院ハ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシト認メ受理セ
 スト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一條ヲ按スルニ原裁判所ノ權内ニ立入り
 事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

第二條 同第二條ヲ按スルニ原裁判所カ兩造ノ知ラサル書類ヲ採テ
 判決ノ材料ニ供シタルハ聽斷ノ定規ニ背クト雖モ被上告者カ當時既
 ニ精神錯亂シ居リタルモノト認定シタルハ特リ右書類ニ依リタルニ
 非ス原判文冒頭ノ理由ニ依リタルモノナレハ其認定ヲ動カシ得ヘカ
 ラサル上ハ他ニ欠失ノ點アルモ之ヲ以テ原裁判ヲ破毀スルニ足ラサ
 ルモノトス

第三條 同第三條ヲ按スルニ上告者ハ洋服帽子時計代及現金ニテ貸
 與セシモノハ返辨ヲ受クヘキノ道理アリト云フモ右物品カ被上告者
 ノ爲メ必要欠クヘカラサルノ具タラサル以上ハ尙ホ遊興ノ費金ト同
 シク浪費ニ屬スヘキモノナルヲ以テ其現品ヲ取戻スハ格別代金ノ辨
 償ヲ受クヘキ道理ナキモノトス依テ本條モ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○貸金催促ノ件 明治十九年
第二百五十三號

茨城縣常陸國新治郡土浦内西町八番地寄留同縣平民谷田川忠左

代言人内ヨリ同縣同國同郡高岡村百二十二番地平民僧小林祖鑑
藤五郎ニ係ル

初審 土浦治安裁判所
終審 土浦支廳

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ
上告甲第一號證

假證書
印紙
一金若干圓也

右ハ筑波郡下大島村飯竹喜作云々四名ノ者ニテ入用金ニ付云々借
用仕候處同人等出先ニテ證書捺印方差支候ニ付右金若干圓拙者ニ
於テ受取使用爲致候處實正也然ル上ハ來ル三十日限り別紙二通ノ
證書相認メ爲差出可申候方一期日迄ニ證書差出方相拒ニ候節ハ私
方ニ於テ引受前約ノ通り無相違元利皆濟仕貴殿へ聊御損害相掛ケ

申間敷候云々

明治十八年六月廿四日

被上告人外一名印

上告人代理某宛

本件ハ上告人谷田川忠左初審終審ヨリ被上告人小林祖鑑初審終審ニ
共ニ原告對シ甲第一號證ヲ掲ケ被上告人カ期日飯竹喜作外三名ノ連帶證書ヲ
差入ル、フヲ怠リシヲ以テ契約ノ如ク被上告人ヨリ該金額ノ辨償ヲ
受タシト認求スルモノニシテ被上告人ニ於テハ甲第一號證ハ上告人
ノ代理某ト締結シタルモノナレハ期日約ノ如ク引換ノ證書二通被上
告人ニ付履行スルヲ能ハサリシモノニシテ被上告人ノ違約
ニアラスト云ヒ上告人ニ於テハ其期日某ハ他出シタルコトナシ假リニ
不在ナリシトスルモ本人タル上告人ノ在ルアレハ被上告人ニ於テ契
約ヲ履行シ難キ謂レナキノミナラス甲第一號證ニ指示スル二通ノ證

書ハ連帶者四名ノ約定ナリシニ今被上告人カ提出シタル證書ハ何レモ三名ノ連帶ナレハ是レ亦被上告人ニ違約ノ責アルモノナリト主張シタリ然レモ初審終審共ニ被上告證其他引合人ノ陳述等ニ依リ甲第一號證ノ期日上告人ノ代理某ノ不在ナリシコトハ明白ナリト認メ甲第一號證ハ被上告人カ右代理某ト締結セシモノニ付期日某ノ不在ナリシ上ハ被上告人ハ上告人ニ對シ其約定ヲ履行スルヲ要セサルモノト爲シ且被上告證其他ノ徵憑ニ依リ甲第一號證ハ四名連帶ノ證書ヲ差入レシムルコトヲ約定シタルモノニアラスト認定シ上告人ノ認求ヲ斥ケタルヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ縷々上告スル所アリシニ大審院モ亦原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ其理由ニ曰ク第一條上告ノ旨趣ヲ審按スルニ本件ハ被上告人ニ於テ飯竹喜作等記名ノ借入金證書ヲ期日ヲ定メ上告人へ差入レンコトヲ約シ若シ其期ヲ愆ルモ被上告人自カラ借金辨濟スヘキ旨引受ケタル

ヨリ起ルモノニシテ争訟ノ點ハ被上告人ニ辨濟ノ義務ヲ生シタリヤ否ニ在リ原裁判所ハ被上告人ニ怠リナク隨テ辨濟ノ義務ナシト判決シタリ此判決タルヤ毫モ不法ト論スヘキ筋ナシ如何トナレハ總テ本件契約ノ如キ場合ニ於テハ權利者ヨリ一應ノ催促ヲ爲シ義務者ニ期限到來ノコトヲ告知シ義務者尙之レニ應セサルニ及ンテ始メテ怠慢者ノ處分ヲ爲スヲ得ヘク只期限ノ經過ノミヲ以テ直チニ怠慢者ト爲スヲ得サルヲ一般ノ法理トス上告者ハ之レニ反シ期限ノ經過ノミヲ以テ直チニ義務者ヲ怠慢者ノ地位ニ措キ併セテ原裁判ヲ非難スルモ上文辨明ノ如クナルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス

第二條 甲第一號證ト交換スヘキ證書ハ四名ノ連借證書ナリヤ將タ三名ノ連借證書ナルヤノ論告ハ事實上ノ事柄ニ屬シ是又上告ノ理由ナキモノトス

○貸金催促ノ件 明治二十年

福岡縣豐前國企救郡小倉大門町百九十八番地平民宮崎國太郎代
人井本ヨリ同縣同國同郡日明村三百五十八番地平民木村清造ニ
常治
係ル

初審 小倉治安裁判所
終審 小倉支廳

本件ハ上告人宮崎國太郎初審原告ニ於テ一通ノ貸金證書ヲ掲ケ被上
告人木村清造初審被告ニ對シ起訴シタルモノニシテ其爭點ハ被上告
人ニ於テハ本訴ノ借用金ハ曩ニ上告人ノ總理代人タル山本萬次郎ヘ
若干圓ヲ返却シ三四號證トシテ受領證ニ通テ提供殘金僅ニ若干
圓ヲ餘スノミナルニ上告人カ之ヲ控除セスシテ請求スルハ不當ナリ
ト云ヒ上告人ニ於テハ被上告人カ提供スル受領證ノ印影ハ上告人カ
曩ニ萬次郎ヲ解任シタル際取揚ケ置キタル同人受任中ノ印影ニアラ
サルヲ以テ該證ハ其成立不正ノモノニ付控除スヘキ理由ナシト主張

シタリ初審裁判所ハ右受領證ヲ以テ不正ノ證書ナリト認定シ上告人
ノ勝訴ト爲セシモ終審裁判所ハ之ニ反シ上告人カ萬次郎ノ總理代人
ヲ解キタルヲ被上告人ニ通知シタルヲナキト被上告人カ萬次郎ト
不正ノ契約ヲ爲シタルノ證左ナキトヲ觀レハ被上告人ハ萬次郎ヲ以
テ上告人ノ總理代人ナリト信シテ右受領證ノ如キ返金シタルモノト
認メサルヲ得スト爲シ其日附ノ解任以前ニアリテ萬次郎ノ手ニ成タ
ルニ相違ナキ以上ハ其印影ノ上告人カ取揚ケタルモノト異ナリト雖
モ其効ヲ異ニスルモノニアラスト判定シ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以
テ上告人カ之ヲ不法トシテ縷々上告シタル要領ハ第一點上告人ハ山
本萬次郎ヲ總理代人ニ委任スルニ當リ之ヲ各負債者ニ通知セシヲナ
ケレハ隨テ之ヲ解任スルモ其通知ヲ爲スノ責務アルモノニアラスト
ノ事第二點萬次郎カ押用シタル印影ニシテ實印ト相異ナルキハ實印
ノ効力アルモノニアラストノ事ニ在リ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法

ノモノト認メ受理セスト判決シタリ
 其理由ニ曰ク上告第一點ヲ按スルニ總理代人ヲ選任スルノ初メニ該
 ツテハ之ヲ各負債者等ニ通知セサルモ之カ爲メ其各負債者ニ對シ害
 ヲ與フルノ恐レナキヲ以テ其通知ヲ爲サ、ルモ妨ケナシト雖モ其委
 任數閱月ノ後之ヲ解任スルニ該ツテハ本人ニ於テ必ス之ヲ各負債者
 等ニ知悉セシムルノ方法ヲ盡スノ責務アルモノトス如何トナレハ其
 總理代人タル者カ授任中本人ノ爲メ世上ニ對シ事ヲ處スルノ間漸ク
 他ノ各人ヲシテ其總理代人タルヲ信認セシメ遂ニ之ニ對シ負債辦濟
 等ノ事アラシムルノ虞無シトセサレハナリ依テ上告者ニ於テ萬次郎
 ヲ代人ニ委任スルヤ曾テ各負債者ニ通知シタルコトナキヲ以テ之レカ
 解任ヲナスニモ其報告ヲナスノ責務ナシト云フコトヲ得ス
 同第二點ヲ按スルニ上告者ハ乙第三四號證ノ印影異同ノコトニ關シ繼
 々論告スト雖モ凡ソ證書ヲ記シ印影ヲ押捺スルハ畢竟或ル事實ヲ後

日ニ證明スルノ具ニ過キサレハ其事實明ラカナルノ日ニ該ツテハ其
 證書ナシト雖モ其事實ノ成立ニ關シ毫モ妨ケナキモノトス況ンヤ其
 印影ノ異同ニ於テヲ依テ原裁判所カ右證書云々萬次郎ノ手ニ成タ
 ルニ相違ナキ以上ハ其印影ノ被扣訴人カ取揚ケタルモノト異ナリト
 雖モ其効ヲ異ニスルモノニ非ストノ判決ハ非難スヘキ廉ナキモノト
 ス要スルニ原裁判所カ上告者ヲ敗訴セシメタルハ印影異同判決ノ點
 ニ在ラサルヲ以テ此判決ニ對シ尙他ニ申立ル所在リト雖モ本上告ニ
 關シ格別緊要ト認メサルヲ以テ一々辯明ヲ爲サス

○貸金催促ノ件 明治廿年 第百十二號

静岡縣伊豆國田方郡湯ヶ島村人民總代同村四拾貳番地平民青木
 茂外一名 代言人 田ヨリ同縣同國同郡同村拾三番地平民足立義平
 代言人 小川三千三ニ係ル

初審 静岡始審裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

上告第一號證

證

一金若干圓也

前書之金圓借用候處實正也返濟ノ義ハ本年六月廿日限り無相違

返金可仕候云々

明治十九年四月廿三日

借用人被上告人 足立義平印

引受人

某 印

上告人青木茂外二名宛

以上ヲ上告人ノ證據書類トス

被上告第一號證

詔書

山林字小字之畧ス

合七ヶ所

右ハ今般拙者所有之山林堺界外本村持秣場山前記之ヶ所私ニ侵殖候處今回發覺致御村方ヨリ御糺ヲ蒙リ一言之申譯無之依テ某等ヲ以テ御詔申上候處濟口左ニ

一前記山林侵蝕之分ハ悉皆御村方へ返上致シ可申事

一將來拙者所有ノ山林堺界外ハ假令一塊タリヒ侵入致間敷候事

一今回山林侵殖云々之件ニ付不啻御手数相懸候間右贖費トシテ

金若干圓ヲ差出可申事

右之通格別之思召ヲ以テ内濟御開届被下置云々

明治十九年四月廿三日

本人 被上告人足立義平印

親戚

二名 印

詔人

三名 印

湯ヶ島村人民惣代宛

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス

本件ハ上告人青木茂外壹名^{初審原告}ニ於テ被上告人足立義平^{初審被告}ニ對シ上告第一號證貸金ノ請求ヲ爲スモノナルモ被上告人ニ於テハ上告第一號證ノ借入金ハ明治十九年中上告人等ニ於テ被上告人カ所有山林ヲ圍出シ共有秣場ヲ侵蝕シタリト村民ヲ煽動シ被上告人ニ無根ノ強迫ヲ加ヘ恣ニ其境界ヲ定メタル際被上告人カ其強迫ヲ恐レ一時之ヲ鎮靜セン爲メ不得止被上告第一號證ノ謄書ヲ差入レタルト同時ニ其第三項ノ金額ヲ上告第一號證ニ取結ヒタルモノニシテ全ク強迫ノ爲メ錯誤ヨリ無原因ノ契約ヲ爲シタルモノナレハ其請求ニ應ス可キ義務ナキ旨主張シタリ初審裁判所ハ上告第一號證カ錯誤ヨリ成立シタリトノ徵證ナシト云フヲ以テ被上告人ノ抗辯ヲ斥ケタルモ終審控訴院ハ被上告人カ本訴ノ初審以後ニ起訴シタル山林境界引直

シ事件ノ目下訴訟中ナリト云フヲ以テ上告第一號證ハ其由來スル所被上告第一號證第三項ノ贖金ヨリ成立シタルモノニシテ山林境界爭論ニ付テノ損害ヲ償ハシムルノ意ニ出テタルヲ明瞭ナルモ被上告人カ其山林境界ヲ侵シタルヤ否ヤハ即今訴訟中ニシテ未タ判然セサル所ナレハ其曲直確定セサル以前ニアリテ之カ損害ノ責任ヲ定ムルハ道理ノ許サ、ル所ナルハ勿論其損害ヲ生シタル舉證ナキヲ以テ所謂原因ナキ契約ニシテ取消シ得可キモノナリト認定スト上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ原控訴院カ本訴初審以後ノ起訴ニ係ル山林境界引直シ事件ノ訴訟中ナリト云フヲ以テ其以前ニ異議ナク結約シタル上告第一號證ヲ無原因ノ契約ナリト認定シタルト被上告第一號證第三項ノ確證アルノミナラス性質ヲ異ニシテ返濟期日迄モ約シタル上告第一號證ノアルニモ拘ハラズ損害ヲ生シタル舉證ナシト判定シタルトノ二點ニ付纏々其不法ナルヲ上告シタリ依テ大審院ハ原

裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ
 其理由ニ曰ク上告一二點ノ旨趣ヲ審按スルニ本件ハ明治十九年四月
 廿三日被上告人カ山林侵蝕云々ニ付双方ノ合意上償金トシテ上告第
 一號貸借證差入事濟トナリタルモノニ付法律上容易ニ取消シ得ヘキ
 筋ニアラス然ルニ原裁判所於テ被上告人カ本件始審ノ審判後ニ起訴
 シタル山林經界引直シ事件ノ審理中ナル譯ヲ以テ未タ曲直ノ判然セ
 サルモノト爲シ曲直確定セサル以前ニアリテ損害ノ責任ヲ定ムルハ
 道理ノ許サ、ル所ト言渡タルハ不法ナリトス如何トナレハ後日ニ訴
 訟ヲ起シタルノミヲ以テ一旦合意上爲タル事柄ヲ取消シ得ヘキモノ
 トスレハ何事ト雖モ確立スルヲ能ハサルニ至ルヘケレハナリ又損害
 ヲ生シタルニ付テハ被上告者モ其第一號證書ノ如ク明認スル所ニシ
 テ之カ借金證書ヲモ差入タルモノナレハ此上猶證據ヲ索ルノ必要ナ
 キニ原裁判所於テ其損害ヲ生シタル舉證ナシト言渡タルハ是亦責任

ナキニ責任ヲ負ハセタルノ不法アルモノトス

○貸金催促ノ件明治廿五年

三重縣伊勢國一志郡川原木造村拾七番地平民林芳三郎代言人加藤元
 田ヨリ同縣同國桑名郡桑名船馬町第四十五國立銀行桑名支店支
 配人行岡宗助ニ係ル

初審 安濃津始審裁判所

終審 名古屋控訴院

本件ニ必要ナル證據書ハ左ノ如シ
 被上告第一號證

證書

拙者義今般三重製茶會社ノ規則ニ遵テ其社ニ入り粵ニ壹拾株金一
 千圓丈ケノ株主タル證トシテ拙者所有ノ地所別紙調書ノ通書入候
 處確實也然ル上者會社營業年限中ハ本社資本ノタメ役員ハ此證書

ヲ以テ官民ヲ不論金壹千圓ヲ限リ借用金ノ抵當ト爲ス事ヲ委任セ
リ拙者ハ此證書持主ニ對シ返金ノ義務ヲ盡スヘシ萬一會社ニ於テ
損毛相立株券ノ金額ニ割當消却スルニ際セハ役員ハ此證書ヲ以テ
其割當金ヲ請求スルモノトス云々

明治十五年五月八日

上告人印

三重製茶會社

取締某宛

(以下抵當地所反別地價戶長與印等之ヲ略ス)
番號

本證書ハ三重製茶會社ヨリ第四十五國立銀行津支店へ抵當ニ差入
今般公賣シ第四十五國立銀行桑名支店支配人行岡宗助へ相渡シ候
條此證書ノ金額ハ同人へ濟方可致者也

明治十九年十二月四日印

安濃津始審裁判所

本件ハ被上告人行岡宗助^{初審原告}ヨリ上告人林芳三郎^{初審被告}ニ對
シ起訴シタルモノニシテ其請求ノ要旨ハ本訴被上告甲第一號證ハ彙
ニ被上告銀行カ三重製茶會社ヨリ貸金ノ抵當トシテ領收セシモノナ
リ然ルニ同會社カ返金ノ義務ヲ盡サ、ルヨリ訴訟ノ未遂ニ公賣處分
ニヨリ右證書ノ債主權ハ被上告銀行ニ移轉シタリ依テ上告人ニ對シ
彙ニ製茶會社ニ貸付タル金千圓ノ元利合計若干圓ノ返還ヲ請求スト
云フニ在ルモ上告人ニ於テハ被上告甲第一號證ハ上告人カ三重製茶
會社ニ金壹千圓ノ株主タル證トシテ差入レタルモノナレト賣買讓渡
ヲ認諾シタルモノニアラサレハ裁判所ト雖モ之ヲ公賣スルノ權ナキ
ト明ナルニ裁判所カ明治七年司法省第二十三號達第一條ノ場合ニモ
アラサルニ上告人ノ承諾ヲモ埃タス其眞偽ヲモ糺サス之ヲ公賣シ被
上告人ニ下付シタルハ頗ル專橫ノ處分ナルヲ以テ通常一般ノ證書讓
渡シト均シク明治九年第九十九號布告ニ依リ之ヲ書換ヘシムルニア

ラサレハ賣買讓渡ノ効力ナキノミナラス假リニ其處分ヲ適法ノモノトスルモ甲第一號證末文萬一以下ノ文詞ハ該證契約ノ主眼ナレハ此未必條件ノ到達セサル限りハ會社ハ一厘タモ上告人ニ對シ請求スルノ權利ナキヲ明ニシテ現今會社ハ果シテ上告人カ有スル株金壹千圓ニ滿ツル丈ノ損失ヲ生シタル乎決シテ然ラサルナリ然ラハ被上告人ハ裁判所ノ處分ニ依リ之ヲ買得シタレハトテ會社カ有セサル權利ノ移轉ヲ受クヘキ理由ナケレハ上告人ニ係リ本訴ノ金員ヲ請求スヘキ權ナキヤ勿論ナリ加之上告人ハ甲第一號證ノ債主權ヲ得タリト主張シナカラ既ニ該證ノ公賣處分ニ依リ落着シタル製茶會社ニ對スル貸付金ノ元利金ヲ請求スルト云フカ如キハ益々不當ノ甚シキモノナリト主張シタリ初審裁判所ハ明治七年司法省第二十三號達ハ先取權ヲ有スル債主ナキ證書ヲ身代限りニ遇フ者カ所持スル場合ヲ指示セシモノニテ本訴甲第一號證ノ如キニ適用スヘキモノニアラサレハ裁判所

カ之ヲ公賣シタルハ違法ノ處分ニアラス左スレハ證書ヲ書換ヘサルモ其債主權ハ有効ニ賣得者ニ移轉シタルモノニシテ明治九年第九十九號ノ布告ハ裁判所ノ處分ニ因リ賣買スルモノニ適用スヘキモノニアラスト認定シ又被上告人カ該證ヲ買得シタルハ證書中拙者ハ此證書持主ニ對シ返金ノ義務ヲ盡スヘシトアル契約ヲ目的トシタルモノナレハ會社ノ損益如何ハ被上告人ノ關知スル所ニアラスト判定シ上告人ハ敗訴ト爲シ終審控訴院モ亦甲第一號證ノ文詞ニ據ルキハ特リ會社カ該壹千圓株金ノ全額ヲ要スルキ其抵當物ヲ賣却スルモ該金ニ不足ヲ爲サシメストノ旨趣ナルノミナラス會社カ此證書ヲ以テ金壹千圓迄ノ借用金ノ抵當トナスコトヲ其役員ニ委任シ會社役員ハ其受任權ヲ行ヒ之ヲ被上告銀行ヘ壹千圓ノ抵當ト爲シ遂ニ會社カ其借金ヲ返償スルコトヲ得サルヨリ裁判所ノ命令ニ依リ之カ執行ヲナシタルモノナリ抑モ甲第二號證書公賣ノ命令書ナルモノノ旨趣ナルモノハ抵當物件ヲ公賣セシメ尙ホ不

足アルニ至レハ會社他ノ財産ニ及ハシムヘキ筋合ナルニ付之カ公賣ヲ行ヒタルニ該抵當ノ物件ニ對シ落札ノ金額ハ其請求ノ金額ニ相當シ敢テ不足金ヲ生セシモノニアラサレハ被上告人^{上告人ノ}誤リ乎^{カ他ノ}會社財産ニ對シ喙ヲ容ルヘキモノニアラス且ツ甲第一號證ハ被上告人カ從來抵當ニ取置其真否如何ヲ勘査スルノ必要ナケレハ固ヨリ明治七年司法省第二十三號布達ノ支配スヘキモノニアラサルノミナラス甲第一號證ヲ被上告人カ落札セシハ舊製茶會社カ受任ノ條件ヲ執行セシニ是レ依リ且ツ其債主ニ對シ借金一千圓ノ抵償ト爲シ當時契約ノ利子ヲ附着シタルモノナレハ舊製茶會社ニ對シテ精算ヲ求ムルハ格別己レ既ニ該時約ノ證書ヲ差出シ置キナカラ今更該證書ノ持主ナル被上告人ニ該金ノ請求ヲ抗拒スヘキノ理由ナシト判定シ共ニ上告人ノ敗訴ト爲シタリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一項原控訴院カ凡ソ證書ノ公賣ハ身代限ノ場合ニ限ルモノニ付明治六年第九十九號公布ニ隨ハサル本案證

書ノ公賣ハ無効ナリトノ上告人ノ申立ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ不法ノ裁判ナリトノ事第二項原控訴院カ甲第一號證ハ從來之ヲ抵當ニ取置云々司法省第二十三號布達ノ支配スヘキモノニアラスト言渡シタルハ該布達ノ法意ニ背キタル不法ノ裁判ナリトノ事第三項被上告人カ本訴甲第一號證ヲ得タルハ公賣ニ依テ得タルモノニ付前ノ債權トハ全ク關係ナキモノニシテ公賣ニヨリ被上告人ニ移轉シタル權利ハ前所有者即製茶會社カ有セシ權利ニ外ナラストハ上告人カ原控訴院ニ向テ極論シタル所ナルニ原控訴院カ之ヲ審判セサリシハ不法ノ裁判ナリトノ事第四項上告人カ甲第一號證ヲ差入レ臨時金員借入ノ抵當ト爲スヲ認諾シタル上ハ姑ク其之ヲ信シテ抵當ニ取リタル債主ニ對シテハ貸借ノ責ヲ負フヘキ結果ヲ生スルモノトスルモ一旦公賣處分ニヨリ入札人ノ手ニ移ルニ至リテハ此レ其貸借ノ債主權カ移ルニアラスシテ會社ノ該證ニ對スル權利カ移ルモノナレハ之

ヲ落札セシ者ハ會社ノ代權者ト爲リ會社カ株主ニ對シテ有スル平等分擔請求ノ權ヲ行フノ權アルノミナルニ原控訴院カ被上告人ニ對シ該金ノ請求ヲ抗拒スルノ理由ナシト判定シタルハ不法ノ裁判ナリトノ事第五項被上告人ノ製茶會社ノ代權者タルニ過キサルコトハ前項ノ如ク爭フ能ハサル所ナリ左スレハ上告人ハ同會社ニ向テ精算ヲ求ム可キ權利アルノミナラス其同會社ノ負債ハアルニモセヨ一般商社ノ通則ニヨリ株主分擔ヲ請求ナス可キ權利アルコトハ他ニ之ヲ禁止スルノ法律規約ナキヲ以テ明瞭ナルニ原控訴院カ第三項ノ論點ヲ不問ニ付セシヨリ上告人ハ他ノ會社ノ財産ニ對シ喙ヲ容ルヘキモノニアラスト云フカ如キ毫モ本案ニ關係ナキ事柄ヲ擧テ上告人ノ論旨ヲ排斥シ被上告人ノ請求ヲ拒抗スヘキ理由ナシト云フカ如キ筋違ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリトノ事ニ在リ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セズト判決シタリ

其理由ニ曰ク上告要領第一項ヲ按スルニ明治九年第九十九號ノ公布ニハ金穀等貸借ノ證トアリテ此公布ハ本件被上告一號證ノ如キ貸借證書ニアラサルモノ、賣買讓與ニ適用スヘキモノニ非サルヲ以テ原裁判所カ右ノ布告ヲ援引シタル上告人ノ論辯ニ說明判決ヲ與ヘサルモ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

同第二項ヲ按スルニ明治七年司法省第二十三號達ハ身代限りニ遭フ者カ所持スル金穀貸付證文ノ取扱振ヲ各裁判所ヘ指シ示シタル迄ノモノニ付身代限りニ非サル抵當物公賣ノ場合ニ於テ原裁判所カ右ノ取扱振ニ依ラサルモ之ヲ以テ法律ニ背キタル裁判ト云フヲ得サルモノトス

同第三項ヲ按スルニ上告人ニ於テ被上告人ノ權利ハ云々製茶會社カ有セシ權利ニ外ナラスト申立タルハ會社ハ未タ上告人ニ對シ其金千圓ヲ要求スル權利ナシトノ事ヲ主張スルカ爲メナルニ付此點ニ對シ

裁判アリシ事ハ原判文中已レ既ニ特約ノ證書ヲ差出シ置ナカラ云々トアルヲ視テ明白ナリ依テ右ノ申立ヲ論外ニ抛擲シ不問ニ付シタリト云フヲ得ス

同第四項ヲ按スルニ原判文中會社役員ハ其受任權ヲ行ヒ云々トアルカ如ク原裁判ハ會社ノ役員カ受任權内ニテ生セシメタル上告人ノ義務即被上告第一號證ニ明記アル該證ノ持主ニ對シ上告人ヨリ返金スヘキ所ノ義務ニ對スル權利ヲ公賣上ニテ被上告人カ買受タリト認定シタル旨趣ナルニ之ニ反シ製茶會社カ上告人ニ對シ有スル所ノ權利ヲ買受ケタルニ過キスト論告スルカ如キハ賣買ノ目的物ヲ認定スル上ニ就テ意見ヲ異ニスル迄ノモノニ外ナラサル而已ナラス公賣ニ付セシモノハ抵當ニ取り置キシモノト同一ナラサルヘカラサル筋ニシテ其抵當ニ取り置キシモノ即チ公賣ニ付セシモノヲ原裁判所カ其證書ノ明文ニヨリ職權ヲ以テ上文ノ如ク認定シタル譯ニ付法律上非難スルヲ得サルモノトス

同第五項論告ノ相立タサルヲハ前項ニ對スル辯明ニテ理會シ得ヘキ筋ニ付別ニ辯明ヲ與ヘス

○貸金催促ノ件 明治十九年第三百二號

栃木縣下野國上都賀郡下日向村平民横手隼人外七名 代言人内ヨ
藤五郎
リ同縣同國同郡酒野谷村平民鈴木徳治ニ係ル

初審 栃木治安裁判所
終審 栃木始審裁判所

本件ハ上告人横手隼人外七名 初審原告ヨリ被上告人鈴木徳治 初審被告ニ對シ起訴シタルモノニシテ其請求ノ要旨ハ本訴ノ貸金ハ上告人横手隼人カ囊ニ設立シタル頼母子講ノ積立金ヲ貸與シタルモノナリ然ルニ本講ハ明治十五年本縣甲第五十三號ノ諭達ニ依リテ破講ト爲リタルニ因リ豫テ貸付アル積立金ヲ取戻シ破講ノ時迄掛續キタル株

主へ割戻スヲニ確定シタルヲ以テ速ニ其返濟ヲ受タシト云フニ在リ
 而シテ其所争ノ點ハ被上告人ニ於テハ本訴ノ金員ハ之ヲ借用シタル
 ニ相違ナキモ被上告人モ亦割戻ヲ受クヘキ講金アルヲ以テ之ヲ相殺
 シ其殘額ヲ償却スヘシト云ヒ上告人ニ於テハ被上告人ハ破講ノ時迄
 掛續キタルモノニアラサルノミナラズ本訴ノ金員ハ講金トハ其性質
 ヲ異ニスルモノナレハ相殺スヘキモノニアラスト主張スルモノナリ
 然ルニ初審ノ裁判ハ上告人ノ勝訴ト爲リシモ終審ノ裁判上告人ノ敗
 訴ニ販セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ纒々上告スル所アリシニ
 大審院ハ本件ハ原裁判ノ當否何如ニ拘ラス之ヲ受理セスト判決シタ
 リ

其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ヲ按スルニ本訴講會ハ栃木縣甲第五十三號
 諭告ニヨリ破講トナリシモノナリトハ上告者ノ自陳スル所ナリ然ラ
 ハ本講ハ明治元年十二月廿三日ノ布告ヲ以テ禁止セラレタル不法ノ

講會ニ屬スルヲ以テ本講會ヨリ生シタル事柄ハ素ヨリ法律ノ保護ヲ
 與フヘキモノニアラス依テ本件ハ原裁判ノ當否如何ニ拘ラス之ヲ受
 理セサルモノナリ

○講金割戻請求ノ件 明治十九年
第二百四號

栃木縣下野國下都賀郡小山宿百五拾番地平民津布久源藏 代言人
山谷虎

三ヨリ同縣同國同郡野木宿五拾五番地平民川島新七外十二名人 代
人

印出
一印 二係ル

初審 栃木治安裁判所

終審 栃木始審裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

上告甲第一號證 本證ハ弘明講ノ規則ニシテ第一條ヨリ第十條ニ至ル
然レモ第三條以下ハ之ヲ掲クル必要ナケレハ略ス

云々今般弘明講ト稱シ僕發起者トナリ左之仕法ヲ以テ有志ノ諸

君御加入願候趣意左ニ

一 圖數千百拾壹本

但 壹口ニ付金壹圓掛
每月發會

此集金千百拾壹圓也

內 譯

一金七拾七圓七拾七錢

但 千百拾壹人賄料壹飯ニ付
金七錢

一金三拾三圓三拾三錢

但 千百拾壹人周旋料壹口ニ付
金三錢

一金貳百圓

壹口當リ圖也

一金八百圓

四口糶圖也

第一條 會ノ義ハ壹ケ年十二會トシテ目途ハ壹ケ月ニ付本圖壹

本糶圖十三本壹口金六拾壹圓五拾三錢八厘四毛ノ見込ヲ以テ

本圖合セテ壹ケ年間百六拾八本ヲ減シ六ケ年七ケ月ニシテ滿

會ノ事

第二條 落札金渡方ノ儀手取金貳百圓ニシテ該金額受取ノ順次

ハ證文金八拾圓也抵當ハ實地金八拾圓ナル地所又ハ家屋抵當

ニテ役場與印シ證書差入可申又抵當無之分ハ當リ金之内八拾

圓滿會迄御預リ申置候事

以下第十條ニ至ル

右仕法相違無之候也

明治十三年三月

發起人印出井彌一郎被上人外後見人又ハ

補助人等貳拾壹名連署

本件ハ上告人津布久源藏初審終審ニ於テ梶木縣ノ諭達ニ依リ破

講シタル甲第一號弘明講ノ掛込金若干圓ノ割戻ヲ同證ノ終尾ニ連署

シタル發起人印出井彌一郎外之カ後見人又ハ補助人等廿一名ニ對シ

起訴シタルモノナリ然ルニ右被告等ノ内十名ハ死亡又ハ不在ノ故ヲ

以テ被上告人等ノ内川島新七外十一名初審終審ヨリ爲シタル答辯ノ

主旨ハ本訴ハ發起人タル印出井彌一郎一己ニ對シ起訴スヘキ訴件ニ

シテ當時同人ハ他縣へ寄留スルモノナレハ其所轄裁判所へ出訴スヘ

キモノナリト云フニ在リ初審裁判所ハ甲第二號講金受領證必要ト認メサレト認
 ケス 後見人五名ノ總代トシテ川島新七外壹名カ發起人ト連署シ
 タル上ハ後見人モ亦本訴ノ責ヲ免カル可カラスト雖モ後見人ニ付テ
 ハ右總代二名ヲ被告トスルコソ至當ナルニ他三名ヲモ共ニ相手取り
 タルハ訴訟手續ニ抵觸シタルノミナラス補助人迄モ同被告トセシハ
 其當ヲ得サルモノナリト之ヲ棄却シ終審裁判所モ初審ノ裁判ハ其當
 ヲ得サルモノナレト本講ハ甲第一號ノ講則ヲ閱スルニ集金千百拾壹
 圓トアリテ内譯當籤又ハ糶籤若干トアリ所謂富ニ類似ノ講會ナルコ
 ハ該講則ニ徴シテ明カニシテ万一ノ僥倖ヲ企圖セントスルニ外ナラ
 サルモノナレハ法律ノ保護ヲ受クヘキ限リニ非スト亦棄却ノ裁判ヲ
 言渡シタルヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ即チ其要領ハ
 第一點原裁判所カ何等ノ理ヲモ示サス漫然本講ヲ以テ富類似ノ講會
 ナリト判定セシハ事實理由ノ明示ヲ欠キタル不當ノ裁判ナリトノ事

第二點本講ハ當籤糶籤ノ二様アルモ其取捨ハ需用ノ緩急ニ應シ各人
 ノ自由ニ委ネタルモノニシテ早晚出金ノ返償ヲ受クヘキモノナレハ
 少數ヲ利シテ多數ヲ害スル富ナルモノトハ全ク其性質結果ヲ異ニシ
 更ラニ弊害ノ存スルヲ見サルニ原裁判所カ之ヲ混同シ法律ノ保護ヲ
 受クヘキ限リニアラスト判定シタルハ不法ノ裁判ナリトノ事ニ在リ
 因リテ大審院ハ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ
 其理由ニ曰ク上告要旨第一點ヲ審按スルニ本講ヲ以テ富ニ類似ト判
 決スルニハ富類似タルノ理由ヲ明示セサル可カラス然ルニ原裁判所
 カ唯タ甲第一號講則ニ集金千百拾壹圓内譯當籤又ハ糶籤若干トノミ
 説明ヲ下シ如何ナル理由ニ依リ右ノ集金及ヒ當籤又ハ糶籤ニテ富類
 似ト爲ル可キ事ヲ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリトス
 同第二點ヲ審按スルニ凡ソ富籤ナルモノハ當籤者其全金ヲ攫取シ爾
 餘ノ人タルハ一錢ヲモ得ル能ハサルモノナリ故ニ加入者ハ當籤ノ僥

倅ヲ萬一ニ企圖スルナレトモ今本講則ヲ閱スルニ當籤ト糶籤トノ別ヲ以テ加入者順次返償ヲ受クルノ設ケアレハ一概ニ僥倖ヲ企圖スルト云ヲ以テ法律カ保護セストハ云ヲ得ス然ルヲ原裁判所カ萬一ヲ僥倖セシムトスルニ外ナラサレハ法律ノ保護ヲ受クヘキ限リニ非スト判決シタルハ理由不備不法ノ裁判ナリトス

○預ケ金取戻ノ件 明治十九年 第五百十六號

大阪府大和國山邊郡丹波市邨二百六拾七番地土族藤森周治代人 兼同郡合場村壹番地平民山中惣三郎代吉 兼同郡合場村壹番地平民登又四郎外壹名總代

初審 奈良治安裁判所
終審 奈良支廳

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ
上告第一號證

金預リ人 被上告人等山中惣三郎外二名連印

預リ金受取之證

證人 某

印

上告人藤森周治宛

某年月日ヨリ

此見積金高

但シ會日之儀ハ云云ト取極メ尤見積金御入札ノ上安札ノ御方
へ落札金相渡可申候云云

印紙

一金七圓五拾錢

某年月日

受取印

以下五項共ニ同一ノ金額ニ付之ヲ略ス

以上ヲ上告人ノ證據書類トス

被上告第十二號證

本證ハ曾テ本講々員ノ壹名ナル某カ或ル契約ニ基キ本訴ノ被上
告人等ニ對シ其掛込金ノ返還ヲ請求シタル末本訴初審裁判所カ
被上告人等ニ對シ右某實際ノ掛込金貳拾壹圓〇壹錢七厘ヲ返還
スヘキ旨判決シタル裁判書ナルモ其全文ヲ掲クル必要ナケレハ
略シテ之ヲ掲ケス

同第十三號證

本證ハ本講ノ講員某カ己レノ掛込金六回ノ實額貳拾壹圓〇壹錢
七厘ナルヲ證明シタル證明書ナルモ是亦其全文ヲ掲クル必要
ナケレハ略シテ之ヲ掲ケス

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス
本件ハ上告人藤森周治初審原告ニ於テ曾テ掛込ミタル頼母子講六回
ノ掛金四拾五圓即チ甲第一號證ニ記載アル金額ノ返還ヲ本講ノ金預
リ人タル被上告人山中惣三郎外二名初審原告ニ對シ請求スルモノニ

テ上告人ハ上告第一號以下第八號等ノ證據書類第二號以下ノ證據書類
證明シタル證明書類拾餘名カ本講ノ已ニ破講タルヲ掲ケ本講ノ
破講タルヲ證明シ速ニ右預ケ金ノ返還ヲ受度シト云ヒ被上告人等
ハ之ニ反シ本講ハ全ク破講シタルニアラス曾テ金融閉塞ノ爲メ一時
休會シタルヲアルモ其後講員一同ノ協議ニ因リ從來ノ講則ヲ變更シ
實者ノ掛金ヲ止メ空者ノ返掛金ヲ目的ト爲シ實者之ヲ入札シ漸次退
講スル小天狗ノ方法ト爲シ已ニ之ヲ實行開會シタルノミナラス上告
人カ實際本講ニ掛込ミタル金額ハ僅ニ貳拾壹圓壹錢五厘ナルニ上告
第一號證表面ノ金額ヲ請求スルハ不當ノ甚シキモノナリトテ被上告
第一號以下第十三號等ノ證據書類被上告第一號乃至第十一號ノ證據
ヲ承諾シ已ニ實行開會シタルヲ證明シタル證明書類改則後ニ爲シタ
ル開會ノ通知書類其他改則ノ前後落札人ヨリ差入レタル證據等ニシテ
是又逸々掲ケタルモノヲ掲ケ其請求ニ應シ難キ旨主張シタリ初審裁判所
ハ講則變更ノ事タル果シテ講員一同ノ協議ニ出タルモノト認ムヘキ

證據アラサルノミナラス上告人之ヲ承認セサル以上ハ假令講員數名ノ同意アルモ之ヲ以テ上告人ニ承認セシムヘキ筋ナキモナリトノ判定ヲ下シ上告人ノ勝訴ト爲セシモ終審裁判所ハ之ニ反シ甲^上乙^被告兩號ノ證據書類ニ就テ破講ヲ主張スル者ト否ラサル者トノ數ヲ比較スルニ乙號證講法ノ變更ヲ承諾シ居ル者多ニ居レハ本講ハ時世ノ變ニ遭遇シ小天狗法ニ改メ一時止ムヲ得ス休會シタル迄ニテ破講ニ成リタルモノニアラスト認定シ次ニ凡ソ講會ハ共同和合シテ維持スルモノナレハ己レノ權利ヲ害セサル事柄ハ講員多數ノ協議ニ從フヲ允當ナリトシ本講ヲ小天狗ニ變更シタルハ寧ロ實者ノ爲ニ利益アルモ決テ害トナルヲナケレハ此ノ如キ有益無害ノ變更ハ講會ノ圓滿ヲ保持スル爲メ講員ノ多數決ニ從ハサルヲ得サルモノト判定シ最後ニ上告第一號證ノ末文ニ據レハ低價ノ入札者ヲ以テ當籤者ト爲ス講則ナルヲ知ルニ足ルノミナラス被上告第十二號證及同第十三號證ニ據

ルモ上告人ノ實掛金ハ貳拾壹圓〇壹錢七厘ニシテ上告第一號記載證ノ金額ハ入札ノ糶出シ金ト上告人カ現ニ出シタル金トヲ合算シタル金高ナリト認定シ上告人ノ敗訴トナセシヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ其要領ハ第一原判文ニ本講ハ時世ノ變ニ遭遇シ小天狗法ニ改メトアルハ最初設立ノ講會ハ既ニ破壊シ更ニ他種ノ講會ヲ設立シタリト云フノ趣旨ナルニ又一時止ヲ得ス休會シタル迄ニテ破講ニ成リタルモノニ非スト判示シタルハ前後理由ノ齟齬スル不法ノ裁判ナリトノ事第二次ニ凡ソ講會ハ共同和合シテ維持スルモノナレハトアルニモ拘ハラズ己レノ權利ヲ害セサル事柄ハ講員多數ノ協議ニ從フヲ允當トストアリ是亦タ理由ノ齟齬スル不法ノ裁判ナリ其故ハ多數決ニ從ハサル可カラストスルキハ少數者多少ノ壓制ヲ受クルハ理ノ免カレサル所ニシテ到底和合ノ趣旨ヲ失フ可ク且權利ヲ害セラルト否トハ各人ノ所見同カラサルヲ以テ意思相反スルモ退

講スルヲ得ストセハ已ニ和合ノ趣旨ニ反スルモノナリトノ事又講元某ノ退講シタルヲハ被上告人等ノ確認スル所ニシテ其已ニ破講タルヲハ上告人ノ證據書類ニ依リ明白ナルニ原裁判所カ是等ノ事實及證據ヲ不問ニ付シタルハ不法ナリトノ事第三原裁判所カ上告人ニ關係ナキ被上告第十二號及被上告人等ノ間ニ自由ニ作爲シ得ヘキ同第十三號證ヲ採テ上告人ノ掛込金額ヲ其實貳拾壹圓〇壹錢七厘ナリト判定セシハ採證ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトノ事ニシテ被上告人等ハ原裁判ノ適法ナルヲ辯護シ且上告人ハ當上告ヲ爲スノ前身代限ノ所分ヲ受ケ本案ノ要證即チ預リ金受取證ノ通ヲ公賣ニ付セラレ其債主權已ニ落札人ニ移轉シタル上ハ上告ノ權ナキモノニ付旁却下アラントヲ請フ旨申立タリ然レモ大審院ハ原裁判所カ上告第二項前斷ノ裁判ヲ下シタルヲ不法ノモノト認メ其一部ヲ破毀シタリ其理由ニ曰ク第一條上告第一二項ヲ審按スルニ講則ノ改正ヲ以テ直

チニ舊講ヲ廢シ新講ヲ設立セシモノトハ斷定スルヲ得可ラサルカ故ニ原裁判所カ講員多數ノ申立ニ依リ講則ノ改正ニ止マルモノニシテ廢講ニ非スト認定シタル其事實ノ認定ニ對スル論告ハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス然リト雖モ凡ソ何人ニテモ其契約ナキ限りハ己レノ權利ニ害ナキト否トニ拘ハラズ多數ノ協議ニ從ハサル可ラサルノ義務アルモノニアラス殊ニ原裁判所ハ損害ナキモハ權利ニモ亦害ナキモノト速了シ損害ナシトノ説明ヲ下シ上告人ヲシテ多數ノ協議ニ從ハシムルノ裁判ヲ與ヘタルハ即チ是レ其自由權利ヲ害スルモノナルニ付上告論旨ノ如ク理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリトス但シ第二項追述ヲ以テノ論告ハ原裁判所カ甲號證ハ破講ヲ證シ乙號證ハ改正ヲ證シテ何レカ確實ノ申立ナルヤ明瞭ナラストシ講員多數ノ證言ヲ採用シタル證據ノ取捨事實ノ認定ニ對スル批難ニ過キサレハ以テ上告ノ理由トハ爲シ難シ

第二條上告第三項ヲ審按スルニ原裁判所ハ上告第一號證ノ末文ニ依
 リ本講ノ低價入札ヲ以テ當籤者トナスノ講則タルヲ認メ被上告第十
 二號第十三號證ヲ採用シ本件ノ掛込金ハ實掛ケ貳拾壹圓壹錢七厘ニ
 シテ甲第壹號證記載ノ金額ハ入札ノ糶出シ金ヲ合算シタルモノナル
 ヲ認定シタルモノナリ左レハ本項ノ論告ハ其證據ノ取捨事實ノ認
 定如何ニ對スル問題ナルヲ以テ本院ノ鑑查スヘキ事柄ニアラストス
 第三條被上告人ニ於テ上告第壹號證ハ公賣ニ附セラレ該債主權ノ已
 ニ落札人ニ移轉セシ上ハ上告人ハ上告ノ權ナキモノ、如ク辨駁スト
 雖モ該公賣タルヤ本件終審裁判訴訟入費償却ノ執行ニ因リタルモノ
 ナレハ該終審裁判カ不法ニ決スル以上ハ其執行モ從テ取消サル可キ
 筋合ナルノミナラス證書ヲ以テ爭ヒタル裁判ノ負訴訟者カ終審裁判
 後其證書ノ所有權ヲ失ヒタレハトテ裁判ノ匡正ヲ訴フル即チ上告ノ
 訴權ハ之カ爲メ妨ケラル可キ道理アル可ラス被上告人ノ辨駁ハ不當

ナリトス

○預金請求ノ件^{明治廿二年}第四百四十二號

千葉縣上總國長柄郡船木村二十七番地平民多賀治郎作及同人父
 多賀周藏^{代言人好見祐次}ヨリ同縣同國同郡山之郷村拾三番地平民蒔田
 梅千吉ニ係ル

初審 千葉治安裁判所

終審 千葉始審裁判所

本件ハ被上告人蒔田梅千吉^{初審原告}ニ於テ上告人多賀治郎作及多賀
 周藏^{初審被告}ニ對シ明治九年一月廿日及同年二月十五日附ノ無期限
 預リ金證書二通ヲ掲ケ元利合金若干圓ヲ認求スルニアルモ上告人等
 ニ於テハ本訴ノ金額ハ既ニ返辨ヲ了シタルノミナラス其名ハ預リ金
 ナレモ實ハ無期限ノ借用金ナルヲ證書明文ニ元利取揃返濟可致トア
 ルヲ以テ明ニシテ爾來殆ト十ヶ年ノ久シキ一度モ訴出シタルヲナキ

モノナレハ即チ明治六年第十號布告但書ニ依リ請求ノ權利ナキモノ
 ニ付認求ニ應シ難キ旨主張シタリ然レモ初審終審共上告人等カ完済
 シタリトノ申立ハ證據ナシトシテ之ヲ斥ケ明治六年第十號布告但書
 ハ出訴期限規則第四條ニ依リ消滅シタルコト其法文ノ抵觸ニ依リ明瞭
 ナレハ本訴ノ金額ハ何時ニテモ出訴シ得ヘキモノナリト判定シ上告
 人等ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人等ハ出訴期限規則第四條ハ無期限
 ノ約定證書ニシテ約定成立ノ當日ヨリ滿五ケ年ニ至ラサル證書ノ期
 限ナキモノハ出訴ノ日ヲ期限ト見做ストノ法意ニシテ明治六年第十
 二號布告ハ依然トシテ未タ消滅セサルモノナリトノ主旨ヲ以テ原裁
 判ヲ不法トシテ上告シタリ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認
 メ受理セスト判決シタリ
 其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ヲ按スルニ凡ソ前後二個ノ法律相抵觸スル
 ノ場合ニ當リテハ後ノ法律ハ前ノ法律ヲ取消シタルモノト看做スハ

當然ノコトナルヲ以テ原裁判所カ明治六年第十號布告但書ハ出訴期限
 規則第四條ニ依リ消滅シタリトノ判定ハ相當ニシテ上告人カ之ニ對
 スル上告ノ旨趣ハ採用ス可カラサルモノトス

○立換金請求ノ件 明治十九年
第二百四十七號

大坂府攝津國島下郡烏飼野々村平民山本寬平 代言人藤正太ヨリ同府
 同國同郡同村平民山本常次郎外四十六名 代言人武山助雄ニ係ル

初審 大坂始審裁判所
 終審 大阪控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

甲第一號證

證

一金若干圓也
 一金若干圓也

某分

被上告人山本寬平分

金若干圓

右者今般村會議員立會村方帳簿實正精算候處其元殿ヨリ村辻へ
出金過ニ相成候ニ付右濟方法ハ村中人々出金不足負債之分徵集
シ多少ニ不抱マノ相當之返戻方執計可仕候也

明治十七年十月十日

村方勘定立會村會議員三名外一名并惣代筆記兼被上

告八山本常次郎連印及戸長代理某與書與印アリ

上告人山本寛平外壹名宛

本件ハ上告山本寛平初審終審ニ於テ被上告人山本常次郎外四拾六名
初審終審ニ對シ甲第一號證及村帳簿等ノ證據書類村帳簿等ハ必要ナ
ケレハ之ヲ畧ス
ヲ掲ケ該甲第一號證ハ上告人外一名カ明治五年ヨリ明治十二年ニ至
ル迄被上告村鳥飼野々村ニ對シテ立換ヘタル金額ニ付村會議員等開
會議決ノ末上告人外一名ニ差入レタルモノニシテ即チ其金額ハ全村
ノ負擔スヘキモノナリト上告人一己ノ部分ニ關シ其返還ヲ請求スル

モノナルモ被上告人等ニ於テハ甲第一號證連署ノ肩書ニハ村會議員
等ノ文字アレトモ曾テ之カ爲ニ村會ヲ開キタルコトナク右ハ全ク連署者
カ一己人タルノ資格ヲ以テ差入レタルモノニシテ其金額モ亦村借ニ
アラス其實被上告村一種ノ慣習ヨリ生シタル小作人ノ怠納米ヲ金額
ニ引直シタルモノナレハ其小作人等ニ係ルハ格別被上告村ニ對シテ
之カ請求ヲ爲スハ甚タ不當ナルノミナラス其金額ハ既ニ出訴期限ヲ
經過シタルモノナレハ請求ノ權利ナキモノナリト抗辯シタリ初審裁
判所ハ甲第一號證ハ村會議員等カ程式ニ準據シ開會議決ノ上調製シ
タルモノト看ルヘキノ徵憑ナケレハ其金額ノ村借タルコトヲ證明スル
効力ナキモノト判定ス結局被上告村ニ對シテ之ヲ請求スルハ甚タ不
當ナリトノ裁判ヲ下シ終審控訴院モ亦本訴ノ金員ハ之ヲ精算スル片
ハ幾分カ上告人ニ於テ其義務者ヨリ徵集シ得ヘキ金員アルヘシト雖
モ其出入タル明治五年ヨリ明治十二年迄ノ間ニ在テ本案出訴迄ハ數

多ノ歲月ヲ徒費シ即チ出訴期限ノ長期タル滿五年ヲ經過シタル而已
 ナラス甲第一號證ノ文詞タル村會議員カ全村民ニ成リ代リ該證記載
 ノ金額ヲ返濟センコトヲ確約シタルモノトハ解釋スルヲ得可カラサル
 ヲ以テ該議員ニ對シ其履行ヲ促スハ格別直ニ全村人民ニ係リ本訴ヲ
 提起スルノ權アルヲ視ス况ンヤ甲第一號證ハ村會議員カ定式ヲ履ミ
 調製シタルモノト視ルヘキ證徴ナキニ於テヲヤト初審ノ裁判ヲ認可
 シ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不法ナリトシ其上告狀
 第一條ニ於テ原控訴院ハ上告人ノ請求金額中幾分カ被上告人等ニ於
 テ盡サ、ル可カラサル義務アルヲ認メタルニモ不拘出訴期限ヲ適用
 シテ上告人ノ請求ヲ斥ケタレトモ抑モ出訴期限規則ニ依リ義務ノ免脱
 ヲ得ルモノハ單ニ其法律ノ特定スル義務ノ種類ノミニ限ルモノナル
 ニ其特定中ニ明文ナキ本訴立換金ニ對シテ之ヲ適用シタルハ不法ノ
 裁判ナリ良シヤ假リニ貸借ノ性質アルモノトシテ之ヲ視ルモ貸借金

ニ同則第三條ヲ適用スル場合ハ其證書中ニ辨濟期限ヲ約定シタルモ
 ノニ限ルコト同條第一項ノ明文ニ照シテ疑ナク其約定ナキモノハ更ニ
 出訴期限ヲ定メサルコト亦同則第四條ニ分明ナルニ原控訴院カ辨濟期
 限ノ約定ナキ本訴ノ金額ニ對シテ之ヲ適用シタルハ不法ナリトノ事
 及ヒ其第二條第三條ニ於テ原控訴院カ甲第一號證ニ對シテ下シタル
 解釋等ノ點ニ付纏々其裁判ノ不法ナルコトヲ上告シタリ因リテ大審院ハ
 上告第一條ノ趣旨ニ對シ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ
 其理由ニ曰ク上告第一條ヲ審按スルニ出訴期限規則ノ第三條ハ上告
 人論告ノ通り該條ニ引記スル箇目外ノ取引ニ適用ス可キモノニ非ス
 故ニ之ヲ適用センニハ本訴上立換金ト稱スル金員ハ全ク換立金ニ非
 スシテ該箇目中ニ列記セル取引ニ適當スル事實ヲ定メタル後ニ非サ
 レハ漫ニ適用スルヲ得サルモノトス如何ントナレハ同則第四條ニ條
 約證書中ニ期限ナキモノハ出訴ノ日ヲ以テ期限ト看做シ候故何時出

訴イタシ候テモ苦シカラサル事ト明示シアルヲ以テナリ然ルニ原裁判所ハ本件金員ノ性質如何ヲ究メスシテ漫ニ其出入カ出訴期限ノ長期タル滿五年ヲ經過シタリト云フ而已ヲ採テ第一ノ理由ニ供シタルハ事實ヲ定メスシテ法律ヲ適用セシ不法ノ裁判ナリ原裁判不法ニシテ破毀ノ原由アルコトハ前項辨明ノ通りナルヲ以テ上告第二第三條ニ對シテハ今茲ニ辨明セズ更ニ覆審ノ裁判ヲ待ツ可シ

○辨償金請求ノ件 明治十九年
第二百六十五號

愛媛縣伊豫國北字和郡字和島裡町土族岡村俊藏外壹名 代言人岡山兼吉

ヨリ同縣同國同郡元宗村平民谷本市十郎ニ係ル

初審 字和島治安裁判所

終審 字和島支廳

本件ハ上告人岡村俊藏外壹名 初審原告ニ於テ元金四拾八圓ノ借用金
終審被告ニ於テ元金四拾八圓ノ借用金
證書壹通ヲ掲ケ其請人タル被上告人谷本市十郎 初審被告ニ對シ疑ニ
終審原告ニ對シ疑ニ

負債主某ヘ係リ起訴ノ末身代限ノ處分ニ依リ受取リタル元利金并ニ訴訟入費ノ不足金辨償ヲ請求スルニ在ルモ被上告人ニ於テハ元來本訴ノ金員ハ四百圓ノ借用金ニ對スル六ヶ月分ノ利子ニシテ一旦貸借ニ變更シタルモノナレモ利足制限法ニ超過シタル不當ノ金額ナレハ更ニ既往ニ遡リ制限法ニ照シテ之カ精算ヲ遂クヘキハ勿論其訴訟入費ノ如キハ右不當ノ請求ヨリ生シタルモノナレハ決テ被上告人ノ辨償スヘキモノニアラスト主張シタリ初審裁判所ハ利足制限法ハ義務者カ契約通り甘諾シテ異議ナク實踐シ畢リタル部分ニ迄立入既往ニ遡ルヘキモノニアラサルノミナラス本訴ノ金員ハ利足ノ性質ヲ變シ更ニ借用金トナリタルコト明瞭ナレハ其訴訟入費モ亦不當ノ詞訟ヨリ生シタルモノニアラスト爲シ被上告人ニ於テ辨償ノ義務アルモノト判定セシニ終審裁判所ハ之ニ反シ明治十年第六十六號公布ノ意味ハ制限ニ超ル利子契約ヲ嚴禁セシニハアラサレモ裁判上無効トナシ其

制限ニ迄引直サシムヘキ精神ニシテ授受ノ濟否ニ由リ裁判スヘキモ、
 ノニアラスト解釋シ本訴ノ證書ハ若干圓ヲ除クノ外制限外ノ利金ニ
 シテ借用金ノ名義ヲ爲シタルノミ其金額ハ未タ償却セサル證書ナレ
 ハ元連帶四百圓ノ借金證書ト變リ控訴人^{被告上}ヲ受人トシ貸借ノ名義
 ニ改メタルモ如前示制限外ノ利子ニシテ授受未濟ノモノト云ハサル
 ヲ得ス然ラハ該公布明文ノ如ク裁判上無効ノモノニシテ之ヲ訟求ス
 ルノ權利ナキモノト爲シ且制限外ノ利子ヨリ又利ヲ生スル道理ナキ
 ヲ以テ假令其契約アルモ是亦無効ノモノナリ其訴訟入費ノ如キモ亦
 本案ノ證書已ニ權利ナキモノト判定スル以上固ヨリ無効ノモノナリ
 トノ判定ヲ下シ結局上告人ノ請求ハ不相立ト雖モ證書金額ノ内若干
 圓ハ元金四百圓ヨリ生スル相當ノ利息ナルヲ以テ被上告人ヨリ之ヲ
 償却スヘキ旨判決シタリ因リテ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル
 要領ハ第一條原裁判所カ明治十年第六十六號公布ノ解釋ヲ下シ授受

ノ濟否ニ由リ裁判スヘキモノニアラスト判示シタルハ不法ナリトノ
 事第二條原判文ニ云々借用金ノ名義ニ爲シタルノミ其金額ハ未タ償
 却セサル證書ナレハ云々控訴人^{被告上}ヲ受人トシ貸借ノ名義ニ改メ云
 々トアレハ既ニ原判文看認ムル如ク借用金ニ改メタル上ハ即チ利子
 滞リニアラス純然タル獨立ノ貸借ナルニ之ヲ空シク授受未濟ノモノ
 ト論決シタルハ相互ノ自由ニ干涉シタル越權ノ裁判ナリトノ事其他
 第三條及第四條ニ於テ原裁判所カ訴訟入費ノ點及制限外ノ利子ヨリ
 又利ヲ生スヘキ道理ナシト判示シタル點ニ付原裁判ノ失當ナルヲヲ
 論告シタリ爰ニ於テ大審院ハ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シ
 タリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一條ヲ按スルニ抑明治十年第六十六號公
 布即チ利息制限法ノ事タル同法第二條ニ定メタル制限ヲ超過シタル
 利息契約ヲ以テ裁判ヲ仰キタル場合其超過シタル分ハ裁判上無効ノ

モノトシ各制限ニ迄引直サシム可シト云フニアリテ義務者ニ於テ異議ナク既ニ拂ヒ込畢リタル部分ニ遡リ引直ス可シト命シタルモノニ非ス何ントナレハ該法文ハ制限ニ迄引直ス可シトアツテ總テ之レヲ無効ノ契約ト制定シタルニ非サルヲ以テナリ左スレハ本件ノ如キ甘諾上實踐シ畢リタル部分へハ立入ル可キモノニアラスト然ルニ原裁判所カ「授受ノ濟否ニ依リ裁判ス可キモノニ非ス」ト判示シタルハ上告論旨ノ如ク失當ノ解釋ヨリ要點ヲ誤認シタル不法ノ裁判ナリ

第二條上告第二條ノ趣旨ニ依リ原判文ヲ審閱スルニ「元連帶四百圓ノ貸金證書ト變リ扣訴人ヲ受人トシ貸借ノ名義ニ改メタルモ云々該公布明文ノ如ク裁判上無効ノモノニシテ之レヲ訟求スルノ權利ナキモノトス」トアレハ制限外ノ利子ヲ轉シテ貸借證書ニ更改シタル事實ハ既ニ原裁判所カ明認スル所ナリ左スレハ上告者ノ請求ハ利子ノ滯リニ非スシテ獨立ノ貸金ニ對スルモノナルヲ又明カナリ然ルニ此事實ニ反

シ訟求スルノ權利ナシト判示シタルハ畢竟前條辨明及ヒタル法文ノ誤解ニ由來セルモノニテ同シク不法ノ裁判ナリ

附上告第三條四條ハ上告一二條ノ論點ニ伴フ事柄ニ付更ニ同條ノ覆審ヲ俟テ定マル可キモノトス

○辨償金請求ノ件明治三十一年

京都府丹後國竹野郡堤村平民田中市左衛門代言人 仁杉英同府同國中郡五箇村平民岸田孫七相續人岸田孫助外三名惣代兼同村平民寺田磯太郎代言人 藤卷正太ニ係ル

初審 宮津 支廳
終審 大阪 控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ
上告甲第二號證

濟口約定證書之事

一金百壹圓五拾錢

御訴狀高

右ハ私義借用金淹滞ニ付今般其許ヨリ御出訴ニ相成依之下方對談
ヲ以テ勘辨相願候處左之通割立承知被下忝奉存候

割賦金額及拂込期日ハ之ヲ略ス

右之通約定申處相違無之候然ル上ハ右割立金月貳歩ノ利息ヲ加ヘ
期月無異變相渡可申候萬一私義期月ニ至リ違約仕候ハ、利ニ利ヲ
加ヘ受人ヨリ速ニ辨金勘定皆濟仕候云々

但シ違約仕其許ヨリ御出訴ニ相成候ハ、御規則之通リ入費償却可致候以上

明治七年十一月十二日

本人 平 七 岸田長平ノ印
親類總代 孫 七 被上告人岸田
受人 同 孫 七 被上告人先代印
同 吉三郎 被上告人ノ印

上告人田中市左衛門宛

上告甲第三號證

追證

元金百拾四圓九錢八厘

平七借用金
子四月改金高

割賦金額及拂込期日ハ之ヲ畧ス

右之金子今般返濟可致筈之處云々記載ノ期限迄延引相頼金子正ニ
借用實正也返濟ノ儀者定メ之通リ利子共速ニ返濟可致候云々

明治九年子四月三十日

借主 岸田長平印
受人 岸田孫七印
同 岸田德兵衛 被上告人印
同 岸田勘兵衛 同 印
同 寺田久五郎 被上告人先代印

上告人田中市左衛門宛

上告甲第四號證

追約定證

一金貳百圓貳拾錢 但シ利子月貳步定利ニ利ヲ加ヘル約

書入地所二ヶ所ノ反畝歩ハ之ヲ畧ス

右之金額請人立會ノ上正ニ借用候處確實也返濟ノ期ハ明治十二年六月三十日限り書入之質地賣拂定メ利子ヲ加ヘ屹度返辦可致候若シ其期ニ至リ本人差支延滞スルニ於テハ原追證ノ明文ニ基キ請人引受即時辨償可致候云々

五箇村受人 岸田、孫七
同、勘兵衛七
寺田、久五郎 代人兼テ本人

明治十一年十一月三十日

岸田長平

戸長奥書アリ

上告人田中市左衛門宛

本件ハ上告人田中市左衛門 初審終審ニ於テ 甲第二三四號證ノ負債主タル岸田長平ノ身代限處分ノ後更ニ其受人タル被上告人岸田孫助ノ

先代孫七外四名 初審終審ニ對シ 起訴シタルモノニテ上告人訟求ノ要旨ハ本訴甲第二號證割賦返濟ノ約定書ハ曾テ明治十七年中負債主岸田長平ニ對シ出訴ノ末示談ヲ以テ取結ヒタルモノナルモ違約返金セサルニ付更ニ岸田孫七外三名ヲ受人トシテ延滞利金ヲ合シ甲第三號證ノ追證書ヲ取結ヒタルニ尙ホ違約スルヲ以テ重テ出訴再應示談ノ末再ヒ延滞利金ヲ合シ受人立會ニテ甲第四號證ノ追約定書ヲ受領シタリ但シ同證ニ受人ノ連印ナキハ受人ニ於テ本證ハ追證ニ止マレハ連印ナキモ受人ニ相違ナシトノ明言ニ依リ其意ニ任セタルモノナリ然ルニ其後絶テ負債主其義務ヲ盡サ、ルヲ以テ不得止明治十六年中出訴遂ニ長平ハ身代限ノ處分ヲ受タリ然レモ長平ハ殆ント一點ノ財產ヲ有セサリシナリ 抵當地所ニ付テハ甲號證據書類中長平カ他ニ之ヲ賣却シタルヲ上告人ニ謝シタル斷リ證ナルモ ノア依テ受人タル被上告人等ヨリ甲第四號證元利金及訴訟入費ニ對スル不足金ノ辨償ヲ受度シト請求スルニ在ルモ被上告人等ニ於テハ

甲第二三號證ハ被上告人等ノ受人ニ立タルモノニ相違ナキモ甲第四號證ハ單ニ上告人ト長平トノ間ニ成立シタルモノニシテ被上告人等ノ認知セサルモノナリ而シテ同證ハ甲第二三號證ト其金額ヲ異ニスルノミナラス抵當物ノ記入等アルヲ以テ見レハ同證ハ甲第二三號證ノ追約定書ニアラスシテ全ク義務更改ノ證書ナルニ付被上告人等ハ受人タルノ義務ヲ免カレタルモノナリ良シ之ヲ免カレサルモノトスルモ本訴ノ金額ハ精算ヲ遂クルルハ既ニ負債主ヨリ拂込過剩ト爲リ居ルモノナレハ旁被上告人等ハ其請求ニ應スルノ義務ナキモノナリト主張シタリ件拂込金額ノ精算ハ重要ナル爭點ノ一ナルヘキモ結局本ケス初審裁判所ハ甲第四號證ハ被上告人等ノ押印ナキ以上ハ被上告人等カ之ヲ承諾セシモノトスルニ由ナキモ同證ハ延期ヲ確實ナラシムル爲メノ追約ニ止マレハ被上告人等カ受人タルノ義務ヲ免カルヘキノ効ヲ生スヘキモノニ非ラスト爲シタルモ結局本訴ノ金額ハ其精

算ヲ遂クルルハ上告人ニ受取過剩トナルモノニ付被上告人等ニ對シ請求ノ權利ナキモノト判定シタリ終審裁判所ハ本訴甲第四號證ハ被上告人等カ之ヲ認諾シタル事跡ノ觀ルヘキモノナケレハ被上告人等ノ關係シタルモノニアラス而シテ其金額ノ甲第二三號證ト異ナルノミナラス新ニ抵當物件ヲ記載シ殊ニ右ノ金額請人立會ノ上正ニ借用候處確實也ト明記アリテ當時更ニ貸借ヲ爲シタルノ文意アルヲ觀レハ同證ハ甲第二三號證アリタル爲メ成立シタルモノナルヘシトハ雖モ當時之ヲ更改シタルモノト見做サ、ルヲ得スト被上告人等ノ受人タル責任ハ甲第四號證ノ成立ト同時ニ消滅シタルモノナレハ長平カ其義務ヲ盡了シタルト否トヲ問ハス上告人ハ被上告人等ニ係リ辨償ヲ要求スルノ權利ナキモノナリト裁判シタリ因テ上告人ハ佛法ニ由リ義務更改ノ三個ノ方法ヲ掲ケ原控訴院カ觀テ以テ甲第四號證ヲ義務更改ノ證書ト爲シタル點ハ一モ之カ更改ト爲スニ足ラサルモノニ

シテ其全體ノ文詞ニ付解釋ヲ下スルハ固ヨリ追加補充ノ證書ナルヲ論ヲ俟タス良シ亦是レヲ更改ト假定スルモ其更改ハ若シ本人ニ於テ其義務ヲ盡サ、ルキハ更改ヲ解除シ更ニ甲第三號證ニ基キ受人ヲシテ其義務ヲ盡サシムヘシト云フ解除ノ未必條件ニ關スル契約ニシテ到底被上告人等ハ受人タルノ義務ヲ免カレタルモノニアラス尤モ同證ハ被上告人等カ之ヲ承諾シタリト云フノ證據ナケレハ其金額ノ内利息ヲ結ヒ込ミタル部分ニ付テハ被上告人等ニ對抗スルノ効力ナカルヘシト難モ之ヲ以テ被上告人等ハ全ク其義務ヲ免カレタリトハ決テ云フコトヲ得サルモノナリト纏々上告シタリ爰ニ於テ大審院ハ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク上告論旨ヲ審按スルニ原裁判所カ義務ノ更改ヲ認メタル證據ハ甲第四號追約定證ニ被上告人等カ關係セサルトノ事甲第二三號證ト甲第四號證トハ金額ノ相違アリトノ事甲第二三號證ニ記載

アラサル抵當ノ甲第四號證ニ記入アリトノ事甲第四號證ニ更ニ貸借シタル如キ文意アリトノ事ニ過サルナリ然リト雖モ其更ニ抵當ヲ差入レタルハ返金ノ方法ヲ鞏固ナラシメシニ外ナラサレハ之レヲ以テ義務更改ヲ定ムヘキノ筋ナシ又金額ノ増加ハ受人ノ知ラサル増加ノ部分ニ對シ保證ノ義務ナシト言フヲ得ヘキモ其義務ハ依然タル貸借金ニ屬スルモノタレハ亦以テ之レニ依リ義務更改ヲ定ムヘキノ筋ナシ殊ニ甲第四號證ニハ岸田長平ノ肩書ニ被上告人等受人ノ代兼ト記載シアルノミナラス其本文中「本人差支延滞スルニ於テハ原追證ノ明文ニ基キ請人引受即時辨償」云々ノ明文アリテ所謂原追證ナル甲第三號證ハ上告人カ擧テ以テ立證スル所ナレハ貸主上告人ト借主岸田長平トカ其義務ヲ更改シ受人ヲ免脱セシメタリトハ法理上視認スルヲ得可ラサル筋合ナリトス然ルニ原裁判所カ此證據ニ依ラス及ヒ義務更改ヲ認メ得可ラサル材料ヲ以テ之レヲ認メタルハ破毀セラルヘキ

責アル不法ノ裁判タルヲ免カレス

○辨償金催促ノ件明治二十年
第百十五號

長野縣信濃國上水内郡長野町六百六十一番地寄留平民近山與五

郎代人近山武助ヨリ同縣同國同郡同町四百七拾五番地平民小瀧重吉ニ

係ル

初審 長野始審裁判所

終審 東京控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

被上告甲第一號證

連借金證書

一金若干圓

但利子云々

前記ノ金額連名立會正ニ受取借用候處確實也返濟期限ハ云々限り
元利共返濟可仕候云々

明治十六年十一月十七日

借用人

某

印

同斷

某

印

同斷
印影半形

某

印

被上告人宛

本件ハ被上告人小瀧重吉初審原告
終審被告ヨリ上告人近山與五郎初審被告
終審原告ニ
對シ起訴シタルモノニシテ其請求ノ要旨ハ本訴甲第一號證ノ金額ハ
元來上告人等連借ノ契約ヲ以テ貸與セシモノニ付曩ニ連借人三名ニ
對シ勸解出願ニ及ヒタルニ上告人ハ右甲第一號證上告人氏名ノ上同
斷トアルニ文字ノ右側ニアル印影ノ半形ニ苦情ヲ鳴シ連借人ニアラ
ス證人ナリト主張シ勸解ニ應セサルヨリ外二名ヲ第一義務者ト爲シ
本訴ノ末右二名ハ財産公賣ノ處分ヲ受ケ其局ヲ結ヒタリ依テ證人タ
ル上告人ニ對シ不足金ノ辨償ヲ請求スト云フニ在ルモ上告人ニ於テ
ハ甲第一號證上告人氏名ノ上同斷トアルニ文字ノ右側ニ印影ノ半形

ヲ遺スハ同斷トアル上ニ貼紙立會ト記載シアリタルヲ剝取リタル證
憑ニシテ上告人ハ連借人ニモ證人ニモアラス全ク立會人ニ過キサレ
ハ其權義ニ關係ヲ有スルモノニアラサルニ付到底被上告人ノ請求ニ
應シ難シト主張シタリ初審裁判所ハ凡ソ權義ノ存スル證書ニ權義ニ
關係ヲ有セサルモノカ加印シ又ハ甲第一號證ノ貼紙ヲ剝取リタルト
云フカ如キハ頗ル普通ノ常態ニ反スルヲナルヲ以テ之ヲ申立ツル上
告人ニ於テ舉證セサルヲ得サルモノナルニ今上告人ハ之ヲ舉證シ得
サルノミナラス假リニ上告人自認スルカ如ク立會人ナリトスルモ既
ニ上告人ニ於テ加印シタル上ハ明治八年太政官第二百一十一號公布ノ
制裁ヲ受クヘキモノニシテ本訴ノ請求ヲ免カル、ヲ得サルモノト判
定シ上告人ノ敗訴ト爲シ終審控訴院モ亦貸借金ノ證書ニ調印スルカ
如キハ主タル義務者ニ非サレハ從タル義務者ト看做サ、ルヲ得ス何
トナレハ毫モ義務ナキモノ、調印ヲ要スヘキ理由ナケレハナリ況ヤ

甲第一號證ノ如キハ上告人名義ノ上段ニ聊カノ貼紙アリシモノトス
ルモ本文中必要ノ約諾文詞ニ上告人ノ調印アリテ他ニ義務ヲ免カル
ヘキ特約ノ證アラサルニ於テヤ故ニ上告人ノ申立ハ採用セストノ
判定ヲ下シ共ニ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人カ之ヲ不法トシ
テ上告シタル要領ハ第一條甲第一號證ハ印刷ナレハ上告人名義ノ上
ニアル同斷ノ文字モ亦印刷シタルモノナルニ原控訴院ノ判文ニ(同斷
ト筆記シタレ^凡原^判文^上告^代言^人陳^述ノ^要領^ヲ揭^ケタル^ニ云^々控
爲^シ立^會人^ト改^メ云^々ト^{アル}ハ^{必要}ナル^{事實}ヲ^{錯誤}シタル^{モノ}ナ
リトノ事第二條上告人ハ甲第一號證ノ立會人ニシテ受人證人ニアラ
サルニ原控訴院カ義務者ナリト認定シタルハ違法ナリトノ事第三條
貸借金證書ニ調印スルモノハ獨リ主從ノ義務者ノミニ限ラズ代書人
等ノ如キ義務者ニアラサルモノアルニ原控訴院カ主タル義務者ニア
ラサレハ從タル義務者ト看做サ、ルヲ得スト判定シタルハ違法ナリ

トノ事第四條本文必要ノ約諾文詞ニ上告人ノ調印上告人ハ上告人ノハ摺取印ハ摺取印ナラント云アリトテ這ハ連借人ノ約諾文詞ニシテ受人證人ノ約諾文詞ニアラサレハ上告人ニ對シテハ何ノ効モ之ナキモノナルニ原控訴院カ恰モ上告人自己ノ約諾文詞ニ調印シタルモノ、如ク認定シタルハ誤謬ナリトノ事第五條上告人ニ於テ從タル義務ヲ約諾セリトノ證憑ナキ以上ハ被上告人ニ於テ之ヲ舉證セサル可ラサルニ原控訴院カ義務ノ疑シキハ輕クセヨトノ格言ニ背キ上告人ニ利益ノ裁判ヲ與ヘサルノミナラス却テ上告人ニ舉證ノ責ヲ負ハシメタルハ舉證ノ責任ヲ轉倒シタルモノナリトノ事ニ在リ然レト大審院ハ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク上告第一條ヲ按スルニ原裁判所カ印刷セシモノヲ以テ筆記シタリト判示スルモ裁判ノ曲直ニ毫モ影響無キニ付破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

同第二條ハ原裁判所カ受人ト認定シタルヲ法律ニ違フト論告スルモノナレトモ事實ノ認定ハ原裁判所ノ權内ナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

同第三條ヲ按スルニ原裁判所ハ只證書面上告人ノ名下ニ調印アルヲノミヲ以テ上告人ヲ受人ト認定シタルニ非サルニ付本條モ亦之ヲ要スルニ事實認定上ノ非難ニシ上告ノ理由ナキモノトス

同第四條ヲ按スルニ他人ノ約諾文詞へ調印セシニ外ナラストノ論告ハ原裁判所ト意見ヲ異ニスルニ過キス又偽造若クハ移捺ナルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニ付上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

同第五條ヲ按スルニ原裁判所ハ約諾文詞ニ上告人ノ捺印アルヲ以テ第二義務者タルノ證據アルモノト看認メタル譯ナレハ疑ハシキモノト看認ムルノ筋ナキ知ル可シ且第二義務者ノ證據アリト看認ムル上ハ反證ナケレハ上告人ヲシテ其責務ヲ免レシムルヲ得サル筋ニ付

上告人ニ舉證ヲ責ムルモ不法ニ非ス

○公債證書請求ノ件 明治十九年
第百七十三號

愛知縣名古屋區三藏中之町四拾番地平民太田半兵衛 代言人ヨリ

三重縣桑名郡桑名南魚町六拾番地平民安井仁兵衛後見人安井政

次郎ニ係ル

初審 名古屋始審裁判所

終審 名古屋控訴院

本件ハ被上告人安井政次郎 初審原告ヨリ上告人太田半兵衛 初審被告
ニ對シ起訴シタルモノニシテ被上告人認求ノ要旨ハ曾テ上告人ニ貸
與セシ公債證書額面若干圓 被上告人ハ證據トシテ上告人ヨリ差入ク
レハ必要ナケノ内石川貞恒名義ノ分ハ元來他ヨリ抵當トシテ取置キシ
ヲ貸與セシモノナルニ期限經過スルモ上告人之ヲ返還セス抵當主ヨ

リハ請出方ノ請求切迫スルヲ以テ止ムヲ得ス上告人カ右公債證書ヲ
抵當トシテ差入レタル債主某ニ談シ同種類ナル伊藤カツ名義ノ公債
證書ヲ以テ之ヲ交換シタリ然ルニ上告人尙ホ之ヲ返還セサルニ付右
公債證書若クハ之ニ相當スル代金ノ返還ヲ請求スト云フニ在ルモ上
告人ニ於テハ上告人ノ借用シタル公債證書ハ曩ニ弟某ヲシテ返却セ
シメ其借用證書ヲモ取戻スヘキ筈ナリシニ其際弟某ニ於テ更ニ被上
告人ヨリ同額ノ公債證書ヲ借入レ折節實印ヲ所持セサリシヨリ右借
用證書ノ公債額面記載ノ際ヲ貼紙改正シ之ニ同人商用印ヲ押捺シ其
儘差入置キシモノニ付該證ニ對スル上告人ノ義務ハ全ク消散シタル
モノナレハ其請求ニ應シ難キ旨答辯シタリ初審裁判所ハ右借用證書
ノ貼紙ニ弟某ノ商用印ヲ押捺シアルハ他ニ原因アリテ弟某カ更ニ公
債證書ヲ借用シタル事實ニアラスト認定シ假リニ其事實アリシモノ
トスルモ其事實ハ上告人ノ承認スル所ナレハ上告人ハ弟某ノ爲メ被

上告人ニ對シテ契約上借主タルノ義務ヲ承認ゼシト明白ナルニ付之
 カ義務ヲ免レ得ヘキノ條理ナキヤ明ナリ況ンヤ一旦之ヲ返還シタル
 ノ證據ナキニ於テヲヤト上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ初審
 答辯ノ主旨ヲ敷衍シ假リニ上告人ニ義務アルモノトスルモ弟某カ抵
 當トシテ債主某ヘ差入レタルハ亡石川貞恒名義ノ公債證書ニシテ死
 後未タ嗣子某ノ名義ニ改メサルモノナリ而シテ某ハ幼年殊ニ後見ヲ
 受居ル者ナレハ假令ヒ同人ノ委任狀アルニモセヨ素ヨリ有効ノモノ
 ニアラサレハ賣買シ得ヘキモノニアラサルヲ以テ被上告人ニ於テ之
 ヲ交換セサル限リハ依然債主某ノ手元ニ存スヘキヲ勿論ニ付僅ニ若
 干圓ヲ以テ取戻シ得ヘキモ被上告人ニ於テ之ヲ伊藤カツ名義ノ公債
 證書ト交換シタルヲ以テ債主某ハ已ニ之ヲ賣却シタルニ由リ今上告
 人カ之ヲ返還セントスルニハ其額面ニ相當スル金額ヲ償ハサル可ラ
 ス斯ク上告人ノ出金額ニ差違ヲ生スルモノハ畢竟被上告人カ隨意ノ

所爲ニ基クモノニ付上告人ハ斯ノ如キ損害ヲ蒙ムルヘキ道理ナキノ
 ミナラス上告人ニ何ノ關係モナク隨テ追隨權ヲモ有セサル伊藤カツ
 名義ノ公債證書ヲ返還セヨトノ被上告人ノ請求ハ甚タ不當ナル旨控
 訴シタリ然ルニ終審裁判所モ亦本訴ノ公債證書ハ上告人ニ於テ之ヲ
 返還シタリト認ムルニ足ルヘキ證據ナキノミナラス上告人カ之ヲ使
 用セサルノ證據ト爲ヌニ足ルヘキ反證ナシト認定シ次ニ上告人カ公
 債證書ヲ借受タルハ當初ヨリ融通使用ヲ目的トシタルヲ今更疑フ可
 クモアラサレハ其額面ニシテ増加セス其種類ニシテ變換セサル限リ
 ハ設ヒ何人名義ノ證書ト變換スルモ返還ノ義務ニ毫モ輕重ノ差アル
 ヲナシト判定シ渾テ上告人ノ陳辯ヲ斥ケ初審ノ裁判ヲ認可シタルヲ
 以テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一原裁判所カ本訴
 ノ公債證書ヲ以テ上告人ノ借用使用シタルモノト判定シタルハ越權
 ノ裁判ナリトノ事第二原裁判所カ死者ノ名義ナルヲ以テ賣買シ得ラ

レサルト否ラサルトニ依リ返還ノ義務ニ輕重アル石川貞恒名義ノ公債證書ト伊藤カツ名義ノ公債證書トヲ同種類ナリト云フヲ以テ返還ノ義務ニ輕重ナシト判定シタルハ杜撰且理由不備ノ裁判ナリトノ事ニアリ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告要領書第一點ハ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第二條 同第二點ヲ按スルニ上告者カ最初借受タル石川貞恒記名ノ公債證書ニ添ヒタル委任狀ハ同人カ生存中交付セシモノナレハ其後該證書ヲ賣却スルノ時ニ於テ同人ハ既ニ死去シタリトモ其賣買ハ有効ナルモノトス然ラハ則チ同公債證書ト伊藤カツノ公債證書ナルトニ依テ上告者ノ爲メ損益輕重ヲ生スルノ謂ハレナキヲ以テ本項ノ申立ハ原裁判不法ナリトスルノ理由ト爲スニ足ラス

○抵當公債證書請求ノ件 明治二十年九月十六號

東京府京橋區南新堀町壹丁目拾壹番地平民説田彦助 代言人 渡部小太郎
リ同府北豐島郡坂本村百拾三番地土族二神種備ニ係ル

初審 東京始審裁判所
終審 東京控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ
上告第四號證

裁判言渡書

原告 上告人
被告 被上告人外二名

預ケ公債證書取戻ノ訴訟審理スル處
原告代言人訴フル旨ハ本訴公債書ハ甲第一號證ノ如ク保護ノ爲メ
被告某々ニ預ケンモノニ乙第一號證委任狀ハ云々本訴ノ公債證

書ヲ指スモノニ非サル上ハ即被告二神種備ヨリ該公債書證取戻ヲ
要求スルト言ニ在リ

被告某々代言人答ル旨ハ被告ハ固ト乙第一號證ノ如ク原告ヨリ其
公債證書ハ金融ノ爲メ預リシモノナレハ云々本訴ニ難應ト云フニ
在リ

被告二神種備答辯スル旨ハ本訴ノ公債證書ハ固采野庄三郎ナル者
ヨリ抵當ニ取リシモノニシテ期限ニ至リ返金セサルヨリ丙號證ノ如
ク買受ケシモノナレハ本訴原告ノ請求ニ難應ト云フニ在リ

依テ之カ始審ノ裁判ヲ爲ス如左

甲第一號證ハ云々尋常預ケ證文ニシテ保護ノ爲メニ被告某々ノ保
管ニ係リシモノトハ認ムヘキノ憑據ナク殊ニ云々乙第一號證ハ果
シテ云々ヲ指セシモノト認ムルノ憑據ナキノミナラス却テ云々本
訴ノ金祿並ニ起業公債證書ヲ指セシモノニシテ原告ハ之カ融通ヲ被

告某々ニ許セシモノト認ムルヲ得ヘク既ニ融通ヲ許セシ上ハ其采
野庄三郎ヨリ被告種備ヘノ輾轉ハ全ク該證ニ因リシモノナレハ本
訴要求ノ如ク種備ヨリ返還ヲ受クル權利ナキモノトス依テ原告ノ
認求ハ不相立云々

明治十五年三月廿日

東京始審裁判所印

以上ヨリ上告人ノ證據書類トス

被上告第八號證

延期約定證

一去ル明治十三年中說田彦助記名ノ七分金祿公債證書額面若干圓
抵當トシテ金若干圓ナリ借用仕置候處其後期限經過ニ付云々一
時貴殿へ賣渡シノ手續相運ヒ候得共右公債證書抵當ノ權利ヲ有
スルモ未タ賣買ノ權利ヲ移ラサルニ付全ク双方ノ錯誤ニ出テタ
ルヲ以テ賣買ノ効力ヲ有セサルモノニ付云々尙來ル明治十九年

一月廿日迄御猶豫被成下度云々

明治十八年十一月廿五日

采野庄三郎

被上告人宛

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス
 本件ハ被上告人ニ神種備初審原告ヨリ上告人説田彦助終審被告ニ對
 シ起訴シタルモノニシテ其請求ノ要旨ハ本訴ノ公債證書ハ曾テ上告
 人カ金融ノ爲メ某等二名ヘ貸與シタルヲ輾轉シテ采野庄三郎ナル者
 ヨリ被上告人ヘ抵當トシテ差入レタルモノナレハ被上告人ノ之ヲ占
 有スルハ固ヨリ正當ノ理由ニ基クヲ以テ曩ニ上告人ハ右公債證書取
 戻ノ訴訟ヲ提起シタルニ被上告第二號證上告第四號證ト同一ナレハ畧スノ如ク上告
 人ノ敗訴ニ販シ其裁判既ニ確定シタリ然ルニ右公債證書ハ豫テ他ニ
 之ヲ保管セシメ置キタルニ某者ノ爲ニ其記名ヲ變造セラレ刑事ノ裁
 判ニ依リ沒收セラレタリ依テ上告人ハ記名主タルノ廉ヲ以テ私訴ノ

裁判ニ基キ更ニ其筋ヨリ同額ノ公債證書ヲ受領シタレハ被上告第八
 號證ノ如ク被上告人ト庄三郎間ノ貸借未タ完済ニ至ラサレハ被上告
 人ハ依然該公債證書上抵當權ヲ有スルニ付上告人ハ直ニ之ヲ被上告
 人ニ引渡スヘキ義務ヲ負フモノナルニ其義務ヲ盡サハルニ付右ノ公
 債證書又ハ同額ナル他ノ公債證書若クハ之レニ相當スル代價ノ償却
 ヲ受タシト請求スルニ在ルモ上告人ニ於テハ被上告第一號證上告第一號證
 中ニ一號證トアル委任狀ナリハ庄三郎ニ宛タルモノニアラサレ
 然レハ必要ナケレハ之ヲ掲ケスハ被上告人カ本訴ノ公債證書ヲ庄三郎ヨリ抵當ニ取リタルハ無効ナ
 リ又假リニ被上告人ニ債主權アルモノトスルモ既ニ刑事ノ裁判ニ依
 リ上告人ノ全有ニ販シタル上ハ今更之ヲ取戻ノ權利ナキノミナラス
 被上告人ト庄三郎間ノ主タル貸借ハ已ニ期滿免除トナリタルモノナ
 レハ從タル擔保ノ義モ亦期滿免除ニ屬スルヲ勿論ナルヲ以テ到底其
 請求ニ應シ難キ旨主張シタリ初審裁判所ハ被上告第二號證ニ依リ被

上告人カ本訴ノ公債證書上ニ抵當權ヲ有スルコトノ確定シタル上ハ上告人ハ之ヲ被上告人ニ引渡サ、ルヲ得サルモノト爲シ又本訴ハ被上告人ト上告人間ノ私犯ニ屬スル問題ニシテ被上告人ト庄三郎間ノ契約ニ關スル問題ニアラサルノミナラス我邦未タ私犯ヨリ生スル損害要償ノ事ニ付訴期限ノ規定ナケレハ期滿免除ニ關スル上告人ノ申立ハ採用シ難シトシテ之ヲ斥ケ要スルニ上告人ハ被上告人カ今日ニ在テハ本訴ノ公債證書上ニ抵當權ヲ有セサルコトヲ證明スルコト能ハサルモノナレハ被上告人ノ請求ニ應セサルヲ得サルモノトノ判定ヲ下シ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不當ト爲シ上告人カ當初本訴ノ公債證書ヲ某等ニ預ケタルハ他ニ抵當ト爲スコトヲ許諾シタルニアラサレハ曩ニ重罪事件ニ於テ被上告人等モ共ニ其權利ヲ爭フタルニモ拘ラス上告人ニ下付スヘキ私訴ノ裁判ヲ受タリ而シテ被上告人第二號證ハ所有權ニ付テノ裁判ナレハ抵當權ニ關スル確定裁判ノ

證據トハ爲スコトヲ得ス又主タル貸借ハ已ニ期滿免除ヲ得物件ハ已ニ消滅シタルニ被上告人カ債主權外ノ金額ヲ請求スルハ最モ不當ナル旨控訴セシニ終審控訴院モ亦曩ノ私訴裁判ハ上告人記名ノ公債證書ナルヲ以テ上告人ニ受取り得ヘキコトヲ言渡シタルモノニシテ被上告人ノ抵當權有無ヲ判決シタルモノニアラス而シテ被上告第二號證ハ上告人ハ金融ノ爲メ本訴ノ公債證書ヲ某ニ貸與シタルモノナレハ之ヲ取戻スヘキ權理ナシトノ理由ヲ以テ上告人ノ訟求ヲ斥ケ庄三郎ヨリ抵當ニ取リタリトノ被上告人ノ陳述ヲ理由アルモノトシテ採用シタルコト明ナリト認メ上告人ハ期滿免除ノ事ニ付云々スレト被上告第二號證ノ裁判確定シタル上ハ被上告人該公債證書ヲ保有スル權アルコトヲ公認セラレタルモノナレハ出訴期限ニ關係ヲ有セサルモノト爲シ結局庄三郎ニ代リ其元利金ヲ辨償シタル上ハ格別否ラサレハ上告人ハ被上告人ノ請求ニ應スヘキ義務アルモノト判定シ初審ノ裁判ヲ

認可シタリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一項私訴ノ裁判ニ於テ上告人カ本訴ノ公債證書ヲ得タルハ上告人ヲ以テ眞ノ所有者ト認メラレタルニ依ルモノニシテ單ニ記名者タルノ故ニアラサルニ原控訴院カ單ニ記名者タルノ故ノミニ依ルモノ、如ク判示シタルハ不法ナリトノ事第二項上告第四號證ハ被上告人ニ於テ之ヲ買受タリト抗辯シ勝訴ヲ博シタルモノナレハ私訴ノ場合ニ於テ殊更ニ抵當物ナリト申立ツヘキ筈ナク從テ抵當權有無ノ判決ヲ爲スヘキ道理ナシ然レハ抵當有無ノ判決ナシトテ今更上告人カ私訴裁判ノ効果ニ依リ得タル所有權ヲ毀傷セラルヘキ理由ナキニ原控訴院カ抵當權ノ有無ヲ判決シタルニアラスト判定シタルハ不法ナリトノ事第三項原控訴院カ抵當有無ノ判決ナシト判示シタルハ被上告人ノ間ニ容易ニ作爲シ得ヘキ被上告第八號證ヲ偏信シテ賣買ニアラスト認メタルニ據ルモノナラン乎然ラハ一層不當ノ裁判ナリトノ事第四項原控

訴院カ上告第四號證ハ被上告人カ抵當ニ取リタルトノ陳述ヲ採用シタルヲ明ナリト判示シタルハ何ヲ以テ爾カ判定セシヤ其理由ヲ示サルハ審理不盡ノ裁判ナリトノ事第五項上告第四號證ハ賣買ノ判旨ヲ明ニ掲ケサルモ被上告人カ買受タリトノ一定ノ申立ヲ採用シタルヤ明ナルニ抵當ノ申立ヲ採用シタリトノ判定ハ誤判ナリトノ事第六項原控訴院カ庄三郎ニ代リ其元利金ヲ辨償シタル上ハ格別云々ト判定シタル畢竟上告第四號證ヲ以テ抵當ヲ採用シタリトノ誤判ニ因由スルモノナレハ是亦不法ナリトノ事ニアリ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一項第二項ノ旨趣ハ原裁判所カ上告人ノ曩ニ私訴裁判ニ依リ公債證書ノ下付ヲ受ケタルハ記名主タルニ由ルモノニシテ夫レカ爲メ被上告人カ曩ニ確定裁判ノ効ニヨリ得タル所ノ上告第四號抵當權ヲ害スルヲ得サル旨ノ裁判ヲ抗擊スルモノナリ

要スルニ本項ハ二個ノ裁判書ノ解釋ヲ非難スルニ過キスシテ法律上ノ上告ニ非ス依テ上告ノ効ナキモノトス

第二條 同第三項ノ旨趣ハ被上告第八號證ノ取捨ニ就テ論難スルモノニシテ是亦事實上ニ屬シ上告ノ理由ナシ

第三條 同第四項ノ旨趣ハ確定裁判ノ効力ハ法律ニ等シト雖モ裁判ノ意味解釋ハ法律上ノ問題ニ非ス依テ第一條辯明ノ通りタルヘシ

第四條 同第五項及ヒ第六項モ亦々第一條辯明ノ如ク裁判書ノ解釋ヲ非難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

○私用金催促ノ件明治十九年
第二百十九號

宮城縣陸前國牡鹿郡内脇村百十三番地平民米商阿波野謙介代言

藤終ヨリ同縣同國同郡石卷村三十三番地平民野蒜米商會所頭取

小西九兵衛ニ係ル

初審 石 卷 支 廳

終審 宮 城 控 訴 院

本件ハ被上告人小西九兵衛初審原告ヨリ上告人阿波野謙介終審原告ニ對シ起訴シタルモノニシテ即チ上告人カ會テ會所用ノ爲メ出京シタル際私用シタル金員ノ返還ヲ請求スルニ在ルモ上告人ニ於テハ本訴ノ金員ハ之ヲ使用シタルニ相違ナキモ右ハ會所ノ交際費ニ支拂タルモノニシテ私用シタルモノニアラサレハ其請求ニ應シ難シト主張スルニ在リ然ルニ初審終審共當時被上告會所カ交際費ヲ許可シタリト認ムヘキ證據ナシト云フヲ以テ上告人ノ抗辯ヲ斥ケ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ即チ其要領ハ第一項凡ソ他人ノ事務ヲ管理スルニ當テ實際ニ要シタル費用ハ本人之ヲ支辨スルハ普通ノ事ニシテ豫メ本人ノ許可ヲ得ヘキ必要ナシ然ルニ原裁判所カ會所ノ許可ナシト云フノ一點ヲ以テ上告人曲者ノ裁判ヲ下セシハ不法ナリトノ事第二項原裁判所カ被上告會所ノ創立委員

タリシ武山庫治ナル者ノ證言ヲ採用セザリシハ事實ニ齟齬アル審理不盡ノ裁判ナリトノ事ニ在リ然レニ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク上告第一項ヲ按スルニ他人ノ事務ヲ管理スルニ當テ費ス所ノ入用ハ委任ノ有無ニ拘ラス他人即其本人カ支辨ス可キハ普通ノ條理ナリト論告スレトモ豫メ契約ナキ場合ニ於テハ其事柄ニシテ本人ノ利益トナリシモノ、外本人ヨリ之ヲ償却セシムルヲ得ス同第二項ヲ按スルニ武山庫治ノ證言ヲ採用セサルヲ非難スルモノニシテ即原裁判所ノ權内ニ立入苦情ヲ述フルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス

○俸給金請求ノ件 明治二十年
第四百八十號

大阪府大和國添上郡大安寺村八拾五番地平民熊本熊三代
言人ヨリ同府同國同郡同村外三ヶ村戸長柳原春彦ニ係ル

初審 奈良 支 廳
終審 大阪 控 訴 院

本件ハ上告人熊本熊三初審終審
共ニ原告ニ於テ被告人柳原春彦初審終審
共ニ被告ニ對シ上告人カ被告上告戸長役場ニ於テ明治十六年八月ヨリ明治十八年六月迄奉職シタル用掛ノ俸給淹滯額合金五拾餘圓ヲ認求スルニ在ルモ被告上告人ニ於テハ被告上告人カ戸長トナリシハ明治廿年二月ニシテ曾テ前任戸長ヨリ本訴俸給金額ノ引繼ヲ受タルヲナケレハ被告上告人ニ於テ其責ニ任スヘキ理由ナキノミナラス用掛ナルモノハ固ヨリ官吏ニアラス普通ノ雇人ニ過キサルモノナレハ本訴ハ出訴期限規則第一條ニ依リ既ニ請求ノ權利ナキモノナリト主張シタリ初審裁判所ハ上告人カ對審ノ際陳述セシ處ニ依レハ其用掛奉職中ノ俸給金額ハ當時ノ戸長某ト上告人トノ間ニ於テ上告人カ上納スヘキ租稅村費等ト相殺スルノ合意アリシニ其後戸長ノ更迭アリシ爲メ上告人カ從來淹

滞シタル租税村費等ヲ徴收セラレタルニ起因シ本訴ノ俸給金額ヲ請求スルニ及ヒタルモノトス故ニ前任戸長某ノ所爲ハ戸長ノ職務上正當ノ所爲ニアラサルヲ明白ナリ夫後任戸長カ前任戸長ノ所爲ヨリ生スル結果ノ責ニ任スヘキハ唯其職上正當ノ所爲ヨリ生スルモノニ限ルヘキヲハ固ヨリ當然ニシテ某ノ所爲ノ如キハ實ニ其一己私擅ノ所爲ナルヲ以テ之ヲ甘諾シタル上告人ハ後任ノ戸長即チ被上告人ニ對シテ本訴ヲ提起スルノ權ナキ者トストノ判定ヲ下シ初審ノ裁判トシテ之ヲ言渡シタルヲ以テ上告人ハ之ヲ不當トシテ控訴セシニ終審控訴院ハ明治廿年六月十三日ヲ以テ本訴ハ百圓未滿ノ請求ニシテ初審裁判所カ言渡シタルハ終審ノ裁判ナルヲ以テ受理セスト之ヲ棄却シタリ依テ上告人ハ初審ノ裁判ヲ終審ト爲シ原裁判所カ其判文ノ前段ニ於テ「云々租税村費等ト相殺スルノ合意アリシニ云々」ト掲ケ其後段ニ「戸長ノ職務上正當ノ所爲ニアラス云々」ト判示シタルハ或ハ合意ノ成立タルモノ、如ク或ハ合意成立タサルモノ、如ク其意ノ歸着スル所ヲ知ラス既ニ合意ノ成立タルモノトセン乎后任戸長ハ更ニ租税村費等ヲ徴收スルノ理由ナキヲ以テ其之ヲ徴收セシハ果テ正當ナルヤ否原裁判所ハ宜ク前後兩戸長ノ所爲ニ付一々其正否ヲ明示セサル可ラス又合意ノ成立タサリシモノトセン乎固ヨリ何等ノ所爲モ存セス何等ノ甘諾モアラサリシモノナレハ本訴ノ金額ハ依然用掛ノ給料ナルヲ以テ后任戸長ハ宜ク相當ノ處置ヲ爲サ、ル可ラス然ルニ原裁判所カ何故ニ前戸長ノ所爲ノ職務上不當ナリヤ毫モ其理由ヲ示サス云々某ノ所爲ノ如キハ云々之ヲ甘諾シタル上告人ハ云々被上告人ニ對シテ本訴ヲ提起スルノ權ナキモノトスト恰モ上告人ヲ以テ前任戸長一人ノ雇人ノ如キ判定ヲ下シタルハ條理ニ乖戾スル不法ノ裁判ナリトノ事及原裁判ハ終審ノ裁判ニシテ上告ヲ許ルサ、ルモノナルニ原裁判所ハ之ヲ初審ノ裁判ナリト言渡シ上告人ヲ誤謬ニ陷ラシメタリ

トノ事ヲ第一項乃至第四項ニ區分シ纏々上告シタル後明治二十年十月十二日ニ至リ更ニ追伸書ヲ以テ大阪控訴院カ棄却ノ言渡ヲ爲シタルヲ不法ナリトシテ上告シタリ然レモ大審院ハ總テ上告ノ理由ナキモノト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク上告要旨第一項ヲ按スルニ原裁判所ニ於テ前戸長カ一己私擅ノ所爲ナリト判決セシハ戸長カ當然ノ職務上ニ關スル所爲ニ非ストノ謂ニシテ其所爲不正ニ出テ合意ノ成立タストノ判旨ニアラス然ルヲ上告人ハ右ノ判決ヲ指シ合意ノ成立タサルモノ、如キ判旨ナリトスルハ原判旨ニ副ハサルノ上告ナリトス因テ此論旨ヨリ生スル上告第二三項ノ論旨モ俱ニ不相立モノトス

同第四項ヲ按スルニ本訴請求金額ハ百圓未滿ナルヲ以テ原裁判ハ戸長ニ對スル訴訟ナリト雖モ其事柄タル司法裁判ニ屬スルモノナルニ依リ百圓未滿ハ始審裁判所ヲ以テ終審ノ權限ヲ有スルモノトス然ル

ヲ奈良支廳ニ於テ始審ノ裁判言渡スモノナリト宣告セシハ其當ヲ得スト雖モ素ト終審ノ權限ヲ有スル事件ナルヲ以テ右宣告ノ失誤アルモ上告人ノ利害ニ關係ナキヲ以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得ス

追申ノ要領ハ大阪控訴院カ爲シタル棄却ノ言渡ニ對シ上告スルモノナリト雖モ此上告ハ明治廿年十二月十二日ヲ以テ始メテ之ヲ爲セシモノニシテ而シテ右棄却ノ言渡ハ明治廿年六月十三日ナレハ上告期限ハ既ニ經過シタルモノトス依テ受理ス可キノ限ニアラス

○約權保安ノ件 明治十九年第六百六十六號

山形縣羽前國南村山郡上山十日町十五番地平民原田吉右衛門
代言人 岡ヨリ
 同人長男原田周藏 代言人 大谷ニ係ル
 民彌兵衛事高橋金六 代言人 大谷ニ係ル

初審 山形始審裁判所
 終審 宮城控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ
上告第一號證

印紙 約定書

貴殿素御所有南村山郡上ノ山十日町八百六拾三番宅地并建家共私
共ニ於テ今度某ヨリ買受候儀ハ畢竟貴殿責年ノ負債遂々逐ノ課ナ
相嵩ニ終ニ一家保續ノ目途不相立ヨリ保護方強テ御依頼ニ付深ク
其事情ヲ察シ一層保續ノ方法相立度精神ニ有之云々向フ貳拾年間
經過候上ハ右宅地建家共無代價ニテ讓與可致候其節營業資本トシ
テ金若干圓差進可申候云々

明治十三年十月廿四日

梅津清中初審被告外二名連印

上告人原田吉右衛門同周藏宛

裏面ニ表面之趣聽置候事ト戸長ノ與書アリ

以上ヲ上告人ノ證據書類トス

被上告第一號證

宅地建家土藏湯壺賣證券

南村山郡上ノ山十日町

八百三十六番地ノ内壹號

一宅地若干畝步

其地代價若干

一建家但有形ノ儘土藏壹棟湯壺貳ツ

右代價金若干圓也 但シ九三ヶ年返リ約定付

右者拙者所有之宅地建家湯壺土藏今般賣渡前書ノ金額正ニ請取候
處實正也云々

明治十四年六月十八日

梅津清中 印

證人 某 印

代書立會 某 印

被上告人高橋彌兵衛宛

戸長 某 奥 書 印

本件ハ上告人原田吉右衛門外壹名^{初審原告}ニ於テ被上告人高橋金六^{終審被告}及上告第一號證ノ約務者タル梅津清中ニ對シ起訴シタルモ^{初審原告}ノニシテ其認求ノ要旨ハ被上告人カ清中ヨリ旅籠營業諸器械ト共ニ買受ケタル被上告第一號證ノ物件ハ元來上告人ノ所有ニシテ曩ニ某ナル者ヘ三ヶ年期買戻ノ契約ヲ以テ賣渡置キタルヲ期限中清中外二名ニ於テ上告人ヲシテ累代ノ家屋並ニ營業株ヲ失ハサラシメントテ上告第一號證ノ契約ヲ以テ之ヲ清中等ニ買戻シ其營業ヲ引受ケタルモノナリ而シテ上告第一號證ハ戸長ノ公證ヲ受ケ公證割印簿ニ登録シアルモノナレハ清中ハ右物件ヲ轉賣シ得ルノ理由ナク戸長ハ其賣買ヲ公證スルノ謂レナキ筈ナルニ被上告人ハ右ノ契約アルヲ知ラス公證ノ上賣得シタリト云フヲ以テ其約務ヲ免カレントスルモ決シテ此

契約アルヲ知ラサルノ理由ナク曩シ之ヲ知ラサリシモノトスルモ其公證ハ無効ノ公證ニシテ右ノ契約ハ物件ニ附隨シテ離レサルモノナレハ被上告人ハ到底其約務ヲ免カレ能ハサルモノナリト將來ノ爲メ被上告人ニ對シテ此約權ヲ保安セント云フニ在リ而シテ清中ニ於テモ上告第一號證ノ契約ハ上告人ノ不幸ヲ憫察スルヨリ成立シタルモノニシテ清中カ本訴ノ物件ヲ被上告人ニ賣渡シタルハ其後清中不如意トナリタルヨリ上告人ノ權利ヲ保全セン爲メニ出テタルモノナレハ被上告人ハ充分其約務ヲ承認シテ買受ケタルモノナリ又被上告第一號賣渡證書ハ當時公證ヲ受ケタルモノニ非サルニ今之レニ公證アルハ其後被上告人カ一己ニテ受ケタルモノニシテ清中ノ認知セサル所ナル旨答辯シタリ然レトモ被上告人ニ於テハ本訴ノ物件ハ清中ノ所有物ナリト信シテ買受タルモノナレハ清中ト上告人トノ間ニ上告第一號證ノ契約アルヲ承知スヘキ謂レナク又被上告第一號證ノ公

證ハ證書授受ノ後ニ受ケタルモノナレトモ同時ニアラストテ公證ノ効
 カナシト云フヘカラスト尤モ其證書ハ三ヶ年期買戻ノ契約ヲ付シタル
 モノナレトモ期限後第二號證^{清中}ハ此證書ヲ認メスト云フ而シノ如ク
 涙金トシテ清中ヘ若干圓ヲ渡シ既ニ完全ノ所有權ヲ得タルモノナレ
 ハ其請求ニ應シ難キ旨主張シタリ初審裁判所ハ上告第一號證戸長ノ
 指令ハ成規外ノモノナレハ第三者タル被上告人ニ對シテハ其効力ナ
 キモノナリト雖モ清中及被上告人ノ陳述ニ據レハ被上告第一號證ノ
 公證ハ戸長ニ於テ清中ノ承諾ナクシテ與ヘタルモノニ付是亦公證ノ
 効ナキ錯誤ノ公證ナリ左スレハ被上告第一號證モ亦公證ナキ私約ノ
 證書ナレハ營業用諸器械ノ如キハ格別宅地等ノ所有權ハ被上告人ニ
 移ルヘキ理由ナキヲ以テ上告第一號證ノ約定ハ上告人ト清中トノ間
 ニ存在シ被上告人ハ上告人カ期限ニ至リ右宅地等ノ無代價讓渡ヲ受
 クヘキ權利ヲ妨害スヘカラストノ主旨ヲ以テ上告人勝訴ノ裁判ヲ下

シタルモ終審裁判所ハ之ニ反シテ被上告第一號證ノ公證ヲ完全ノモ
 ノト認メ上告第一號證戸長ノ與書ハ規則外ノ事ニシテ公證ニ等シキ
 効ナキハ勿論元來公證割印簿ナルモノハ公證ヲ受ル人民カ必ス檢閲
 スヘキノ定規モナケレハ被上告人カ之ヲ檢閲セス上告第一號證ノ私
 約アルヲ覺知セサリシトテ之ヲ瑕疵トシ又ハ之ヲ知リタルヘシト推
 測スルヲ得ヘカラスト爲シ又被上告人カ其第一號證ノ公證ヲ得タル
 ハ被上告人ト戸長トノ同謀ニ出タルナラントノ上告人ノ申立ハ全ク
 臆測ニ屬スルモノトシテ之ヲ斥ケ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告
 人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一上告第一號證ノ契約ハ本
 訴ノ物件ニ附着シタル條件ニシテ何人ト雖モ清中ヨリ本訴ノ物件ヲ
 得タルモノハ上告人ニ對シ此條件ヲ盡スヘキ責任アリ故ニ上告人ハ
 初審以來被上告人ハ右ノ契約ヲ知ルト否トヲ問ハス其實任ヲ脱スヘ
 キモノニアラスト論シタルニ原控訴院カ此必要ノ爭點ニ何等ノ説明

ヲ與ヘサリシハ審理不盡ナリトノ事第二上告第一號證ハ其公證ノ効
 カ如何ニ係ハラヌ兎ニ角戸長役場ノ公證割印簿ニ記載アルモノナリ
 然ルニ戸長役場カ再ヒ被上告第一號證ニ公證ヲ與ヘタルハ錯誤ニア
 ラサレハ憤レ合ニ出テタルモノナリト論シタルニ原控訴院カ此點ニ
 付何等ノ辯明ヲ與ヘサリシハ越權ナリトノ事ニ在リテ大審院ハ上告
 第一點ノ主旨ニ依リ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ
 其理由ニ曰ク上告第一點後半ヲ審按スルニ當時地所建物賣買ノ上ニ
 於テ公證ヲ受ケ之レヲ公衆ニ示スノ方法アルハ只單純ノ賣買ノミニ
 シテ條件ヲ附シタルモノ即チ本件ノ買戻シ契約其他一般土地ニ附着
 セシ權利義務ノ如キ契約ニ至ツテハ公證ノ成法ナキニ依リ已ニ買戻
 シ等ノ契約アリシ事實ノ明白ナル以上ハ其證書ノ公證有無ヲ以テ有
 効無効ヲ判定スルヲ得ス左レハ第一ノ賣主カ其條件ニ對シ公證ヲ受
 ケサルノ懈怠ヲ尤メ其責ヲ負ハシムル能ハサル筋ナルカ故ニ第三者

ノ地位ニ立チシ者ハ己レノ賣主ニ向ツテ要償ヲ爲スノ外第一ナル賣
 主ノ權利ヲ害スルヲ能ハサル可シ何ントナレハ第二者ハ己レノ有セ
 サル權利ヲ人ニ移スヲ能ハス又第三者ハ其己レニ對シ賣渡セシ者ノ
 有セシ權利ヨリモ貴重ナル權利ヲ得ルヲ能ハサルハ法理ノ然ラシム
 ル所ナルヲ以テナリ然ルヲ原裁判所於テ上告人カ被上告人ハ第二ノ
 買主梅津清中ト同様ノ權義ヲ相續シタルモノナルヲ辯論ニ付テハ
 何等ノ判決ヲモ與ヘサルノミナラス上告第一號證ハ公證ニ等シキ効
 ナキハ勿論云々ト判決シタルハ法理ニ反シ且爭點ヲ判セサル不法ノ
 裁判ナリトス

但シ本文原裁判ノ主タル要點ニ對シ不法アリテ破毀ヲ免カレサル
 以上ハ他ハ自ラ枝葉ニ屬スルヲ以テ逐條ノ辯示ヲ要セサルナリ

○地所引渡契約履行ノ件 明治十九年
第五拾壹號

栃木縣下野國鹽谷郡櫻野村平民瀧澤菊三郎 代言人
大谷ヨリ同縣
木備一郎

同國同村平民鈴木七平代言人白石剛ニ係ル

初審 宇都宮 支廳

終審 東京控訴裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

上告甲第一號

貴殿先祖ヨリ田畑宅地質地ニ取置候處地券御發行ニ付中ニハ私名
義之券證ヲ受又ハ地券ヲ互原ノマ、ニ券證ヲ受サル有之論所ニ相成候處私
名義ノ地券ヲ受候分ハ私地所トシテ未々無券證地所ハ貴殿之所有
トシテ券證受可被成候依テ如件

明治十三年一月二日

鈴木 某 印被上告人 養父

瀧澤 某宛上告人 父

以上ヲ上告人ノ證據書類トス
被上告乙第二號

高貫相渡申田地手形之事

字ハ略ス
一下田壹反貳畝廿四步

一中田九畝九步

一下田五畝廿七步

一下々田七畝廿壹步

反別ノ三反五畝廿一步

分米ノ若干

右者當御年貢御上納ニ差支好身五人組相談之上右之田地高貫ニ相
渡金子合若干借用申候處實正ニ御坐候云々

櫻野村

天明八年申正月

賣主 某 印上告人 祖先

五人組 三名 連印

櫻野村

某 宛被上告人祖先

右之通相違無之候ニ付與印候以上

組頭 三名連印

被上告乙第三號

質地ニ相渡申田地之事

一字ハ零ヌ下田壹反貳畝拾貳步

此分米若干

右者當丑年御年貢御上納ニ差支好身五人組相談ノ上右田地貴殿へ
質地ニ相渡金子若干借用申候處實正ニ御坐候云々

櫻野村田賣主

某

印前同

天明元年丑十二月

五人組受人

某

印

某 宛前同

右之通相違無之ニ付致與印候以上

庄屋 某外組頭二名連印

以上ヲ被上告人ノ證據書類トス

本件ハ上告人瀧澤菊三郎初審終審ヨリ被上告人鈴木七平 初審終審ニ

對シ甲第一號證ノ契約ニ基キ數通ノ證據書類甲第一號證メサレハ總シテ

ケテ揭ヲ揭ケ明和年度ノ調製ニシテ明治六年地券發行ノ際迄使用シ來

レル名寄帖ニ記載アル

下田壹反五畝六步

下田七畝二十四步

下田十二步

下々田七畝二十一步

下田壹畝十八步

中田九畝九步

中畑田成壹反九步以上ハ上告人カ上告狀ノ第一條ニ證據書類ヨリ
按萃列記シタルモノヲ本件ノ理會ニ便ナラシメ
ケンカ爲メ爰ニ掲
ケタルモノナリ

七筆ニ相當スル當時若干反畝歩ノ地所引渡ヲ起訴シタルモノニシテ
上告人ニ於テハ甲第一號證ハ明治六年地券發行續テ地租改正ニ當リ
上告人ノ先代ト被上告人ノ先代トノ間ニ論地外數筆ノ所有權ニ付紛
議ヲ生シ屢官衙ヲ煩ハシタル未明治十三年ニ至リ上告人ノ先代ニ於
テ更ニ之ヲ出訴セントスルニ際シ示談調和シ先代ノ間ニ授受シタル
モノナルモ被上告人之ヲ履行セサルニ付其履行ヲ請求スト云フニ在
ルモ被上告人ニ於テハ甲第一號證ハ其成立不正ノモノナリト之ヲ認
メス乙第二三號證ヲ掲ケ論地ハ被上告人ノ先代カ天明年度ニ於テ上
告人ノ先代ヨリ高貫又ハ普通ノ質地トシテ受取り従前ノ法律上悉ク
流地ト爲リ被上告人ノ所有ニ販シタルモノナリ而シテ右七筆ノ内第

一下田壹反五畝六步第二下田七畝二十四步ノ二筆ハ乙第二號證成立
ノ當時同證四筆ノ内第一下田壹反貳畝二十四步第三下田五畝二十七
步ノ三筆ノ替地トシテ受取り後ニ被上告人ハ場所建ニ
テ耕作シ來レト云フ乙第三號證下
田壹反貳畝拾貳步ノ一筆ハ右七筆ノ内第七中畑田成一反九步トアル
一筆ニ相當スルモノナリト云ヒ上告人ニ於テハ又之ヲ駁シ甲第一號
證ノ眞正ナルヲハ被上告人先代ノ實印及之ヲ授受シタル當時ノ事實
ニ徴スルモ明カナルノミナラス假リニ甲第一號證ノ契約ナシトスル
モ右七筆ノ上告人ノ所有地ナルヲハ天明以降ノ名寄帖ニ上告人名義
ニテ存スルト上告人ニ於テ之カ貢租諸役ヲ負擔シタル等ノ證據アル
トニ依リテ充分明瞭ナリ但其内第四下々田七畝二十一歩ト第六中田
九畝九步ノ二筆ハ乙第二號證ノ第二第四ノ二筆ニ該當シ質地タルヲ
疑ナシト雖モ是レ將々所有權ノ被上告人ニ移轉シタル證據アルヲナ
ケレハ之ヲ取戻シ得ヘキ權利アルハ勿論其他ノ五筆ハ全ク乙第二三

號證ニ關係ナキ地所ニシテ從來被上告人ヲシテ小作セシメシモノナ
 リト主張スルニ在リ初審裁判所ハ甲第一號證被上告人先代名下ノ印
 影ハ鑑定人ニ於テ一ヶ所相違ノトコロアリト證言シ其印影模糊トシ
 テ實印ナリト認ムルニ由ナク因テ更ニ論地ハ元來上告人ノ所有スヘ
 キモノナリヤ否ヤヲ審按スルニ本訴訟地ハ明和年度ノ水帳ニアル舊
 七筆ノ地所ニ相當スルモノニシテ上告人申立ノ如ク其内第四第六二
 筆ノ外ハ質地ニアラサルカ如シト雖モ乙第二號證ニ在ル第一第三ノ
 二筆カ明治六年ニ在リテ上告人ノ所有地ナルコトハ證據アリテ明カナ
 レハ如何ナル理由アリテ上告人カ之ヲ所有スルニ至リシヤ其反證ナ
 カラサルヘカラサルニ之ヲ取戻シタルノ證據ナク又右五筆カ小作地
 ナリトノ證據モナク又乙第三號證ノ地所ノ如キハ舊水帳ニ適合スル
 ノ地所ナケレハ乙第二三號證ハ右七筆ノ内第四第六二筆ノ外本訴訟
 地ニ對シ一片ノ古紙タルニ過キサル姿ナレト現ニ被上告人カ論地ヲ

耕耘セル事實等ニ照ラスキハ論地ハ往古ヨリ乙第二三號證ノ如ク質
 地ニ取置キシ地所ナリト信シテ所有シタリトノ被上告人申立ハ信用
 スルニ足レリト爲シ結局本訴ノ論地ハ悉皆被上告人ノ所有ニ皈シタ
 ルモノナリトノ判定ヲ下シ上告人ノ敗訴ト爲シ終審裁判所モ亦乙第
 二三號證ハ遠ク天明年度ノ調製ニ成ル高貫質地證書ニテ當時双方先
 代ノ授受ニ係リ爾來百有餘年ノ久シキ今日迄被上告人ニ於テ之ヲ進
 退ナスモノナリ併シ右論地ノ實タル悉皆此兩證ノ中ニ網羅シタリト
 云ニハアラス蓋シ該乙第二號證中第一第三ノ二筆ハ上告人之ヲ進退
 シ其代ニ被上告人ハ論地七筆ノ内第一第二ノ二筆ヲ進退セシト云フ
 ハ事實ナルヘシト被上告人ノ替地ナリトノ申立ヲ採用シ尋テ乙第二
 三號證ニ記載ノ高貫質地タル全ク明治六年第五十一號公布但書及同
 年司法省第四十六號達ノ趣ヲ以テ之ヲ流地ニ皈シタルモノト認得ル
 ニ餘リアリト判示シ上告人カ訟求スル論地七筆ノ内第三第五ノ二筆

被上告人ハ上告答辨書ニ於テ上告人ハ本訴論地ヲ七筆ナリト云フモ其
 第三第五ノ二筆ハ被上告人ノ關係セサル所ナルヲ以テ論地ハ實際五筆
 ナル旨陳ニ付テハ何等ノ判定ヲ與ヘス又第七ノ一筆ニ付テモ更ニ何
 等ノ判決ヲ下サス最後ニ甲第一號證ハ其成立不正ノモノナリトノ認
 定ヲ下シ共ニ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ其上告狀ノ首メ
 ニ於テ甲第一號證ノ判定ニ對スル不服ハ事實ノ認定ヲ批難スルニ立
 至ルヲ以テ此點ハ覆審ノ際ニ讓ル旨ヲ述ヘ續テ其第一條ニ於テ論地
 舊七筆ノ反別ヲ列記出前ニシ原裁判所カ何等ノ證據理由ヲモ掲ケス替
 地ナリトノ被上告人ノ申立ヲ事實ナリト斷定シ且暗ニ第七ノ一筆
 ヲ以テ乙第三號證ノ地所ニ當ルト爲シ乙第二三號證ニ關係ナキ第三
 第五ノ二筆ヲ乙第二號證ノ中ニ包含セシモノ、如ク斷定セシハ頗ル
 越權且理由ノ備ハラサル不當ノ判定ナリトノ事ヲ縷々論難シ且乙
 第二三號證ヲ以テ共ニ高貫質地證書ト看做シタルモ亦不當ヲ免カ
 レストノ事ヲ附記シ其第二條乃至第四條ニ於テ原裁判所カ明治六年

第五十一號公布但書及同年司法省第四十六號達ヲ以テ本訴論地ヲ流
 地ニ販シタルモノト認メ得ルニ餘リアリト判示シタル等ノ點ニ付種
 々原裁判ノ不當ナル事ヲ上告シタリ依テ大審院ハ原裁判ヲ不法ノモ
 ノト認メ之ヲ破毀シタリ
 其理由ニ曰ク第一條上告要領第一條ヲ按スルニ上告者カ本條ニ掲ク
 ル論地ノ舊反別七筆ノ内第三第五ノ二筆ハ被上告者ノ認メサル所ニ
 付果シテ此分モ論地ノ内ニ包含シアルヤ否ヤ明確ナラサレト原裁判
 所ハ此點ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘサルノミナラス他ノ五筆ノ内第一
 第二ノ二筆ハ乙第二號證ノ第一筆第三筆ニ對スルモノニテ代リ地ナ
 リトノ被上告者ノ申立ヲ採用シタレト但ニ事實ナルヘシト云如キ漫
 然タル言渡ヲ爲シテ其申立ハ何ニ依テ事實ト認メ得ラル、ヤノ理由
 ヲ示サス猶同第七筆ノ地所ニ付テハ毫モ判決ヲ下サス原判文中乙第
 三號證ノ効力ヲ論定シタル所アルニヨレハ或ハ該證ノ質地ニ適當ス

トノ被上告者ノ申立ヲ採タル意味ナラン歟トノ想像ナキニアラサレ
此是亦何故ニ該證ニ適當スルヤノ理由ハ勿論更ニ之ニ對スル判語ナ
ケレハ果シ然ルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキモノナリ抑事實認定ハ控訴裁
判官ノ主權トスル所ナレトモ右等訴件ニ關係アル争點ヲ判セス且争點
ヲ判スルモ其理由ヲ示サ、ル如キハ破毀ヲ免カレサル不法ノ裁判ナ
リトス

第二條 同第三條ヲ按スルニ明治六年第五十一號公布但書及同年司
法省第四十六號達ハ壬申二月十五日前后ノ區域ニヨリ與フヘキ裁判
法ヲ示シタルモノニ付之カ爲メ債主ト負債主トノ間ニ於テ未タ流地
トナサ、ルモノカ自然ニ流地ニ歸スヘキ道理ナキモノナリ然ルニ原
裁判所カ右布告達ニヨリテ本訴ノ論地カ流地ニ歸シタリト裁判シタ
ルハ法文ヲ誤解シタル不法ノ裁判ナリトス
但右ノ外申立ル條項アルモ更ニ覆審ノ上定マルヘキ事柄ニ付豫シ

メ爰ニ之ヲ辯明セス

○拂下地所立木等讓受契約履行ノ件明治十九年
第二百九十九號

千葉縣下總國印幡郡籙木村六拾五番地土族櫻井勇義ヨリ同縣同
國同郡同村百廿四番地森本新太郎及同縣同國下埴生郡押畑村平
民四宮善之助外九名ニ係ル

初審 千葉始審裁判所

終審 東京控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

上告甲第二號證

御拂下之地所讓渡可申義定

一金若干圓也 但地所讓渡可申前金

右者拙者金祿奉還仕候ニ付御拂下之地所地味等之義拙者ニハ相分
兼候ニ付貴所地所見立可申然ル上ニは拙者カ御拂下奉願御聞届之

上ハ貴殿ニ讓渡可申候間縣廳へ即納金之義は無違延上納可被致候
地所讓渡代金之義は云々之割合ヲ以何程ニ而も御聞届之町步ニ寄
代價無相違拙者へ可相渡然ル上は券狀書換奉願相渡可申候云々仍
而地所讓渡證如件

明治七年九月廿九日

讓渡人 森本新太郎被上告人ノ一印

上告人宛

上告甲第三號證

證

今般世祿奉還仕目途相立御拂下ケ願之義示談之上貴殿自費之約定
ニ而悉皆相任セ御拂下ケ奉願御聞届之上は立木生竹有之場所は木
竹御拂下ケ代金ニ而貴殿ニ無異義悉皆賣渡申候間木竹上納金貴殿
ヨリ即出金地所讓渡約定之通縣廳ニ地代ト一時ニ無違延上納可被
致候云々立木生竹賣渡一札如件

明治七年九月廿九日

讓渡人 森本新太郎印

上告人宛

本件ハ上告人櫻井勇義初審終審ニ於テ被上告人森本新太郎及四宮善
之助外九名共ニ審終審ニ對シ起訴シタルモノニシテ其請求ノ要旨ハ本
訴ノ地所ハ被上告人新太郎カ未タ拂下ノ許可ヲ得サル前甲第二三號
證ノ如ク新太郎ノ手取金ヲ定メ立木生竹共上告人ニ買受ケノ契約ヲ
爲シタルモノニテ曩ニ其許可ナリタル部分ノ拂下代金等上告人ニ於
テ悉皆之ヲ支辨シタル際右契約ニ基キ其部分ノ地券書替ノ手續等ヲ
盡サントセシニ新太郎ニ於テ悉ク許可ナリタル上同時ニ爲スヘシトノ
事ニ付其旨對談書必要ナケテハ略スヲ徴シ置キタルニ新太郎ニ於テ之ヲ他へ
賣却スル趣傳承セシニ依リ新太郎へ地券下渡中止ノ義戸長連署ヲ以
テ千葉縣廳へ出願シ置キシヲ新太郎ニ於テ不正ニモ縣廳ヲ欺キ地券
ノ願受ヲ爲シ之ヲ被上告人四宮善之助外九名へ重賣シタリ依テ物件

ニ追蹤シテ其取戻ヲ請求スト云フニ在ルモ被上告人森本新太郎ハ遂ニ訴狀ノ送達ヲ受ケス四宮善之助等ハ上告人請求ノ不當ナルコトヲ主張シタリ初審裁判所ハ上告人カ新太郎ヨリ本訴ノ地所ヲ買受タリト云フハ唯私約ニ止マレハ結約人ノ間ニ在テハ其効アリトスルモ善之助等ニ對シテハ其効ナク其立木等ノ如キモ地所ニ附着スル不動産ナレハ共ニ其權利ヲ證明スル能ハスト爲シ善之助等カ本訴ノ地所ヲ買受タルハ其情ヲ知り惡意ヲ以テ之ヲ買受タリトノ證據ナク正當ノ名義ヲ有シタル新太郎ヨリ買受タルモノナレハ善意且正當ノ名義ヲ以テ之ヲ所有スルモノト認定シ其他總テ上告人ノ請求ヲ斥ケ被上告新太郎ハ訴狀ノ送達ヲ受サルヲ以テ裁判ヲ與ヘサル旨判決シタリ終審裁判所ハ其判文第一條ニ於テ被上告人新太郎ハ甲第二三號ノ契約ニ基キ上告人ノ請求ニ應スヘキ義務アル旨ヲ判定シ第二條ニ於テ上告人カ善之助等ニ對シ本訴ノ地所木竹ヲ請求スル理由ハ要スルニ本訴

ノ地所ハ新太郎カ縣廳ヲ欺キ地券ヲ受ケシヲ奇貨トシ被上告人等共謀ノ上重賣故買ヲナシ即チ不正ノ成立ニ因テ得タル物件ナレハ占有ノ効ナシト云フニ外ナラサルモ拂下ヲ請願セシ者ハ新太郎ナレハ許可ノ上地券受ヲ爲スヘキモノモ亦新太郎ナラサル可ラス然ラハ假令上告人ト新太郎トノ間ニ於テ私約上背犯セシ所アル速新太郎ノ地券受ハ不正ニシテ効ナキモノト云フ得ス而シテ善之助等カ之ヲ買受所有シ居ルノ事跡ニ就テハ不正不良ノ故意ヲ以テ得タルモノナリト推測スヘキ廉ナク却テ何レモ既ニ正當ノ所有ヲ公認セラレ居ルノ事實明晰ナレハ上告人ハ公正ノ手續ヲ經テ所有セシ善之助等ニ對シ其所有ノ効力ヲ爭フノ權ナキハ勿論漫リニ共謀ナリト誣ユルヲ得ス又立木生竹等ノ如キハ別段ノ證左アラサル上ハ其土地ニ附着シ賣買セシモノト見做スヘキハ當然ナルカ故是亦請求ノ權利ナキモノト判定シ初審判文中新太郎ニ對シ裁判ヲ與ヘサリシ一部ヲ取消シ其他ハ相當

ニシテ取消スヘキ理由ナシト判決シ上告人ニ對スル訴訟入費ハ初審終審共新太郎之ヲ負擔シ善之助等ノ分ハ上告人之ヲ償却スヘキ旨言渡タリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一項及第二項被上告新太郎カ地券ノ下渡ヲ得タルハ縣廳ヲ欺キタルモノニ付被上告人等ノ間ニ爲シタル賣買ノ不正無効ナルコトハ勿論上告人カ本訴ノ地所ヲ讓受タルハ明治八年第百六號布告前ナレハ私約公正ヲ論スヘキモノニアラサルニ原控訴院カ新太郎ノ地券受ヲ不正ニアラストシ善之助等カ本訴ノ地所ヲ買受タルハ不正不良ノ故意ヲ以テ得タルモノト推測スヘキ廉ナシト爲シ又善之助等カ故買ノ證據ハ之ヲ審理スルキハ明ナルニ何レモ正當ノ所有ヲ公認セラレ居ル事蹟明晰ナリト裁判シタルハ不當ナリトノ事第三立木生竹等ノ賣買ハ公證スヘキモノニアラサルヲ以テ上告人カ甲第三號證ノ契約ニ基キ拂下代金ヲ上納シタル分ハ同時ニ其所有權上告人ニ移轉シタルコト明カナレハ新

太郎カ之ヲ賣却シタルハ盜賣ナルコト勿論證書ニ戸長ノ公證アルモ立木生竹等ニ就テハ無關係無効力ノモノナルニ原控訴院カ請求ノ權利ナシト判定シタルハ不法ナリトノコト第四項本訴ノ地所木竹ハ新太郎ニ於テハ一錢モ出サス之ヲ善之助等ヘ重賣盜賣シ二重ニ其代價ヲ收得シタルモノナレハ一箇ノ損害ハ新太郎ニ於テ之ヲ償フヘキ旨裁判セラルヘキ筈ナルニ原控訴院ノ裁判茲ニ出テサリシハ審理不盡ノ裁判ナリトノ事第五項原裁判所カ善之助等ノ訴訟入費ヲ上告人ニ償却スヘシト言渡シタルハ不當ノ裁判ナリトノ事ニ在リ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ其理由ニ曰ク第一條上告第一二項ヲ按スルニ甲第二三號證ハ豫約ニ過キス右ノ豫約ヲ以テ既ニ所有權ノ移リシモノト云フヲ得ス故ニ原裁判所カ拂下願人被上告森本新太郎ノ地券受ヲ不正ニ非ストシ又規則ヲ履ミ且善意ニテ買受ケタル被上告四宮善之助等ニ對シ所有權ヲ

争フ權利ナシトノ判定ハ不法ニアラス

第二條 同第三項ヲ按スルニ生立アル竹木ニシテ別段ノ契約ナキ限
リハ法律上其地所ニ附着シテ賣買セシモノト看做スヘキ筋ニ付此判
定モ亦當然ニシテ不法ニアラス

第三條 同第四項ヲ按スルニ上告人ヨリ損害要償ノ請求無キニ付原
裁判所ハ裁判ヲ與フルソ筋ナキモノトス

第四條 同第五項ヲ按スルニ上告人ノ請求相立サル上ハ上告人ハ裁
判上ノ曲者タルヲ以テ原裁判所カ被上告善之助等ノ訴訟入費ヲ上告
人ヨリ償却スヘシト判決シタルハ當然ニシテ不法ト云フコトヲ得サル
モノトス

○損害要償ノ件 明治二十年
三月二十二號

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡山口馬場町九番地平民日本郵船會社
矯竜丸船長中島吾平 代言人岡山兼
吉津谷徳爾 ヨリ北海道廳渡島國函館區豐

川町十三番地平民順速丸船主濱田靜次郎ニ係ル

初審 根室始審裁判所
終審 函館控訴院

本件ハ被上告人濱田靜次郎 初審原告
終審被告 ヨリ上告人中島吾平 初審被告
終審原告 ニ
對シ曾テ根室港内ニ於テ上告矯竜丸カ被上告順速丸ニ衝突シテ蒙ラ
シメタル損害ノ賠償ヲ請求スルニアルモ上告人ニ於テハ本訴ハ豫審
ノ判定ヲ乞フヘキ二個ノ條件アリ第一上告人ハ日本郵船會社ノ雇人
ナレハ假令ヒ上告人ニ過失アリトスルモ雇主其責メニ任スヘキ事第
二本訴ハ海上ニ於テ生出シタル事件ニ付管船局ノ裁定ヲ經サレハ果
シテ上告人ニ過失アリヤ否ヲ究ムルニ由ナキ事是ナリ依テ右二箇ノ
條件ニ對シ豫審ノ判決ヲ請求スル旨主張シタリ初審裁判所ハ明治十
三年第三十五號布告海上衝突豫防規則第二十四條ノ明文アルノミナ
ラヌ上告人ハ本案直接ノ加害者ナレハ好シ其賠償ノ責ハ雇主之ヲ負

擔スヘキモノトスルモ這ハ民事擔當人ノ資格ヲ以テ擔任スヘキモノニ付上告人カ私犯ノ責ハ結局上告人ニ於テ免ルヘコトヲ得ス又管船局ナルモノハ純然タル行政部局ニシテ加害者ト被害者トノ紛議ヲ裁斷スヘキ所ニアラサレハ本案損害賠償ノ責任如何ニ關シ審問ヲ下スハ全ク司法裁判所ノ職權ナリト判定シ終審控訴院モ亦凡ソ船長タルモノハ航海中ニ於テハ一船ノ進退ヲ指揮スルノ權專ラ其手裡ニ在リ隨テ其責任モ亦大ナリ素ヨリ普通雇人ト同視スヘキモノニアラス而シテ上告人ハ即チ衝突シタル上告船ノ船長ナレハ本案ノ對手人タルヲ免レサルコト勿論ナリト認定シ共ニ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一項本件上告船カ被上告船ニ損害ヲ與ヘタルハ意外ノ暴風ニ遭遇シタルニ出タルモノナレハ固ヨリ上告人其責ニ當ルヘキ理由ナキノミナラス假リニ船長ノ過失ヨリ衝突ヲ來シタリトスルモ雇主ノ指揮ニ隨ヒ其職務執行中ニ起リタ

ル事變ナレハ其責ニ當ル者ハ雇主ナルコト勿論ナリトノ事第二項原判文ニ明ナル如ク上告人ハ日本郵船會社矯竜丸船長ノ資格ヲ以テ訴ヘラレタルモノナレハ詰リ被上告人ノ對手人タルモノハ上告人一己ニアラスシテ日本郵船會社ナルコト明ナリ然ルニ原控訴院カ郵船會社ニ對スル訴訟ノ答辯ヲ其職權ナキ船長タル上告人ニ爲スヘキ責アルカ如ク辯明シタルハ不法ナリトノ事ニアリ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一項ヲ按スルニ上告人ノ過失ヨリ衝突ヲ來シタリトスルモ上告人ハ日本郵船會社ノ被雇人ニシテ服務中ニ起リタル事變ナレハ其責ニ當ル可キモノハ上告人ニ非ス雇主即チ日本郵船會社ナリト論告スレモ自己ノ過失ニ由テ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ義務ヲ負擔セサル可カラズ故ニ原裁判所カ上告人ヲ以テ本案ノ對手人タルコトヲ免レサルモノト論決シタルハ當然ニシテ不法

ニ非ス

其他衝突カ天災ニ由ルヤ否ヤハ本案ニ入り論ス可クシテ妨訴ノ場合ニ論ス可キモノニ非ス

第二條同第二項ヲ按スルニ原裁判所カ本訴ヲ以テ日本郵船會社ニ係ル詞訟ト看認メサルヲハ原判文上明白ナレハ日本郵船會社ニ對スル詞訟ノ答辯ヲ一己ノ上告人ニ命シタリト云フヲ得ス而シテ上告人ヲ被告ト爲シタルノ不法ナラサルヲハ前條辯明ノ通りニ付原裁判ハ越權ニアラス

○義務執行ニ關スル件 明治十九年 第百二十八號

岐阜縣美濃國厚見郡今泉村寄留平民杉下五平 代官人丸ヨリ同縣
同國同郡岐阜新町平民後藤忠右衛門ニ係ル

終審 岐阜始審裁判所

本件ハ金高百圓未滿ナルヲ以テ初審ノ裁判ヲ終審トシテ上告シタル

モノナリ而シテ其起因ハ曩ニ上告人杉下五平 終審ニ於テ被告後藤忠右衛門 被告 終審ニ對シ一訴訟ヲ提起セシニ初審 初審 本件終審 終審 名古屋控訴所共ニ上告人ノ勝訴ニ販シ其裁判確定セシヲ以テ上告人ヨリ之カ執行ヲ其初審即チ本件ノ終審裁判所ニ請求セシニ被告上告人ニ於テ控訴入費ニ係ル金額ノ内上告人カ證據トシテ呈供シタル帳簿寫若干枚ノ認料ハ内若干枚ヲ除ノ外ハ訴訟ニ關係ナキ無用ノ書類ナルニ付キ拂フヘキ理由ナキ旨申立タルニ由リ終審裁判所ハ名古屋控訴裁判所カ訴訟入費ニ付與ヘタル判決ハ只其負擔ノ被上告人タルヲ言渡シタルモノニシテ金額ニ對シ判決ヲ與ヘタルモノニアラサレハ其金額ハ未タ確定シタルモノニアラスト判定シ右證據ノ寫若干枚ノ内被上告人ニ關シタル部分ノ外ハ上告人ノ請求相立タサル旨言渡シタルヲ以テ上告人ニ於テ之ヲ不法トシテ上告シタルモノナリ即チ其要領ハ證據書類ノ訴訟ニ關係アルト否トハ名古屋控訴裁判所ノ審明スヘキ事柄ニシ

テ執行官ノ預リ知ルヘキ所ニアラス又原裁判所ハ金額ニ對シ判決シタルモノニアラサレハ云々ト判定シタレ其金額ハ訴訟入費消却規則ニ依リ起算スヘキモノナルコトハ我法律ノ定ル所ナレハ名古屋控訴裁判所ニ提出シタル證據書類ノ枚數明確ナル以上其金額ハ決テ未確定ニアラス之ヲ要スルニ原裁判ハ執行官ノ權限ヲ超越シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ大審院ハ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ヲ按スルニ裁判上ニ於テ證據書類ト稱スルモノハ特ニ論證ト爲ス所ノ書類ニ止マルヲ以テ上告人ヨリ提供シタル賣物帳寫ノ内本案ノ論辯ニ毫モ關係ナキモノ、如キハ固ヨリ證據書類ト云フコトヲ得ス左スレハ右賣物寫ノ内本案ニ關係ナキ部分ハ名古屋控訴裁判所ノ裁判ニテ採用セサルモノニ付右裁判ノ執行上無論除棄ス可クシテ更ニ裁判スルニ及ハサル筋合ナルニ原裁判所カ名古屋

屋控訴裁判所ハ金額ニ就テハ未タ裁判セストノ説明ヲ下シ更ニ此點ニ對シテ裁判ヲ與ヘタルハ不當ナレト右ノ不當ハ結局上告人ノ權利ニ害ナキヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

○裁判執行故障ノ件明治十九年 第二百六十八號

茨城縣常陸國東茨城郡水戸上市泉町士族加納マキ後見人加納甚三郎代言人ヨリ同縣同國同郡同町平民塙參三郎代言人岡ニ係ル

初審 水戸始審裁判所

終審 東京控訴院

本件ハ上告被後見人加納マキノ養子ニシテ曾テ加納家ノ戸主タリシ與右衛門ナル者カ養母マキヨリ離別ノ訴訟ヲ受ケタル際被上告人塙參三郎初審被告カ右與右衛門ノ爲メ保證人ト爲リテ其訴訟費用等ノ爲メ借入レタル金額ヲ期限ニ到リ被上告人ヨリ代償ノ上彙ニ與右衛

門ニ對シ訟求シ被上告人直者ノ裁判ヲ受ケタルニ間モナク與右衛門
 離別トナリタルヲ以テ被上告人ハ加納家ノ相續人タル加納マキニ係
 リ其執行ヲ出願シタルニ上告人加納甚三郎^{初審原告}ニ於テ此出願ヲ
 不當トシテ本案故障ノ訴訟ヲ提起シタルモノナリ是レ即チ本件起訴
 ノ顛末ニシテ其相争フ要旨タル上告人ニ於テハ本訴ノ金額ハ曩ニ與
 右衛門カ養母マキヨリ離別ノ訴訟ヲ受ケタル際被上告人與右衛門ニ
 荷擔シ加納家ニ對シテ不當ノ訴訟ヲ逞フスルノ資本ニ貸與シタルモ
 ノニシテ加納家ノ爲メニ借用セシモノニ非サレハ之カ執行ヲ加納家
 ニ求ムルハ不當ノ甚シキモノニ付速ニ執行願書ノ排斥セラレンヲ
 請求スト云ヒ被上告人ニ於テハ假令本訴ノ金額カ如何ナル性質ノモ
 ノニモセヨ與右衛門カ戸主中ニ爲シタル負債ナレハ其相續人タル加
 納マキニ於テ其義務ヲ繼承スヘキハ當然ノ事ナリト論争スルモノナ
 リ初審裁判所ハ與右衛門カ本訴ノ負債ヲ起シタル登時ノ身分ハ既ニ

離別勸解中ニ係リ一切ノ家産管理ヲ拒絕セラレ單ニ戸主タル名稱ノ
 存セシ迄ニシテ其金額ハ右訴訟事件ニ付與右衛門カ一己ノ費用ニ供
 シ被上告人ハ其情ヲ了知シテ之ヲ保證シ之ヲ代償シタルモノナレハ
 其負債ハ與右衛門ノ一身ニ止マルヲ普通ノ道理ニシテ加納家ニ於テ
 其義務ヲ繼承スルノ理由ナシト判定シタルモ終審控訴院ハ之ニ反シ
 假令與右衛門ト加納マキノ間ニ訴訟アリシニモセヨ與右衛門カ戸主
 中ニ爲シタル負債ハ其相續人タルマキニ於テ負擔スヘキハ固ヨリ當
 然ノ事ナリト判定シ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ原控訴院
 カ本件ノ貸借ヲ與右衛門戸主中ノ負債ト説明シタルハ法理ヲ誤マレ
 ル不當ノ見解ナリトノ事等纏々上告セシニ大審院ハ原裁判ヲ不法ノ
 モノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク上告論旨ヲ審按スルニ本訴ノ貸借ハ與右衛門カ加納家
 ノ戸主中ニ關スルニハ相違ナシト雖モ當時既ニ與右衛門ハ養母ナル

上告人ヨリ之レカ戸主ヲ廢シ離別ヲ爲スヘキノ願訴ヲ受ケ其認諍中ニ際セリ而シテ被上告人ハ其事實ヲ知リテ貸借ノ保證ニ立チ隨テ辨償ヲ爲シタルモノナリ然ラハ則此保證此辨償ハ加納家ノ爲メ爲シタルモノニアラスシテ與右衛門其人ノ爲メニ爲シタルモノト言ハサル可ラス如此場合其人カ該認諍ノ勝訴者トナリタルハ格別曲者トナリ迷ニ離別セラレタル場合ハ唯戸主ノ名ヲ冒シタル當時ノ貸借ナリト云フ一片ノ理由ヲ以テ其家ノ繼襲スヘキモノナリトハ論スルヲ得可ラサルナリ然ルヲ原裁判所ハ戸主中ノ負債ナリシト云フノ理由ヲ以テ養家ノ義務ニ屬スト判決セシハ條理ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス

○執行ニ附帶スル故障ノ件明治十九年 第五百五十五號

長野縣信濃國東筑摩郡麻績村三百廿番地平民林謙吾代理人植木太郎ヨリ同縣同國同郡酒井村平民柳澤順平代理人山田泰造ニ係ル

初審 松本支廳

終審 東京控訴院

本件ハ被上告人柳澤順平初審原告ニ於テ宮下昇初審被告之ナル者初審被告ニ對シ曩ニ確定シタル貸金催促裁判ノ執行ヲ請求シタル未其差押ヘタル財產公賣ノ揭示アリシニ上告人林謙吾初審原告ニ於テ其揭示財產中若干段別ノ地所ハ曾テ上告人カ昇之ヨリ買受ケ未タ戸長ノ都合ニ依リ其公證ハ之ヲ遂ケサレモ其實買ノ成立シタルハ戸長ノ明認スル所ニシテ既ニ所有權ノ上告人ニ移轉シタルモノナレハ假令其名義カ昇之ナルニモセヨ他ノ尋常負債ノ爲メ公賣セラレヘキモノニアラスト賣買證書其他數通ノ證據書類證據書類ハ總テ必要ヲ揭ケテ之カ故障ヲ爲スモノナルモ被上告人ニ於テハ凡ソ土地ノ賣買ハ明治十三年第五十二號公布土地賣買讓渡規則第一條ノ規定ヲ履踐セサレハ假令如何ナル契約アリモ當事者ノ間ニ於テハ格別他人ニ對シテハ決シテ其

効力ヲ有セサルモノナリト其故障ノ不當ナルコトヲ陳辯シ初審裁判所
 モ亦公證ノ手續ヲ盡サ、ル土地ノ賣買證書ハ結約者以外ニ涉リ所有
 權ノ移轉ヲ證スルニ足ラサルモノトナシ上告人ノ請求ヲ斥ケタルヲ
 以テ上告人ハ其趣旨ヲ敷衍シ上告人カ論地ヲ買取リタルハ被上告人
 ノ未タ差押權ヲ生セサリシ以前ニシテ之カ公證ノ手續ヲ遂ケサリシ
 ハ戸長公務上ノ都合ニ出テ決シテ上告人ノ懈怠ニアラサルコトハ其證據
 明確ナルノミナラス本案ハ他ニ手續ノ完備シタル公正證書アリテ之
 ト其効力ヲ爭フ如キ場合トハ同カラサルニ前顯ノ如ク上告人ノ故障
 ヲ斥ケラレタルハ不當ナル旨控訴セシニ被上告人ハ被上告人カ裁判
 ニ依リ昇之ノ財産ヲ差押ヘタルハ他ノ公證ヲ經テ買得シ又ハ抵當ニ
 取リタルト同一ナリ又上告人ノ賣買證書ハ被上告人カ勸解出願ノ未
 昇之承諾上身代限ノ達ヲ受ケタル後ニ成立シタルモノナリトノ事等
 ヲ申立テ上告人故障ノ不當ナルコトヲ主張シタリ然ルニ終審控訴院モ

亦初審ノ裁判ヲ認可シ土地賣買讓渡規則ノ手續ヲ經サル以上上告人
 ノ賣買證書ハ戸長ニ於テ其賣買私約ヲ承知シタルノ證據等アルモ總
 テ被上告人ニ對シテハ別段ノ効力ナキモノナリト判定シ上告人ノ敗
 訴トナシタルヲ以テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ抑土
 地賣買ニ公證ヲ要スル所以ノモノハ秘密賣買ノ現有主ヲ害スル恐レ
 アルニ出ツルモノナレハ苟モ其賣買ノ秘密ナラサル限りハ之ヲ有効
 ト謂ハサルヘカラス本訴賣買證書ハ戸長役場ノ都合ニ依リ與書セラ
 レサリシモノナルモ役場カ此賣買ヲ公認シタル以上秘密ノ賣買ニア
 ラサルコト明白ナルニ原控訴院カ當事者ノ怠リヨリ與書ヲ受ケサルモ
 ニ方リ第三者ノ爲メニ引用スヘキ土地賣買ノ規則ヲ援引シ戸長ヲ通
 常一己人ノ如クニ見做シ上告人不利ノ裁判ヲ與ヘタルハ不法ナリト
 云フニ在リ然ルニ大審院ハ上告論旨ニ依ラス原裁判ヲ以テ當然審判
 スヘキ事柄ヲ審判セサリシ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク上告ノ旨趣ヲ審按スルニ地所ノ賣買人ニ怠慢ノ廉ナク
 戸長役場ニ於テ實際其賣買アルコトヲ明知セル場合ニテモ其公證ヲ
 結了セサルニ於テハ他ノ公證完結セルモノト同視シカタクハ無論ノ
 義ニ付原裁判所於テ此手續ヲ盡サ、ル上ハ公證ナキモノト同一ナル
 旨趣ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ト云フ得サルモノナリ然レトモ抑土地
 ノ賣買證書ニ公證ノ有無ヲ以テ有効無効ヲ論究スヘキノ必要アルモ
 ノハ他ニ新タナル買得者又ハ書入質等ノ債主權ヲ有スルモノアリ之ヲ
 爭フ時ニ限ルヘクシテ本案ノ如キ普通ノ債權者カ其權利ヲ争フ場合
 ニ適用スヘキモノニアラス如何トナレハ物件ヲ買得タルモノカ其物
 件ニ對スル權利ト汎ク財產ヲ目的トシテ貸金シタルモノ、權利トハ
 自ラ區別アルヘキヲ以テナリ付テハ原裁判所ハ被上告者カ負債者宮
 下昇之ノ財產ヲ差押タルハ他ノ公證ヲ經テ買得又ハ抵當ニ取タルト
 同一ナリトノ申立及上告者ノ買得ハ被上告者カ治安裁判所ヨリ負債

者身代限ノ達ヲ受ケタル以後ニ係ル等ノ申立ニ對シ相當ノ審判ヲ爲
 シ然ル後上告者買得證ノ効力如何ニ及フヘキハ審判上相當ノ順序ナ
 ルニ此事ニ付何等ノ判決ヲ爲サスシテ直チニ明治十三年第五十二號
 布告土地賣買讓渡規則ヲ引用シ上告人ノ賣買ヲ無効トシタルハ判ス
 ヘキヲ判セサル不法ノ裁判ナリトス

○裁判執行異議ノ申立ニ對スル件 明治十九年
第百九十八號

新潟縣越後國古志郡長岡表三ノ町平民水澤昌平 代言人
元田肇ヨリ同縣
 同國三島郡瓜生村平民金子清一郎ニ係ル

初審 長岡支廳

終審 東京控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

被上告甲第一號證

裁判言渡書

原告 上告人 水澤昌平
被告 被上告人 金子清一郎
同 金子弘毅

貸金催促之詞訟審理ヲ遂ケ始審判決ヲナス如左

被告於テ甲第一號證借用證書ハ若月保造へ差入レ該金員ヲ借受ケタルモノニシテ原告名前ヲ記入セシメ之ナキ旨申立ルニ付之ヲ檢スルニ被告清一郎記載シタリト云フ若月保造名宛ト水澤昌平殿トアル五字ハ墨色ニ淡濃ノ差アリト雖モ其筆跡ニ於テハ同一ナリト認ムルヲ得ヘキモノトス云々甲第二號證上告人カ若月保造ヨリ書ナリ以下同シノ印影ハ全ク保造ノ實印ナルニ付若月保造カ連帶債主權ヲ以テ舉テ原告ニ讓渡シタルヤ明確ナリト云ハサルヘカラス然ルヲ被告ハ云々原告人ニ對シ返濟ノ義務ナシト申立ルハ頗ル其當ヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告申分一切採用セス云々

明治十七年九月三十日

長岡支廳

右正本ニ依リ謄寫候也

同年月日

書記 某 印

以下執行命令書ヲ舉ケタレト必要ナケレハ略ス

被上告甲第二號證

裁判言渡書

控訴人

金子弘毅

被控訴人

被上告人

水澤昌平

右水澤昌平ヨリ金子弘毅外一名へ係ル貸金催促ノ詞訟云々金子弘毅ヨリ控訴ヲ爲シタルニ付之ヲ審理シ双方代言人ノ陳述ヲ聽クニ其要領左ノ如シ

控訴代言人陳述ノ趣旨ハ本訴甲第一號證ハ云々若月保造一名ノ宛

名ニシテ曾テ被控訴人ニ關係之レナキモノナレハ云々被控訴人ニ對シテハ更ニ返濟ノ義務ナシト云フニアリ

被控訴代言人陳述ノ趣旨ハ云々甲第二號證ノ如ク若月保造ヨリ被控訴人於テ特權ヲ得タルモノニ付本訴ノ金額ヲ求ムト云ニアリ

依テ證據ヲ審閱シ説明スル左ノ如シ

甲第一號證中水澤昌平殿トアル五文字ハ其全文ト筆跡モ稍相違シ其墨色ニ至リテハ全ク淡濃ノ別アリ殊ニ被控訴人ニ於テ金子清一

郎ニ追記セシメタリト云ニ至リテハ後日ノ記入ニ係ルモノナルヲ斷シテ疑フ可ラス左レハ該五文字ノ追記ハ控訴人カ承諾ニ出タル

モノナリヤ否ヲ究明スル是本案ノ要點ナリト云々控訴人カ承諾上追記シタリトノ證據見ルヘキナク云々被控訴人ハ某年月日始審

廳ニ於テ云々ト供出シタルヲ見レハ該五文字ノ追記ハ控訴人カ承諾ニ出テタルニアラサルヲ自認シタルカ如シ又甲第二號證ハ若月

保造ト被控訴人トノ間ニ成立タルモノナレハ控訴人ヘ對シ効力ヲ有スヘキモノニ非ス云々

依テ判決スル左ノ如シ

云々長岡支廳カ明治十七年九月三十日言渡裁判ハ其當ヲ得サルニ付取消ス云々

訴訟入費ハ始審ニテ控訴人ニ係ル部分ト終審ノ全部ハ被控訴人ニ於テ負擔スヘシ

明治十八年九月廿八日云々

東京控訴裁判所

判事二名書記一名連署印

右正本ニ依リ謄寫シ下付スル者也

同年月日

書記 某 印

本件ノ起因ハ曩ニ上告人水澤昌平初審被告ニ於テ被上告人金子清一終審原告郎初審原告及其弟金子弘毅ヨリ上告人及若月保造ナル者ニ宛タル連

帶借入金證書壹通ヲ掲ケ被上告人及弘毅ニ對シ貸金催促ノ一訴訟ヲ提起セシニ初審ノ裁判甲第一號證ノ如ク上告人ノ勝訴ニ歸セシヲ以テ連帶義務者ノ一人ナル弘毅ヨリ之ヲ終審裁判所ニ控訴セシニ其裁判ハ甲第二號證ノ如ク初審ノ裁判ヲ平翻シ上告人ノ敗訴ニ確定シタリ然ルニ上告人ニ於テハ右確定裁判ノ効力ハ獨リ控訴人タル金子弘毅ノミニ止マリ初審ノ裁判ニ服從シタル被上告人ニハ其効力ヲ及ホサハルモノト爲シ被上告人ニ對シ初審裁判ノ執行ヲ求メタルニ初審裁判所モ亦タ其執行ヲ命令シタルニ依リ被上告人ハ曩ニ初審裁判所カ與ヘタル甲第一號證ノ裁判ハ甲第二號證ノ確定裁判ニ因リ既ニ消滅シタルモノニシテ右確定裁判ハ被上告人ニ對シテモ亦同一ノ効力アルモノナリト更ニ本件執行願ノ棄却ヲ訟求シタルモノナリ而シテ初審裁判所ハ被上告人ハ甲第一號證ノ裁判ニ服從シ控訴ヲモ爲サス已ニ其裁判確定シタルモノナレハ甲第二號證ノ裁判ハ其効力ヲ被上

告人ニ及ホスヘキ筋合ナシト判定シタルモ終審裁判所ハ之ニ反シ甲第二號證終審裁判ノ趣旨ハ畢竟被上告人カ甲第一號證ノ裁判ヲ受ルニ際シ訟護シタル趣旨ニ外ナラサレハ上告人ハ元來債主權ヲ有セサルモノト見做サ、ルヲ得スト爲シ凡ソ連帶義務者ハ相互ニ代理ノ性質ヲ有スルモノニシテ連帶者中ノ一名カ或ル利益ノ所爲アレハ其効果ハ他ノ連帶者中ニ及ホスヘキモノナルニ付被上告人ニ對スル甲第一號證ノ裁判ハ甲第二號證ノ裁判ニ依リ其効ヲ失ヒタルモノト判定シ上告人曲者ノ裁判ヲ下セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ即チ其要領ハ第一連帶義務者ハ互ニ代理ノ資格アリテ平等ノ義務ヲ有スルヲ通則ナレトモ其權利者ニ對スル權利ニ至テハ自ラ之ヲ拋棄スルヲ得ヘキヲ亦疑ヲ容レサル所ナリ即チ被上告人ハ初審ノ裁判ニ承服シ其控訴權ヲ拋棄シタルモノナリ然ルニ原裁判所カ此要點ヲ判決セス漫リニ連帶義務者ナリトノ點ヲ以テ本訴ヲ裁判セシハ判決

スヘキ點ヲ判決セサリシ不法ノ裁判ナリトノ事第二甲第二號證ノ裁判ハ事實ノ説明其他訴訟入費ノ如キモ弘毅ト被上告人トハ殊別シテ與ヘタル裁判ナルニ原裁判所カ殊別ナク判定シタルモノ、如ク之ヲ援引セシハ其解釋ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトノ事第三原裁判所カ甲第二號證ノ判旨ト被上告人カ甲第一號證ノ裁判ヲ受ルニ際シ訟護シタル旨趣ト同一ナルカ如ク辯明セシハ事實理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリトノ事第四原裁判所カ上告人ヲ以テ元來債主權ナキモノト認定シタルハ條理ニ背キタル裁判ナリトノ事第五原判文中連帶義務者ノ説明アレヒ本訴ノ借用證書ハ果テ連帶義務ノ契約アル證書ナリトノ説明ナシ是レ本ヲ究メスシテ未ヲ決シタル不法ノ裁判ナリトノ事ニアリ然レヒ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認め受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一項ノ旨趣ヲ按スルニ連帶ノ義務者ハ各連合シテ一ツノ義務ヲ負擔スルモノナルヲ以テ義務者中ノ一人ト權利者トノ間ニ於テ本來ノ義務ハ不成立ナリトノ裁判ヲ受タルハ其義務ハ渾テ無効ニ屬スルヲ以テ裁判ニ關係セサル義務者ニ至ルマテ相與ニ利益ヲ受ク可キ筋合ナリトス然ラハ則チ被上告人カ控訴セサリシハ甲第一號證ノ裁判ニ承服シタルカ故ナリトスルモ原判文ノ通リ上告人ト弘毅トノ間ニ於テ債主權ナキ旨ノ甲第二號ノ終審裁判ヲ受ケ既ニ其裁判確定シタル上ハ上告人ハ獨リ弘毅ニ對シテノ連帶ノ債主ト云フヲ得サル而已ナラス被上告人ニ對シテモ亦連帶ノ債主ト云フヲ得サル筋合ナレハ從テ本件ニ於テ被上告人カ控訴ノ權利ヲ拋棄セシヤ否ヤヲ審判スル必要ナキニ付原裁判ヲ以テハ判決ス可キ要點ヲ判決セサルノ不法アルモノト爲スヲ得ス

第二條 同第二三項ヲ按スルニ本項ノ論告ハ原裁判所ト甲第二號證裁判言渡書ノ見解ヲ異ニスルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ

得ス

第三條 同第四項ヲ按スルニ本項ハ事實ノ認定證據ノ取捨ニ對スル非難ナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

第四條 同第五項ヲ按スルニ上告人ハ被上告人ヲ連帶義務者トシテ訟求スルモノナレハ上告人ヨリ其證書カ連帶義務ノ證書ナルヤ否ヤノ説明ヲ望ム可キ筋ナシ依テ本項モ亦上告ノ理由ナキモノトス

○身代限執行ニ付味淋藏引渡ノ件 明治二十年六月號

愛知縣三河國幡豆郡一色村五百廿一番邸平民太田善四郎 代言人ヨリ同縣同國同郡川口村拾壹番邸平民三治八三郎ニ係ル

初審 名古屋始審裁判所

終審 名古屋控訴院

本件ハ上告人太田善四郎 初審原告ニ於テ某ノ身代限財産中曾テ抵當トシテ取置タル建物ノ内味淋藏壹棟被上告人三治八三郎 初審被告方

ニ引取り建設之レアルヲ認メ被上告人ニ對シテ其引渡方ヲ請求スルニ在ルモ被上告人ニ於テハ某カ上告人ニ差入レタル抵當證書ノ某及戸長ノ共謀ニ出タル偽造ノ證書ナルヲハ某等カ受タル刑事ノ裁判及該證書ノ沒收セラレタルニ依リ明ニシテ斯ノ如キ偽造ノ證書ヨリ特權ノ生スヘキ筈ナキヲ以テ被上告人ノ買得權ハ完全ノモノニ付其請求ニ應シ難キ旨主張シタリ初審裁判所ハ被上告人カ某ト本訴土藏ノ賣買ヲ約シタル證書 被上告第一號強テ必要ト認メサレハ之レヲ揭ケス 明治八年第四百十八號布告第一條ノ公式ヲ遵守セサル私證ニ止マルノミナラス賣買上必要ノ條件タル公簿登記ノ手續ヲ盡サハルモノナレハ第三者ニ對シテハ其効ナキモノニ付上告人ト某トノ間ニ於ケル契約ノ有効無効ニ拘ラス某ニ於テ身代限ノ處分ヲ受タル上ハ被上告人ハ其所有權ヲ主張スルヲ得サルモノト判定シ被上告人ノ敗訴ト爲セシモ終審控訴院ハ之ニ反シ某カ上告人ニ差入レタル抵當證書ハ證書面

ヨリ之ヲ見レハ當時ノ戸長カ法ノ如ク正當ニ與書割印ヲ爲シタルカ
 如キモ其實戸長役場ノ公簿ニ登記シアラサリシコトハ上告人モ亦之ヲ
 否トセス然ラハ上告人カ公衆ニ對シ書入質ノ權利ヲ有セサルコト明カ
 ナレハ被上告人カ本訴ノ土藏ヲ買取ルニ際シ善意ヲ以テセサリシ證
 據ナキ上ハ是ヲ以テ不正ノ賣買ト云フヲ得ス又上告人ハ被上告人カ
 賣買公式ヲ履サリシコトヲ云々スレモ明治八年第四百十八號公布建物
 賣買規則第二條ニ對シテハ明治十年第六十號公布ノ主旨モアリ且
 之ヲ原地ニ置クニアラスシテ其土地ヲ移ス上ハ復タ公式ノ必用アル
 ニアラストノ說明ヲ下シ結局上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人カ
 之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一條抵當證書ノ與書割印カ戸長
 役場ノ公簿ニ登記シアリシコトハ上告人カ終始申立タル所ニシテ乃チ
 原控訴院第一回ノ調書第十五項^{強テ必要ナ}ニ供述シアリテ其登記シ
 アラサリシトノ事ハ上告人ノ最モ否トスル所ナルニ原控訴院カ云々

上告人モ亦之ヲ否トセスト判示シタルハ越權不法ノ裁判ナリトノ事
 第二條書入質ナルモノハ賣買讓渡ト異ナリ書入質規則第三條ノ式ヲ
 履ミタル上ハ書入質ノ効アルコト勿論ニシテ其役場ノ帳簿ニ登記シア
 ルト否トハ人民ノ關知スヘキ所ニアラサルニ原控訴院カ公衆ニ對シ
 書入質ノ權利ヲ有セサルコト明カナレハ云々ト判示シタルハ法律ニ違
 フ不法ノ裁判ナリトノ事第三條本訴土藏ノ上告人ニ書入質ト爲リ居
 ルコトノ役場ノ帳簿ニ登記ナシトスルモ既ニ役場ノ明認スル所ナルハ
 被上告人モ亦自白スル所ナリ然ラハ被上告人カ之ヲ買取ルニ際シ建
 物賣買讓渡規則ニ從ヒ役場ニ付實際ノ取調ヲ爲サズ不正當ノ賣買ヲ
 爲シタルハ被上告人ノ怠ナルヲ以テ假令惡意ナシトスルモ被上告人
 ヲシテ其責ヲ負ハシメサル可ラサルニ原控訴院カ善意ヲ以テセサリ
 シ證據ナキ上ハ是ヲ以テ不正ノ賣買ト云フヲ得スト判示シタルハ法
 理ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトノ事第四條明治十年第六十號ノ公布

アリタレハトテ明治八年第百四十八號公布第二條ノ消滅シタルニア
 ラサレハ苟モ建物ノ買受又ハ讓受ヲ爲サント欲ルモノハ其建物ヲ原
 地ニ置クト否トニ拘ラス須ラク此規則ニ從ハサルヘカラサルニ原控
 訴院カ明治十年第六十號ノ旨趣モアリ云々復タ公式ノ必用アルニア
 ラスト判示シタルハ法律ニ違フ不法ノ裁判ナリトノ事第五條被上告
 丙第一號證ハ建物賣買ノ公式ヲ履マサル不正ノ證書ナルノミナラス
 未タ代金ノ授受タモ濟マサルモノナレハ一片ノ豫約ニ過キサルコトハ
 上告人カ原控訴院ニ於テ申立タル所ナルニ原控訴院カ果シテ豫約證
 ナルヤ將タ賣買證ナルヤノ要點ニ付何等ノ判決ヲ與ヘサリシハ聽斷
 ノ定期ニ乖キタル不法ノ裁判ナリトノ事ニ在リ然レモ大審院ハ原裁
 判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ
 其理由ニ曰ク第一條上告第一條ヲ按スルニ上告人カ上告ノ理由トシ
 テ引證スル原控訴院ノ口供第十五項ハ公證ヲ受ケタル當時公簿へ記

載セリトノ申立ニ止マリ之ヲ以テ現在ノ公簿ニ登記アリトノ申立ト
 云フコトヲ得サルニ付原裁判ハ越權ニアラス
 第二條 同第二條ヲ按スルニ凡ソ地所又ハ建物賣買質入書入等ノ契
 約ニ公證ヲ要スル所以ハ契約者以外ノ人ニ契約アル事ヲ公示スルノ
 方法ニ過キスシテ契約者双方間ニハ公證ノ有無ニ依リ其効力ニ差等
 ナキヤ論ヲ俟タサルナリ故ニ契約者双方間ノ證書ニ戸長ノ與印刷印
 アルモ役場ノ簿冊ニ登記ナキ時ハ外人ハ此契約アルコトヲ知ルヲ得サ
 ルカ故ニ外人ニ向ツテハ尙與印刷印ナキト一般ナリトス依テ原裁判
 ハ建物書入質規則ニ反スル不法ノ裁判ト云フヲ得ス
 第三條 同第三條ヲ按スルニ被上告人カ所争ノ藏ヲ買受ケ自己ノ宅
 地内ヘ引キ移シタル上ハ之ヲ取崩シテ更ニ建設セシト一般ナルヲ以
 テ此場合ニ於テハ建物賣買讓渡規則ヲ履行スルニ及ハス依テ被上告
 人ニ怠慢アリト云フヲ得ス

第四條 同第四條ハ前條ノ辯明ニテ理會シ得可キ筈ニ付別ニ辯明ヲ與ヘス

第五條 同第五條ヲ按スルニ所争ノ藏ニシテ既ニ被上告人ノ占有ニ屬セシ上ハ丙第一號カ約定證タルト否トニ關係ナキ筋ニ付原裁判所カ之ニ何等ノ理由ヲ附セサルモ不法ト云フヲ得サルモノトス

○裁判執行取消ノ件明治二十年四月十號

福岡縣筑前國福岡區天神町三十九番地寄留佐賀縣平民與村彦五郎代理人高ヨリ大阪府攝津國西區朝北通三丁目廿五番地瀛船長

崎丸船主大阪商船會社員金澤直兵衛代理人岩ニ係ル

初審 福岡治安裁判所

終審 福岡始審裁判所

本件ハ曩ニ上告人與村彦五郎初審終審ニ於テ瀛船長崎丸ノ船長木戸八十八及同事務長薄專六ニ對シ商品受取方並損家要償ト題スル一訴

訟ヲ提起シ本件ノ初終兩廳ヲ經由シ上告ノ未破毀ノ判決ヲ受ケ明治八年大審院商申判遂ニ小倉支廳ノ覆審ニ因リテ上告人ノ勝訴ニ皈シ爰ニ其裁判確定シ上告人ヨリ初審裁判所ニ其執行ヲ要メタルニ依リ初審裁判所ハ長崎丸ノ船主タル被上告人金澤直兵衛初審終審ニ原告ヲ引合人ト爲シ小倉支廳ノ裁判ハ當然引合人タル被上告人ニ於テ其執行ヲ遂クヘキモノナリト其所有財産ノ差押ヲ命シタリ然ルニ被上告人ハ同裁判所カ未々曾テ一回ノ喚問ヲモ受ケサル被上告人ニ對シテ其執行ヲ命シタルヲ不當ト爲シ更ニ同裁判所ニ本件取消ノ詞訟ヲ起訴シタルモノナリ然レモ同裁判所ハ本訴ハ確定裁判ニ依リ爲シタル執行命令ノ取消ヲ請求スルモノナレハ當裁判所ニ於テ受理審判スヘキモノニアラスト棄却シタルヲ以テ被上告人ハ之ヲ不法トシテ控訴セシニ終審裁判所ハ之ヲ受理シ且控訴ヲ願ト爲シ小倉支廳ノ裁判ハ被上告人ニ於テ直接賠償スヘントノ判決ニアラス云々ト初審ノ命令ヲ取消

シ更ニ船長木戸八十八事務長薄專六ヨリ賠償スヘキ旨命令シタリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一條命令ニ對シテハ未タ上訴ノ成定法アラサレハ固ヨリ上訴シ得ヘキモノニアラス又本訴ノ如ク更ニ訴訟ヲ起スコトヲ得ルモノトスレハ裁判終結ノ期ナク一事不再審ノ原則ニモ背犯スルニ至ラン故ニ初審裁判所カ本訴ヲ棄却シタルハ至當ニシテ原裁判所カ之ヲ受理審判セシハ越權不法ナリトノ事第二條被上告人カ原裁判所ニ差出シタル訴狀ハ控訴ニシテ願ニアラス然ルニ之ヲ願トシテ命令ヲ下シタルハ越權ナリ假リニ斯ノ如キ處分ヲ爲シ得ヘキモノトスルモ本訴ハ小倉支廳ノ終審裁判ニ對スル執行ナレハ小倉支廳ニ於テ其判意ヲ示スハ格別其管轄ニアラサル原裁判所カ之ヲ受理命令シタルハ越權不法ナリトノ事第三條原裁判所ノ命令ニハ小倉支廳ノ裁判ハ被上告人ニ於テ直接賠償スヘシトノ判決ニアラスタアレヒ本案ハ八十八專六ノ一己人ニ對スル訴訟ニア

ラスシテ其船長タリ事務長タル資格ニ對スルモノナレハ其勝敗ノ結果ノ本人即チ被上告人ニ皈スヘキハ條理當然ノ事ニ付故ラニ被上告人ヨリ直接賠償スヘシトノ明文ヲ要セサルナリト前訴兩造ノ辯論大審院ノ判決等ヲ援引シ原裁判所カ初審裁判所ノ命令ヲ取消シタルハ徹頭徹尾不法ナリトノ事ニアリテ大審院ハ上告第一二條ノ點ニ對シ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク上告第一二條ヲ審按スルニ裁判ノ執行ヲ擔任スル裁判所ハ毫モ自己ノ意見ヲ加フルコトナク唯終結裁判言渡ノ通り執行ヲ命令スヘキヤ論ヲ俟タサルナリ若シ之レニ反シテ執行裁判所カナシタル命令ノ原裁判言渡以外ニ出タリト思量スル場合ハ其終決裁判ヲナシタル裁判所ニ對シ之レカ救正ヲ求ムルノ外アラサルナリ如何ントナレハ執行命令ニ對シ控訴ヲナシ得ルコトハ法律ノ規定ナク又條理ノ許ス所ニアラサレハナリ然ルニ當被上告人ハ執行裁判所ノ命令ヲ不

當トシテ之レヲ原裁判所ニ陳告セス尙ホ其執行裁判所ニ命令ノ取消ヲ求メ同廳カ受理セサルニ依リ更ニ福岡始審裁判所ニ控訴及ヒシハ順序ヲ誤リタルモノニシテ從テ同裁判所カ之レヲ裁判セシモ亦不法ナリトス

但本條上告要點ニ對スル辯示ヲ以テ福岡始審裁判所ノ言渡ハ自カラ無効ニ歸スルヲ知了シ得可ケレハ他ノ上告點ハ不必要ニ屬スルカ故逐條之レカ辯明ヲ附セサルモノトス

○公賣品回復ノ件 明治十九年
第二百七十號

栃木縣下野國下都賀郡栃木旭町平民梁島ヨノ相續人梁島トニ後見人椿本孫平 代言人宇
佐美房ニヨリ同縣同國梁田郡福富村平民中井浪吉及同縣同國同郡同村平民長祐之 代言人
岡野寛ニ係ル

初審 栃木治安裁判所
終審 栃木始審裁判所

本件ハ上告被後見者ノ先代梁島ヨノ 初審終審
共ニ原告ニ於テ曩ニ被上告人等 初審終審
共ニ原告ニ内中井浪吉外拾數名ニ對シ貸金催促ノ一訴訟ヲ提起シタル未身代限ノ處分ニ依リ差押ヘタル財産ヲ揭示滿期ノ後公賣セントセシニ被上告人浪吉ニ於テ生立チノ儘差押ヘラレタル若干畝歩ノ大豆ヲ差押中收穫ノ上恣ニ其地主ナル他ノ被上告人長祐之ニ小作米トシテ引渡シタルヲ以テ其公賣ヲ中止シ被上告人等ニ對シ本訴回復ノ急訴ニ及ヒタルモノナリ而シテ其起訴ノ要旨ハ身代限ノ處分ニ依リ裁判所カ法律ノカヲ以テ差押ヘタル物品ハ法律ヲ以テ處分スルノ外何人ト雖モ之ヲ左右スルヲ能ハサルモノナリ然ラハ即チ被上告人浪吉ハ差押ニ係ル本訴ノ物件ヲ恣ニ地主祐之ニ引渡スヘキノ權利ナク地主タル被上告人祐之ニ於テモ亦之ヲ追訴セスシテ私ニ受取ルヘキノ權利ナキト勿論ナレハ被上告人等ノ授受ハ假令善意ニ之ヲ爲シタルモノニモモ法律上無効ノモノナリ又被上告人等ハ小作米ノ如キ

ハ地主ニ先取特權アリト云フモ先取特權ナルモノハ一般法律ノ成規
アルニアラサレハ之ヲ有スルモノニアラスト其回復ヲ請求スルニ在
ルモ被上告人浪吉ニ於テハ凡ソ債主カ負債主ノ財産ニ付差押ヘ得ヘ
キ物品ハ法律上差押ユルヲ得ヘキモノニシテ必スヤ負債主ノ所有
權アルモノニ限ルハ法理ノ然ラシムル所ナリ然ルニ本訴差押ニ係ル
大豆ハ豫テ地主祐之ニ小作米トシテ定期差入ルヘキ契約アルモノニ
シテ小作人タル被上告人浪吉ノ所有權アルハ只其殘余ノ作得ト爲リ
得ヘキ部分ニ限レハ差押ヘノ効力モ亦右ノ限度ニ止マリ決シテ小作
米ニ迄及ホスヘキモノニアラサルヲ勿論ナルヲ以テ之ヲ地主祐之ニ引
渡シタリトテ敢テ差押ニ抵觸スルモノニアラスト云ヒ被上告人祐之
ニ於テハ小作人浪吉カ身代限財産調書ニ該小作米ヲ書出タルヤ否ハ
之ヲ知ラサレモ小作米ノ如キハ租税且公費ノ幾分ヲ含蓄スルモノナ
レハ地主ニ固有ノ特權アリテ小作人身代限ノ場合ト雖モ他債主中ニ

分配セラルヘキモノニアラサレハ之ヲ受取リタリトテ敢テ瑕瑾アル
モノニアラスト共ニ訟求ノ不當ナルヲ主張シタリ初審裁判所ハ被
上告人浪吉カ出來秋ニ至リ係官ノ許可ナクシテ小作米ヲ被上告人祐
之ニ渡シタルハ畢竟忽卒ニ出タリトスルモ小作米ノ如キハ借家人ノ
家賃滞リト異ナリ所有主ノ地所ヨリ産出スルモノニシテ之ヲ以テ公
租等ニ充ツヘキモノナルニ付地主祐之ニ於テ所得權ヲ有スルモノト
見做サレルヲ得スト判定シ終審裁判所モ亦本案ノ小作大豆ハ其成熟
ニ至リ被上告人浪吉ヨリ被上告人祐之ヘ渡シ祐之ハ之ヲ受取リ其小
作物ヲ以テ公租等ニ充ツ可キ筋ナルニ依リ身代限リ尋常配當ニ加入
スヘキ限リニアラスト之ヲ要スルニ本案ノ如キ其小作大豆ノ現存シ
ル上ハ借家ノ家賃又ハ貸金ノ利子トハ其性質ヲ異ニシ條理上地主祐
之ハ先取權アルヘキモノナルカ故之ヲ授受シタルハ不當ト爲スヲ得
サルモノニシテ法律上之ヲ責ムヘキノ道ナク又當然祐之ノ得ヘキモ

ノナレハ追訴ノ有無ニ關係ヲ來スヘキモノニアラスト判定シ上告人ニ於テ浪吉ヨリ祐之ニ渡シタル小作米ノ多寡ニ付申立ル所アリシモ此點ニ付テハ何等ノ判決ヲ與ヘス初審ノ裁判ヲ認可シ共ニ上告人ノ敗訴ト爲セシヲ以テ上告人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ即チ其要領ハ第一條初審及終審ノ判文ニ小作米又ハ小作大豆等ノ文詞アレハ物件ニ小作ノ名稱ヲ下スハ借地人ト地主トノ間ノ授受ノ瞬時ニ限ルモノニシテ其前後ハ借地人又ハ地主ノ所有物ナレハ決シテ小作ト稱スヘキモノニアラスト即チ本訴ノ差押ヘ物件ハ被上告人浪吉ノ耕作物ニシテ浪吉ノ所有穀類ナリトノ事第二條本件先有特權ノ有無ニ付キ決定スヘキ第一ノ要點ハ地主ノ小作米ニ對スル權利ノ性質如何ヲ定ムルニ在リ而シテ原裁判所ハ小作米ヲ家賃ト區別シ恰モ物上權ノ如ク判示シタレハ作物ヲ賃貸トナスハ畢竟便宜ニ基キタルモノニシテ家主ノ家賃ニ於ケルト更ニ差異アルトナク其權利ハ對人權ナリトノ事第三

條其第二點ハ先取特權ナルモノハ法律ヲ俟タスシテ存スルモノナリヤ將々法律ヲ俟テ後ニアラサレハ存セサルモノナリヤヲ定ムルニ在リ而シテ原裁判所カ地主ニ此權アリト爲セシモノハ蓋シ伊佛等ノ小作契約ニ此權アルニ依リシナルヘシト雖モ伊佛ニ此權アルハ其法律アルカ爲ニシテ法律ナキモ道理上此權アルモノニアラスト即チ先取特權ナルモノハ法律ノ規定ナケレハ存セサルモノニシテ我邦未タ此種ノ先取特權ヲ規定セシ法律ノ明文ナシトノ事第四條原裁判所モ條理上云々ト判示シタルヲ見レハ法律上ニテハ此權ナキヲ信認シタルモノナリ然ルニ地主ニ此權アルノ理由トシテ附シタル辯明ハ唯小作物ヲ以テ公租等ニ充ツ可キ筋ナルニ依リトアルニ止マレリ然レモ是レ等ノ事ヲ以テ其理由ト爲サハ苟モ賃貸物件ニシテ納稅スルモノナルハ其賃貸ハ先取權アリト爲サ、ル可ラストノ事其他第五條乃至第七條ニ於テ本訴ノ物件ハ既ニ身代限リニ際シ差押ヘラレタルモノ

ナレハ之ヲ處分センニハ裁判所ノ指揮ヲ受ケサル可ラサルニ原裁判所カ地主ト小作人トノ間ニ於テ自儘ニ處分スルモ尙ホ其効アリト裁判シタリトノ事及被上告人等ノ授受シタル小作米ハ過當ノ高額ナル旨申立タルニモ拘ハラス原裁判所カ此點ニ付何等ノ判定ヲ與ヘザリシトノ事等總々論告スルニ在リ依テ大審院ハ上告第三條及第四條ノ點ニ對シ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク上告要旨第三條第四條ヲ審按スルニ先取權ナルモノハ衆價主ニ先立チ之レヲ得ルノ特權ナレハ如何ナル物件カ先取特權ヲ有スルヤ又其配當ノ順序ニ關スル權利ノ輕重ハ如何ナル順序ニ依リテ之レヲ定ムヘキヤ是レ必ス法律ノ制定ヲ俟チ後行フヘキモノトス然ルニ本邦未タ小作物ノ先取特權ニ關スル成法アルコトナシ故ニ若シ本件ノ如キ貸地ヨリ生スル物品ヲ以テ貸家ノ家賃ト區別シ先取權ヲ有セシメントナラハ必スヤ之ニ對スル格段ナル理由(即チ法理上動ス

ヘカラサル理由ナカルヘカラス徒ニ該物品ヲ以テ公租ニ充ツヘキ筈又ハ條理上云々等漫然タル言詞ヲ以テ之ヲ斷定スルヲ得ヘカラス如何トナレハ貸地ヨリ生スル物品ヲ以テ金ニ換ヘ公租ニ充ルモ貸家ノ家賃ヲ以テ家屋稅ニ充ルモ實理上ニ於テ毫モ相違スル所ナク又條理上云々ト云モ如何ナル條理ナルヤ之ヲ知ルニ由ナキ理合ナルヲ以テナリ然ルニ原裁判所於テ他ニ格別ナル理由ノ明示ヲモ爲サスシテ其小作物ヲ以テ公租等ニ充ツヘキ筈云々條理上地主ハ先取權アルヘキモノト言渡タルハ法律ノ制定ヲ俟テ行フヘキ事柄ヲ未タ制定ナキニ行ヒタルモノニテ不法ナリトス

但シ上告論旨ノ如ク本訴ノ物件ハ既ニ身代限リニ際シ差押ヘラレタルモノナレハ之レヲ處分センニハ裁判所ノ指揮ヲ受ケサル可ラサルニ地主ト小作人ノ間ニ於テ自儘ニ處分スルモ尙ホ其効アリト裁判シタルノ不法及ヒ小作額ノ不當ヲ駭撃セシ上告者ノ論告アリ

シニ之レニ對シ判決ヲナサス即チ事實ヲ定メサル等原裁判ノ不法
アルモ本文原裁判所カ主眼トシテ與ヘタル要點ニ付破毀セラレ、
以上ハ他ハ自ラ覆審ニ屬シ定マルヘキヲ以テ詳悉ノ辯明ヲ緊要ト
ナサ、ルナリ

明治二十年大審院商事判決錄

目 錄

一 貸 金 催 促 ノ 件	會社ノ責任及ヒ外國人勝訴ノ時訴訟入費ニ關ス	明治二十年	一
一 預 ケ 金 請 求 ノ 件	銀行役員カ其營業上他人ニ被ラシメタル損害ニ對スル銀行ノ責任ニ關ス	明治十九年	六
一 賣 掛 代 金 請 求 ノ 件	出訴期限規則ノ適用ニ關ス	明治十九年	一八
一 賣 掛 代 金 催 促 ノ 件	證據書類ノ取捨及事實ノ認定ニ關ス	明治十九年	二一
一 工事受負代金并ニ附帶損害要求ノ件	勸解願下書面ノ効力及權利義務相殺ノ法理ニ關ス	明治十九年	二八
一 地券臺帳名寄帳代金請求ノ件	出訴期限規則ニ關ス	明治二十年	二八
一 材木買取代金并ニ諸入費金取戻ノ件	出訴期限規則ノ制裁等ニ關ス	明治十九年	三四
一 賣 木 代 金 請 求 ノ 件	證據書類ノ取捨及契約ノ目的物件ノ錯誤アルニ關ス	明治十九年	三七
一 委託品代金請求ノ件	事實ノ認定ニ關ス	明治十九年	四四
一 委託品契約履行ノ件	指直ナキ委託品ノ販賣ニ關スル被託者ノ權利ニ關ス	明治十九年	五三
		明治十九年	五八

明治十八年大審院商事判決録

○貸金催促ノ件明治二十八年十一月號

岩手縣陸中國南岩手郡東中野村四拾三番地土族一條基定外一名

代理人 佐藤新藏ヨリ神奈川縣横濱區居留地四拾番館英國商モリソン

商會ニ係ル

初審 東京始審裁判所

終審 東京控訴院

本件ハ被上告人モリソン商會初審原告ヨリ鑛業會社株主總員ニ對シ起訴シタル貸金催促ノ詞訟ナルモ上告人一條基定外一名終審被告ニ於テ上告人等ハ本案貸借契約ノ成立以前ニ脱社シタルモノニ付被告トナルヘキモノニアラスト豫審ノ裁判ヲ請求シタルモノナリ初審裁判所ハ上告人等脱社ノコトハ之ヲ證明スルニ足ルモノナク却テ上告人等カ貸借契約成立ノ當時依然該會社ノ組合員タリシ證據明白ニ付

上告人等ハ本案答辯ノ義務アルモノト判定シタルヲ以テ上告人等ハ之ヲ不當ト爲シ鑛業會社ハ府知事ノ認可ヲ經タル其定款ノ緒言ニ有限ヲ以テ組織スル旨ノ明文アレハ有限責任ノ會社ナルヲ明カニシテ上告人等カ本案貸借ノ成立以前其株券ヲ他人ニ讓渡シ該會社ヲ脱シタル顛末ハ社員桑原清三ヲシテ株券帳等ヲ持參セシムルトキハ自ラ判然スヘキニ付覆審ヲ仰ク旨控訴セシニ終審控訴院モ亦鑛業會社ハ國立銀行若クハ鐵道會社ノ如キ政府ニ於テ成定シタル有限責任ノ法則ニ基キ設立シタルモノニアラサルヲ勿論ニ付假令該會社ノ定款中有限ノ文詞アルニモセヨ這ハ株主限りノ申合ニ止マルヲ以テ之ヲ承知セサル被上告人ニ對シ有限責任ナリトハ言フヲ得ス況テ頭取始メ株主總代ノ連署ニ係ル本案借用證書^{必要ヲ掲ケレハ}ニ無限責任タルノ明文アリテ有限責任ノ會社ト認ムルヲ得サル以上鐵道會社ノ如ク通常株券ヲ賣却シテ脱社スルヲ得サルノミナラス假リニ之ヲ讓

渡シ得ヘキ場合アリトスルモ桑原清三カ提出シタル株券帳等ニ依ルニ上告人等ハ依然該會社ノ株主ニシテ未タ脱社セサルモノト認定ストテ被上告人ニ於テ鑛業會社ニ資産乏シキモノト認ムル上ハ其株主タル上告人等ニ對シ訟求スルモ隨意ナリト判定シ訴訟入費ハ初審終審共上告人等ノ負擔タル旨言渡シタリ依テ上告人等カ此裁判ニ服セス上告シタル要領ハ第一上告人等カ株券ヲ讓渡シテ組合員ヲ脱シタルヲハ桑原清三ノ證言ニ依テ明瞭ナルノミナラス該會社ノ定款ハ府知事ノ認可ヲ經タルモノナレハ株主限りノ申合規則ナリトハ云フ可ラストノ事第二本案ノ貸金證書ニ無限責任ノ明文アルハ却テ會社ノ成立有限ナルヲ證明スルモノナリ其故ハ元來無限責任ノ會社ナルハ殊更ニ無限責任タルノ明文ヲ掲クヘキ理由ナシトノ事第三該會社ハ暫ク無限責任ニシテ上告人等ハ其組合員ヲ脱セサルモノト假定スルモ會社ノ存在スル間ハ先會社ニ係リ次ニ組合員ニ係リ出訴スヘキ

モノナルコトハ原控訴院ニ於テ兩造ノ爭論アリシ所ナルニ原控訴院ハ此點ニ對シ何等ノ裁判ヲ與ヘザリシトノ事第四外國人爭論事件ニ付テハ假令日本人ノ勝利トナルモ訴訟入費ヲ請求スルコトヲ得サレハ日本人ノ勝利ノ時モ亦之ヲ拂フノ義務ナシトノ事ニ在リ然レモ大審院ハ原裁判ヲ適法ノモノト認メ受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一項ヲ按スルニ桑原清三ノ證言ニテ上告人等カ組合ヲ脱シタルコト明瞭ナリトノ論告ハ原裁判所ノ權内ニ立入り事實ノ認定證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キヌ又府知事ノ認可ヲ經タル而已ニテ有限責任タルコトヲ世間ヘ公告セサル以上他人ヘ對シテ有限責任ノ會社ナリト云フコトヲ得サルハ原裁判ノ通りニ付此點ノ原裁判ハ法理ニ背クモノニ非ス

第二條 同第二項ヲ按スルニ本項ハ原裁判所カ證書ノ文詞ヲ摘採シテ無限責任ノ證據ニ供シタルニ反シ元來無限責任ナル時ハ斯ル文言ヲ掲クヘキ理由ナシトノ論告ニシテ是亦事實ノ認定上意見ヲ異ニスルニ過キサレハ上告ノ理由無キモノトス

第三條 同第三項ヲ按スルニ無限責任ノ會社ノ義務ハ其株主ノ資産ニ推シ及ホス可キモノニ付其會社ニ資産ナキコトヲ看認メタル債主ハ會社ヲ差置キ直ニ株主ヲ被告トスルコトヲ得可キ筋ナリトス而シテ原

判文末段被扣訴人^{被告}ニ於テ鑛業會社ニ資産乏シキモノト看認ムル上ハ云々隨意ナリトストアレハ則チ其論點ニ對シ裁判ヲ與ヘタル筋合ナリトス

第四條 同第四項ヲ按スルニ外國人ノ訴訟事件ニ付日本人勝利トナルトモ訴訟入費ヲ請求スルヲ得サレハ外國人勝利ノ時モ之レヲ拂フノ義務アラスト論告スルモ外國人交渉ノ訴訟ナリトテ必スシモ總テ右ノ如クナルヘシトノ規定アラサレハ此論告ハ上告人一己ノ見解ニ止リ上告ノ理由ナキモノトス

○預ケ金請求ノ件 明治十九年 第二百拾六號

新潟縣越後國東蒲原郡津川町三千四百六拾五番地第三十一國立
銀行頭取平田次七代言人 木村惣平ヨリ東京府麴町區富士見町一丁目三
拾壹番地華族從五位侯爵佐竹義生ニ係ル

初審 若松 支廳
終審 宮城 控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

被上告甲第一號證

番號	證
明治十四年三月十五日限渡	
金若干圓	
右金高正ニ預リ申候此手形引	
換ニ相渡可申候也	

裏

表面ノ金額ハ預ケ主亦々其名
指人ニ渡スヘキニ付甲ヨリ乙
へ手形ヲ渡ストキハ梓内ノ凡
例ニ從テ年號月日渡先ノ姓名
及ヒ本人記名調印ナシタル上

第三十一國立銀行

支配人

明治十四年 取締役菊地久馬印
一月卅日

頭取

永田平太郎殿

順次何人へモ授與スルヲ得

ヘシ

年號月日	渡先姓名	本人記名調印
明治十四年 二月七日	川村洋與殿	永田平太郎印
同年八月二日	佐竹義生殿	川村洋與印

本件ハ被上告人佐竹義生初審原告ニ於テ上告人平田次七終審被告ニ
對シ甲第一號證預金ノ取戻ヲ請求スルニ在ルモ上告人ニ於テハ右預
リ券ハ舊取締役菊地久馬カ東京支店閉鎖ノ後一己ノ融通ノ爲メ調製
シタル無効ノ偽證書ナレハ其請求ニ應スヘキ義務ナシト主張シ引合
入菊地久馬ニ於テハ右ハ曩ニ銀行ノ困難ニ際シ一時金融ノ爲メ振出
シ永田平太郎ヨリ川村洋與へ讓渡名義ヲ以テ之ヲ抵當ト爲シ洋與代
理某へ交付シ金若干圓ヲ借用シタルモノナルモ其金員ハ程ナク之ヲ
返却シ其際右證券ノ返還ヲ求メシニ某ニ於テ洋與ノ手元ニ在ルヲ以

テ所持セサル旨申聞ルニ付返却期日ヲ約シ某及平太郎ヨリ返リ證書ヲ受領シ置キシモ右券面ニハ十四年三月十五日限渡ト記載アルヲ以テ期限後ハ無効ノ反古紙ナリト心得其儘打捨置キタル旨申立タリ初審裁判所ハ甲第一號證ハ必竟久馬カ銀行ノ困難ヲ補ハン爲メ取締役ノ名義ヲ以テ振出シタルモノナレハ久馬ノ擅斷ニ出タルト否トハ暫ク措キ上告銀行ハ之ニ對シ關係ナシトハ言フコト得ス又久馬ト平太郎及某トノ間ニハ竊ニ貸借ノ義務消散シタリトスルモ甲第一號證ノ依然流通セシメアル以上銀行取締役タル者ハ未タ公然負債ノ義務ヲ脱却シ得サルコト亦論ヲ竣ス而シテ上告人ハ甲第一號證ノ正式ニ違フタルト其成立ノ支店閉鎖後ニ係ルトヲ以テ無効ノモノナリ本店ノ關知セサルモノナリト拒辯スレモ券面記載式ノ如何ハ他人ノ關知シ得ルモノニアラス又既ニ預リ金ヲ爲シタル上ハ閉鎖ヲ口實トシテ之ヲ返還セサルノ理アルヘカラス殊ニ閉店ニ付テハ條例第四百四條ニ依リ

三ヶ月間其廣告ヲ爲スヘキ筈ナルニ果シテ上告人ニ於テ此手續ヲ盡シタリト認ムヘキ確證ナク且上告人ハ條例第六拾三條ヲ以テ拒辯スル所アルモ同條ハ本件ノ預リ券ノ如キニ適用スヘキ條目ニアラスト爲シ結局久馬ニ斯ル私擅ノ所爲アラシメシモノハ久馬ヲ任命シタル上告銀行ノ怠惰ニ原因シタルモノニ付之ヨリ生シタル損害ハ上告銀行ノ責任ナルコト勿論ナルノミナラス上告銀行ハ條例第六章第六拾四條ニ照シ遂ニ其義務ヲ免レ得サルモノナリト判定シ終審控訴院モ亦上告人ハ甲第一號證カ支店閉鎖後ノ發行ナリト云フヲ以テ之ヲ無効ナリト論スレモ上告銀行カ右閉鎖ニ付條例第四百四條ノ手續ヲ盡シタリト見認ムヘキ確證ナケレハ甲第一號證ハ被上告人ニ對シテハ閉店以前ニ發行シタルモノト同視スヘキモノト爲シ上告人ハ甲第一號證ハ實際金圓ヲ授受シテ發行シタルニアラス又該證發行ノ事ハ久馬一己ノ所爲ニシテ銀行ノ關知セシ所ニアラスト論述スレモ良シヤ甲第一

十
號證ヲ發行シタルハ久馬カ自己ノ爲メニセシモノニシテ實際金員ヲ預リタルニアラストスルモ銀行ハ久馬ニ對シ之ヲ責ムヘキニ止リ被上告人ニ對シ抗辯スルノ具ト爲ストヲ得ス又久馬カ銀行ノ印章ヲ濫用シ該證ヲ發シタルハ必竟上告銀行カ任用スヘカラサル久馬ヲシテ事務ヲ扱ハシメタル過失ニ出タルモノナレハ被上告人ニ對スル論資ト爲ストヲ得サルハ明瞭ニ付此等ノ論點ハ之ヲ審究スルノ必要ナシトシテ之ヲ斥ケ又上告人ハ被上告家カ甲第一號證ヲ讓受タルハ拂渡期限後ナリト云フモ該證ノ性質タル汎ク讓與ヲ許スノ約束手形ナレハ其預リタル金圓ニ期限ヲ定メ其期限後ハ金圓ヲ拂渡サスト云フカ如キハ頗ル例外ノ事ニ屬スルヲ以テ其明文ナキ以上ハ被上告家カ之ヲ讓受タル日ノ期限後ナリト云フヲ以テ被上告人ノ要求ヲ拒ムトヲ得スト爲シ終ニ上告銀行ハ該證ノ金額ニ本件勸解以後執行迄ノ日數ニ對スル法律上ノ利子ヲ附シ之ヲ被上告人ヘ完済スヘキ旨裁判シ共

ニ上告人ノ敗訴ト爲シタリ依テ上告人カ之ヲ不法トシテ上告シタル要領ハ第一項及第二項銀行條例第四百四條ハ銀行本店カ平穩鎮店ノ手續及發行紙幣引換方ノ事項ヲ示シタルモノナルコトハ條例第十三條第四百四條乃至第百八條ニ就キ明白ニシテ決シテ支店ノ廢止ニ關スヘキモノニアラサルニ原控訴院カ該條ヲ援用シテ本件ヲ斷定シタルハ違法ノ裁判ナリトノ事第三項原控訴院カ甲第一號證ノ實際金員ヲ授受シテ發行シタルモノナリヤ否及該證發行ノ事ハ久馬カ一己ノ所爲ニシテ銀行ノ關知セシモノニアラサルヤ否ヲ審究セサリシハ審理不盡ノ裁判ナリトノ事第四項原控訴院カ甲第一號證ヲ發行シタルハ久馬カ自己ノ爲メニシテ實際金員ヲ預リタルニアラストスルモ被上告人ニ對シ抗辯スルヲ得サル旨判定シタルハ條例第六拾四條ヲ誤解シタルニ因ルヘキモ同條ハ約束手形爲替手形ノ銀行ノ命任ヲ受タル者ノ手ニ成立タル場合ヲ制裁スル條目ナレハ久馬カ甲第一號證ヲ發行シタ

ルハ果テ上告銀行ノ命任ヲ受タルモノナルヤ否ノ點等ヲ審究スルハ必要ノ事ナルニ原控訴院カ之ヲ審究セス依ルヘカラサル同條ニ據リタルノミナラス甲第一號證ヲ約束手形又ハ爲替手形ナリト視做シタル辯明ヲモ與ヘス前掲ノ判定ヲ下セシハ審理不盡ノ裁判ナリトノ事第五項久馬カ印章ヲ濫用シ甲第一號證ヲ發行シタルハ素ヨリ上告銀行ノ豫期セサルヲナルニ原控訴院カ之ヲ上告銀行ノ過失ナリト判定セシハ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナリトノ事第六項上告人カ被上告人ノ甲第一號證ヲ讓受タル日ノ期限後ナルヲ論シタルハ該證券ノ無効ト爲リタルヲ識リツ、讓受タル被上告人ノ怠リヲ論シタルモノニシテ被上告人ノ請求ヲ拒ム直接ノ原由ニアラサルニ原控訴院カ其怠ノ點ニ付テハ説明ヲ與ヘス單ニ期限後ハ拂渡サストノ明文ナシト云フヲ以テ之ヲ斥ケタルハ事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナリトノ事第七項甲第一號證ハ既ニ義務ノ消散シタル無効ノ證書ナルヲ川村洋

與カ被上告人ノ先代ヲ欺罔シテ讓渡タルモノナルヲハ久馬ノ豫審終決言渡書等ニ依リ明瞭ニシテ既ニ其事實ノ刑事上確定シタル上ハ民事上ニ於テモ亦之ヲ無効ニ歸セシメサル可ラサルニ原控訴院カ之ヲ有効ト爲シタルハ違法ノ裁判ナリトノ事第八項假リニ甲第一號證ヲ以テ義務アルモノトスルモ久馬カ之ヲ一時若干圓ノ抵當ト爲セシ事實ハ刑事上確定シ居ルカ故ニ其借用セシ金額ノ外ハ返辦スルノ理由ヲ見出スト能ハサルニ原控訴院カ券面ノ金額ノミナラス尙ホ之ニ法律上ノ利子ヲ附シ完済スヘキ旨判定シタルハ違法ノ裁判ナリトノ事第九項及第十項甲第一號證ハ支店閉鎖ノ後假リニ久馬ヲシテ殘務ヲ取扱ハシメタル際久馬カ越權不正ノ所爲ヨリ發行シタルモノニ付上告銀行ハ恰モ普通雇主ト雇人トノ關係ノ程度ノ如ク毫モ責任アルヲナキニ原控訴院カ此不正ノ偽證書ヲ以テ支店閉鎖前ニ發行シタルモノト同一ナリ久馬ヲシテ殘務ヲ取扱ハシメタルヲ以テ上告銀行ノ過

失ナリト判定セシハ事實ノ理由ヲ錯誤シタル裁判ナリトノ事第十一
 項上告人カ甲第一號證ヲ無効ナリト主張スル理由ハ第一甲第一號證
 ハ久馬カ自己ノ爲メニ發行シタルモノニシテ銀行ノ關知セサルモノ
 ナルヲ第二其發行ハ支店閉鎖後ニ係ルヲ第三該證ニ押用シタル印章
 ハ支店閉鎖ト共ニ無効ニ屬シタル支店ノ印章ヲ濫用シタルヲ三點
 ナルニ原控訴院カ上告人ノ甲第一號證ヲ無効トスルノ理由ハ單ニ支
 店閉鎖後ニ係ルト云フ一點ニ止マルカ如ク判定セシハ事實理由ノ齟
 齬アル裁判ナリトノ事第十二項流通期限ヲ定タル手形ヲ支拂期限經
 過ノ後讓リ受タル者ハ唯リ其讓渡人ニ係リ之ヲ請求スルニ止マリ振
 出人ニ對シ請求スルノ權利ナキヲハ普通ノ法理ナルニ原控訴院カ期
 限後金圓ヲ拂渡サスト云フカ如キハ頗ル例外ノ事ニ屬スルヲ以テ云
 々ト判定シタルハ法理ニ適セサル裁判ナリトノ事ニ在リ然レモ大審
 院ハ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシト認め受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク第一條上告第一二項ヲ按スルニ原裁判所カ本件ニ對シ
 直チニ銀行條例第四百條ヲ援引セシハ穩當ナラスト雖モ銀行支店閉
 鎖ニ付世上ニ廣告ノ必要ナルヲハ上告人モ既ニ認ムル所ナリ而シテ
 上告人ハ其廣告ヲ爲シタリトノ確證ヲ舉示セサリシヨリ世人ニ對シ
 テハ閉店後ト雖モ猶閉店前ト同視スヘキモノナリトノ旨趣ニ判定セ
 シハ非難スヘキニ非ス左スレハ條例第四百條ヲ直チニ援引セシハ聊
 不穩當ナルモ之ヲ以テ原裁判ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス
 第二條 同第三項ヲ按スルニ上告銀行ノ取締役タル菊地久馬ノ所爲
 ヨリシテ銀行ノ營業上他人ニ被ラシメタル損害ヲ上告銀行カ負擔ス
 可キハ當然ナレハ本件ニ於テ久馬ニ不正ノ所爲アルヤ否ヤノ事實ヲ
 審究スルノ必要ナシ故ニ原裁判所カ久馬ヲ引合人トシテ喚問セサル
 モ事實ヲ定メサルノ不法アリト云フヲ得ス
 第三條 同第四項ヲ按スルニ久馬ハ取締役ニシテ支店ニ出張シタル

上ハ支店事務ノ全權ヲ有スルハ勿論ナレハ原裁判所カ銀行條例第六十四條ニ恰當スルモノト認メタルハ當然ニシテ非難ス可キ筋ナク隨テ手形ノ性質ヲ審究ス可キ必要ナシトス

第四條 同第五項ヲ按スルニ銀行ノ役員カ銀行ノ營業上ニテ取扱ヒシ事柄ヨリ生シタル他人ノ損害ヲ銀行ニ於テ負擔ス可キノ當然ナルコトハ前二條ニ辯明セシ如クナレハ原裁判ハ事實理由ニ齟齬アリト云フ得ス

第五條 同第六項ヲ按スルニ上告人ハ甲第一號證ニ記載アル期限ヲ以テ流通期限ト爲シ論告スルモ原裁判所ハ該證ノ期限ヲ以テ拂渡期限ト看做セシモノナリ左スレハ本條ハ原判旨ニ副ハサル論告ナルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス

第六條 同第七項ヲ按スルニ豫審終結ノ言渡シハ罪ノ有無ニ關シ言渡タルモノニシテ民事上義務ノ有無ヲ判定セシモノニアラス依テ原

裁判ハ法律ニ違フ所ナシトス

第七條 同第八項ヲ按スルニ元無利息ノ契約タリト雖モ義務者拂方ノ催促ヲ受ケ尙之ヲ怠リタル時ハ利子ヲ生スル事ハ法律ノ規定スル所ナリ依テ原裁判ハ違法ニ非ス

又轉讓讓與スルヲ得ヘキ金圓ノ預リ手形ヲ振出シタル上ハ其持主ニ對シ仕拂ノ義務アル事當然ニシテ實際金圓ヲ預カラスト云ヲ以テ其義務ヲ免カル、ヲ得ス依テ本項ノ論告モ亦上告ノ理由ナキモノトス

第八條 同第九項及ヒ第十項ヲ按スルニ本項ノ論告ハ前第三項及ヒ前第五項ノ論告ニ對スル辯明ニテ理會シ得ヘキ筈ニ付別ニ辯明ヲ與ヘス

第九條 同第十項ヲ按スルニ原判文ヲ閱スルトキハ上告人カ抗辯ノ理由トセシ旨申立ツル所ノ三個ノ點ヲ排斥シアルヲ以テ原裁判ノ理由ニ齟齬アリト云フヲ得ス

第十條 同第十二項ヲ按スルニ本項ハ前第六項ノ論告ニ對スル辯明ニテ理會ス可キニ付別ニ辯明ヲ與ヘス

○賣掛代金請求ノ件 明治十九年 第百七十八號

東京府芝區西久保櫻川町七番地平民洋酒商梶原英作後見人梶原吉左衛門 代言人村越廣太郎 ヨリ同府京橋區竹川町十七番地平民牛肉商廣岡幾次郎ニ係ル

初審 芝區治安裁判所
終審 東京始審裁判所

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ

上告甲第一號證

本證ハ明治十八年一月ヨリ十二月マテ一ケ年間ノ附込期限ニテ上告被後見人梶原英作ヨリ被上告人廣岡幾次郎ニ宛タル洋酒類ノ通帳ニシテ其初筆ニ第一月三十日ノ二月二日改メ殘額金若干圓也ト

掲ケ以下二月ヨリ九月ニ至ル賣掛ヲ記載シ毎月初筆ノ金額ヲ合シテ領收金ノ差引ヲ立テタルモノナリ然レモ其本文ヲ掲クルノ必要ヲ認メサレハ之ヲ畧ス

本件ハ上告人梶原吉左衛門 初審原告ニ於テ被上告人廣岡幾次郎 初審被告ニ對シ明治十九年一月七日ヲ以テ甲第一號證賣掛代金即チ該通帳ノ終尾ニ掲ケタル差引殘金ノ請求ヲ起訴シタルモノナルモ被上告人ニ於テハ甲第一號證ノ初筆ニ掲ケタル金額ハ明治十七年中ノ取引殘額ニシテ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナレハ今更ラ請求ヲ受クヘキ條理ナク上告人ハ只明治十八年ノ取引殘金若干圓ノ外義務ナキモノナリト主張シ其所爭ハ甲第一號證初筆ノ金額ハ出訴期限ヲ經過シタルモノナリヤ否ノ一點ニ販着シタリ初審裁判所ハ該金額ハ甲第一號帳簿ニ記載シ明治十八年ノ取引ニ連續シタルモノナレハ其出訴期限ハ右取引ノ終尾ヨリ起算スヘキモノニ付未タ出訴期限ヲ經過セ

シモノニアラスト判定シ上告人ノ勝訴ト爲セシモ終審裁判所ハ被上告人ニ於テハ甲第一號證初筆ノ金額ハ双方間ニ取引ヲ廢スルモ受取ルヘキ約ナリシト陳スレモ之レカ證左ノ認ムヘキモノナク又該金額ハ明治十八年ノ取引ニ繼續シタルモノナレハ出訴期限ヲ經過シタルニアラスト申立レモ斯ク繼續シタルト否トニ拘ハラズ該金額ノ明治十七年度ノ取引殘金ナルコトハ双方ノ共述ニ照シテ明ナレハ既ニ商人間ノ賣掛代金ニ關スル六ヶ月ノ期限ヲ經過シタルモノニ付明治十八年ノ賣掛代金若干圓ノ外上告人ハ其權利ヲ失フタルモノナリト初審ノ裁判ヲ平翻シタルヲ以テ上告人ハ甲第一號十八年度ノ通帳ニ該金額ヲ登記シタルハ双方承諾ノ延期契約ト其効ヲ均フスルモノナレハ未タ出訴期限ヲ經過シタルモノニアラストノ事及但書ヲ以テ甲第一號證初筆ノ金額ハ之ニ繼續シテ十八年度分ヲ登記シ其合金高ニ對シ屢內金ヲ差入レアレハ區別スルヲ得サル計算ニシテ其實十八年度分

ナリト事ヲ附記シ以テ原裁判ノ不法ナルコトヲ上告シタリ依テ大審院ハ原裁判ヲ不法ノモノト認メ之ヲ破毀シタリ

其理由ニ曰ク本件ハ甲第一號證冒頭ニ記載セシ金額ニ對シ出訴期限規則第一條ヲ適用スヘキモノナリヤ否ヲ判定スルニ在リ依テ按スルニ辨濟充用ノ方法ハ新タナル負債ヨリモ舊キ負債ニ充用ス可キモノト看做スヲ一般ノ通法トス然レハ甲第一號證通帳冒頭ノ金額ハ前年分ノ殘額ナルモ其後追々入金ナリタレハ前年分ノ殘額ハ既ニ償却シ即今求ムルモノハ皆十八年度ノ賣掛代金ト看做サ、ル可カラサルモノナリ然ルヲ原裁判所カ一概ニ入金ヲ新規賣掛代金ニ拂入レタルモノト看做シ特ニ冒頭ノ金額ニ對シ出訴期限規則第一條ヲ適用セシハ不法ナリトス

○賣掛代金催促ノ件 明治十九年
第二百三十號

福島縣岩代國信夫郡福島南裡五丁目平民佐藤藤吉 代言人 佐ヨリ
藤終吉

同縣同國安達郡二本松町字下ノ町平民商榮七相續人柳沼榮吉外
壹名ニ係ル

初審 福島始審裁判所

終審 宮城控訴院

本件ハ被上告人柳沼榮吉先代榮七外壹名初審原告ニ宛テ上告人佐藤藤吉初審被告代理小林專助ト署名捺印シタル鹽鯉代金ノ證書及上告人ヨリ專助ヘ宛タル數通ノ書翰ヲ掲ケ被上告人等ニ於テ上告人ニ對シ鹽鯉若干俵ノ賣掛代金ヲ請求スルニ在ルモ上告人ニ於テハ之ニ反シ上告人ハ生糸商業者ニシテ魚商ニアラサレハ絶テ專助ヲ代理トシテ被上告人等ト斯ル取引ヲ爲シタルコトナク又被上告人等カ提供シタル書翰ハ專助ヨリ頼談ヲ受ケタル金策ノ成ラサルコトヲ文通シタルモノナリト其請求ニ應シ難キ旨主張シタリ然ルニ初審裁判所ハ右書翰ノ文詞ニ依レハ上告人ハ魚類ノ商業ヲモ爲スモノニシテ被上告人等

ヘ拂フヘキ金員アルカ爲メニ文通セシモノナルハ之ヲ觀ルヘキモ專助ヘ貸與スヘキ金策ノ爲ナリトハ認め難シ是ニ由テ考フレハ被上告人等ノ提供スル證書ハ上告人カ專助ヲシテ被上告人等ト取引ヲ爲サシメ爲ニ代理名義ヲ以テ之ヲ差入レタルモノト推測スルニ足レリト判定シ終審控訴院ハ其判文第一項ニ於テ右書翰ノ文詞ハ上告人ニ於テ他人ニ對シ自己ノ義務アリテ專助ヨリ其事ニ付通信ヲ受ケ之ニ答ヘタル文意ナリト解釋シ其第二項ニ於テ上告人ハ其一號證本證ハ所上告人指令ニ保照願ニ對シ上告人モ必要ナケレハ署スヲ以テ魚類商ニアラスト論スレト右書翰ノ文詞ニ據レハ縱令ヒ公然タル魚類商業ノ者ニハアラストスルモ魚類ノ取引ヲモ爲ス者タルコトハ推測スルニ足レリト爲シ其第三項ニ於テ引合人專助ノ陳述ト右書翰ノ文詞トヲ併セ考レハ上告人ハ平生專助ノ爲メ資本ヲ供給シ其賣買ハ上告人自ラ之ヲ爲シ來リ本訴ノ鹽鯉ニ於テモ亦同様上告人ト被上告人等トノ間ニ

於テ之ヲ賣買シタルモノト推測セサルヲ得スト爲シ其第四項ニ於テ
 以上説明ノ如クニ付良シ當時代理ノ明任ナシトスルモ右書翰ノ文意
 ヲ推セハ上告人ハ被上告人等ニ對シ拂金ヲ爲スヲ契約シタルモノ
 ニシテ即チ本訴ノ鹽引ハ專助商業ノ爲メ買入タルモノナルモ其代金
 ハ上告人ヨリ可拂渡旨定約シタルモノナレハ上告人ハ今更其拂渡ヲ
 拒ムヲ得サルモノト爲シ其第五項ニ於テ上告人ハ其六號證本證ハ
 助ヨリ柳沼榮七被上告人先代ニ宛クル本訴鹽引代ノ文詞ヲ以テ本訴
 金ニ關スル書翰ナルモ是亦強テ必要ナケレハ略スノ證書ハ專助ノ負債ナリト云フモ前説明ノ如ク縱令其實專助ノ負債
 ナリトスルモ被上告人ニ對シ其拂方ヲ契約シタル以上上告人ハ其義
 務ヲ免ル、ト得スト判定シ共ニ上告人ノ敗訴ニ皈セシヲ以テ上告
 人ハ之ヲ不法トシテ上告シタリ即チ其要領ハ第一條本訴ノ證書ハ小
 林專助カ上告人ノ名義ヲ濫用シタルモノニシテ上告人カ之ヲ委任シ
 タルニアラサル^トハ之ニ對スル委任狀ヲ與ヘサリシ事實ニ於テ明白

ナルニ原控訴院カ被上告人等ニ關係ナキ書翰ニ據リ之ヲ上告人カ專
 助ヲ代理トシテ差入タルモノト誣ヒタルハ不當ノ裁判ナリトノ事第
 二條原判文第二項ハ取モ直サス上告人ヲ魚類商兼業者ナリト謂フニ
 外ナラサレハ原裁判ハ官吏カナシタル公正證書ヲ無効ニ皈セシメ事
 實ナキヲアリト見做シタル不當ノ判定ナリトノ事第三條被上告人
 等カ提出シタル書翰ヲ以テ假令上告人カ鹽鮭代金ノ仕拂ヲ承諾シタ
 ルモノトスルモ這ハ上告人ト專助トノ間ニ成立タル契約ナレハ之ニ
 關係ナキ被上告人カ直接ニ上告人ニ向テ請求スルノ權利ナキハ法理
 ニ於テ明白ナルニ原控訴院カ何等ノ契約ヲモ爲サ、ル上告人ニ對シ
 被上告人等へ對シ拂金ヲ爲スヲ契約シタルモノト判決セシハ不當
 ノ誤判ナリトノ事第四條原控訴院ノ判定ニ依レハ本訴ノ金圓ハ商人
 相互ノ賣掛代金ナリ然ラハ被上告人カ本訴ノ勸解ヲ出願シタルハ返
 濟期限後八ヶ月ヲ經過シタル後ニ係レハ出訴期限規則ニ依リ既ニ其

義務ヲ免カレタルモノニ付原控訴院カ之ヲ拂渡スヘシト判決シタルハ不當ノ裁判ナリトノ事及擴張書ヲ以テ第一條原裁判ハ其判文第一項乃至第三項ニ於テハ上告人カ最初ヨリ小林專助ヲ代理トシテ本訴鹽鮭ヲ賣買セシメ從テ其義務ヲ認め居ルモノ、如ク説明シ其第四項ニ於テハ上告人カ小林專助ニ於テ代理名義ヲ濫用シタルヲ後ニ追認シタルモノト看做タル如ク又其第五項ニ於テハ上告人カ小林專助ノ爲ニ其負債ノ拂方ヲ契約シタルモノナリト看做シ其説明一途ニ販着セサルトノ事第二條上告第六號證ハ上告人カ原控訴院ニ對シ特ニ之ヲ舉テ義務ナキヲ證明シタルモノナルニ原控訴院ハ何等ノ説明ヲモ下サス之ヲ擯斥シタリトノ事第三條原控訴院ハ兩造間曾テ何等ノ契約セシコナキニ其判文第五項ニ於テ被告上告人ニ對シ其拂方ヲ契約シタリト判定シタリトノ事ニ在ルモ大審院ハ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシト認め受理セスト判決シタリ

其理由ニ曰ク上告第一條ヲ按スルニ委任狀ハ其委任ノアリシコトヲ明確ナラシムル迄ノ者ニ付他ニ之ヲ證明ス可キ證據ノ存スル場合ニハ委任狀ナシト雖モ其證據ニ依テ其人ヲ代理ト看認ムルコトヲ得ヘキ者トス而シテ上告人ヨリ專助ヘ差送リタル書翰ヲ以テ專助カ上告人ノ代人タルコトヲ看認ムルノ材料ニ供シタルコト及ヒ右書翰ノ解釋ニ關スル論告ハ原裁判所ノ權内ニ立入り事實ノ認定證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キスシテ上告ノ理由ナキモノトス

同第二條ヲ按スルニ所轄戶長ノ指令ヲ以テ公正ノ證書ト云フヲ得ス然ラハ本條ハ事實認定上ノ非難ニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス

同第三條ヲ按スルニ本條モ亦代金拂入レノ定約ヲ爲スモノナリトノ事實ノ認定ニ對シ不當ノ誤判ナリトノ論告ニシテ事實認定上ノ非難ニ付上告ノ理由トナスヲ得ス

同第四條ヲ按スルニ本條ノ論告ハ原裁判所ヘ申立テサル事柄ナルヲ

以テ原裁判ヲ非難スルノ材料ト爲スヲ得ス
 同擴張書ヲ按スルニ其第一點ハ原裁判所ノ假設ノ説明ヲ非難スルモ
 ノナレトモ本論ト假設論ト理由ノ異ナルハ勿論ナルヲ以テ裁判ノ理
 由ニ齟齬アリト云フヲ得ス其第二點ハ乙第六號證ニ對シ理由ノ明示
 ヲ欠クトノ論告ナルモ是等ハ證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キス其第三
 點ハ契約ナキモノヲ契約アリト判定シタルトノ論告ナレトモ前第一條
 ノ如ク原裁判所ハ原被間ニ契約アリトノ事實ヲ認定シタルヲ以テ契
 約アリト判定シタルハ當然ナリトス

○工事受負金并附帶損害要求ノ件 明治十九年
第二百四十六號

大阪府西區江戸堀下通二丁目四拾六番地平民島藤兵衛外壹名 代
言
 人河ヨリ福井縣越前國丹生郡梅浦村ニ係ル
 村訟

初審 福井始審裁判所
 終審 大阪控訴院

本件ニ必要ナル證據書類ハ左ノ如シ
 上告甲第五號證

原告 上告人等

工事請負金并損害金請求御勸解御願下

被告 被上告村發起總代三名

私共前日安御勸解奉願候處御説諭前下方爾談ノ上被告ニ於テ本願
 金額ハ今十五日中ニ調達仕リ必ス濟方致度旨申立ルニ付此上御勸
 解奉受候テハ却テ恐縮ノ次第ニ御座候間本願ハ一御差下之様奉願
 候也

明治十六年十二月十五日

福井治安裁判所長宛

本件ハ上告人島藤兵衛外壹名 初審原告
終原被告ヨリ被上告梅浦村 初審被告
終原被告ニ
 對シ起訴シタルモノニシテ其請求ノ要旨ハ上告人等ハ被上告村ヨリ